

令和 4 年度名古屋大学大学院文学研究科  
学位（課程博士）申請論文

連用形が名詞化可能な語彙的複合動詞に関する研究

名古屋大学大学院文学研究科  
人文学専攻言語学専門

瀧 豊丹

令和 5 年 2 月

## 目次

<b>第1章 序論</b> .....	<b>1</b>
1.1 研究の目的.....	1
1.2 考察の対象.....	1
1.3 論文の構成.....	2
<b>第2章 先行研究</b> .....	<b>3</b>
2.1 はじめに.....	3
2.2 複合動詞の種類や結合条件に関する体系的研究.....	3
2.2.1 寺村説（1969, 1984）.....	3
2.2.2 長嶋説（1976, 1997）.....	4
2.2.3 山本説（1984）.....	5
2.2.4 石井説（1983, 1984, 1988, 1992）.....	6
2.2.5 影山説（1993, 1996, 2013）と姫野説（1999, 2001）.....	6
2.2.6 由本説（1996）と松本説（1998）.....	9
2.2.7 張説（2020）.....	10
2.3 複合動詞の意味関係や意味用法に関する意味論的研究.....	10
2.3.1 森田説（1994）.....	10
2.3.2 影山・由本説（1997）.....	11
2.3.3 松本説（1998）.....	11
2.3.4 寺村説（1982）と新美・山浦・宇津野説（1987）.....	12
2.3.5 姫野説（1999）.....	12
2.3.6 斎藤説（1985, 1992）と李説（1997）.....	12
2.3.7 今井説（1993）.....	13
2.3.8 劉説（1995）.....	13
2.3.9 中村説（1998）.....	14
2.3.10 松田説（2000, 2001, 2002, 2004, 2006）.....	16
2.3.11 杉村説（2005, 2006, 2007, 2010, 2011, 2012, 2013, 2016）.....	16
2.3.12 李説（2009）.....	17
2.4 動詞連用形の名詞化に関する研究.....	18
2.5 本章のまとめと問題所在.....	22

<b>第3章 「VV型」語彙的複合動詞の連用形が名詞化する状況の考察</b> .....	<b>23</b>
3.1 はじめに.....	23
3.2 「VV型」語彙的複合自動詞の連用形が名詞化する状況.....	24
3.2.1 非意志的複合自動詞の連用形が名詞化する状況.....	24
3.2.1.1 辞書によって抽出された非意志的複合自動詞の名詞化状況.....	24
3.2.1.2 コーパスによって抽出された非意志的複合自動詞の名詞化状況.....	27
3.2.1.3 抽出された非意志的複合自動詞の名詞化状況のまとめ.....	29
3.2.2 意志的複合自動詞の連用形が名詞化する状況.....	31
3.2.2.1 辞書によって抽出された意志的複合自動詞の名詞化状況.....	31
3.2.2.2 コーパスによって抽出された意志的複合自動詞の名詞化状況.....	34
3.2.2.3 抽出された意志的複合自動詞の名詞化状況のまとめ.....	36
3.2.3 抽出された「VV型」語彙的複合自動詞の名詞化状況のまとめ.....	37
3.3 「VV型」語彙的複合他動詞の連用形が名詞化する状況.....	39
3.3.1 辞書によって抽出された語彙的複合他動詞の名詞化状況.....	39
3.3.2 コーパスによって抽出された語彙的複合他動詞の名詞化状況.....	48
3.3.3 「VV型」語彙的複合他動詞の名詞化状況のまとめ.....	53
3.4 本章のまとめ.....	56
<b>第4章 名詞化できる「VV型」語彙的複合動詞にある特徴についての調査結果</b> .....	<b>58</b>
4.1 はじめに.....	58
4.2 本章に関わる先行研究の略述.....	58
4.2.1 影山「他動性調和の原則」(1993).....	58
4.2.2 影山・由本「語彙概念構造」(1997).....	59
4.3 連用形が名詞化できる語彙的複合自動詞にある特徴.....	60
4.3.1 「他動性調和の原則」に基づく前後項動詞の構造から見る.....	60
4.3.2 「語彙概念構造」に基づく前後項動詞の意味関係から見る.....	63
4.3.3 前項と後項動詞の連用形の名詞化の状況から見る.....	65
4.3.4 連用形が名詞化できない語彙的複合自動詞にある特徴の略述.....	68
4.3.5 本節のまとめ.....	70
4.4 連用形が名詞化できる語彙的複合他動詞にある特徴.....	71
4.4.1 「他動性調和の原則」に基づく前後項動詞の構造から見る.....	71

4.4.2	「語彙概念構造」に基づく前後項動詞の意味関係から見る.....	74
4.4.3	前項と後項動詞の連用形の名詞化の状況から見る .....	78
4.4.4	連用形が名詞化できない語彙的複合他動詞にある特徴の略述.....	82
4.4.5	本節のまとめ .....	87
4.5	本章のまとめ .....	88
<b>第5章</b>	<b>生産性が高い後項動詞を持つ名詞化可能な「VV型」語彙的複合動詞の特徴傾向</b> .....	<b>91</b>
5.1	はじめに.....	91
5.2	先行研究に基づく本章後項動詞の分類.....	91
5.3	生産性が高い後項動詞を持つ名詞化可能な語彙的複合動詞の特徴傾向.....	93
5.3.1	「使役変化動詞」類の後項動詞から見る .....	94
5.3.2	「活動動詞」類の後項動詞から見る .....	98
5.3.3	「変化動詞」類の後項動詞から見る .....	99
5.3.4	本節のまとめ .....	101
5.4	抽出した生産性が高い後項動詞を持つ名詞化不可の「VV型」語彙的複合動詞と の対照.....	101
5.5	本章のまとめ .....	102
<b>第6章</b>	<b>「VV型」語彙的複合動詞の連用形名詞の意味や分布についての考察</b> .....	<b>103</b>
6.1	はじめに.....	103
6.2	本章に関わる先行研究の略述.....	103
6.3	「VV型」語彙的複合動詞の連用形名詞の分類についての考察.....	105
6.3.1	「VV型」語彙的複合動詞の連用形名詞の意味分類.....	105
6.3.2	「VV型」語彙的複合動詞の連用形名詞の意味分類についての調査結果と 考察.....	106
6.3.3	「VV型」語彙的複合動詞の概念構造の視点から連用形名詞の意味分布を 見る.....	110
6.3.4	「VV型」語彙的複合動詞の概念構造の視点から見る連用形名詞の意味分 布の考察.....	110
6.4	本章のまとめ .....	115
<b>第7章</b>	<b>結論</b> .....	<b>116</b>

---

7.1 研究成果.....	116
7.2 今後の課題.....	118
<b>参考文献.....</b>	<b>120</b>
付録I 『複合動詞レキシコン』から抽出した非意志的複合自動詞のまとめ.....	127
付録II 『複合動詞レキシコン』から抽出した意志的複合自動詞のまとめ.....	130
付録III 『複合動詞レキシコン』から抽出した複合他動詞のまとめ.....	132

## 第1章 序論

### 1.1 研究の目的

名詞と動詞は言語における最も基本的な品詞類として、お互いに転換できる場合がよくある。その中で、動詞が名詞に転成することは「名詞化」と呼ばれ、語形成の手段「品詞の転成」の一種として日本語ではよく用いられる。ただし、他の言語と異なり、日本語の一部の動詞は語尾の変化によって、動詞の連用形がそのまま名詞として使われ、これが最も簡単な動詞を名詞化する方法である（西尾 1961, 影山 2011）。それは、単純動詞でも複合動詞でも同じだと思われる。動詞+動詞型の複合動詞についての従来の研究は多様であるが、これらの複合動詞の名詞化、すなわち複合動詞の連用形が名詞に転成する現象についての研究はあまり見られない。また、動詞の名詞化については、現有の研究は主に動詞が転成した連用形名詞を中心に行われてきたが、名詞に転成できる動詞に関する研究はまだ少なく、特に動詞+動詞型の複合動詞についての注目はあまり見られない。そこで、本研究は動詞+動詞型の語彙的複合動詞を中心に取り上げ、それらの連用形が名詞に転成する状況を考察し、さらに連用形が名詞化できる語彙的複合動詞が持つ特徴をまとめる。日本語の複合動詞とその名詞化は、外国人学習者にとって特に複雑で難しい課題であるため、この研究は日本語を第二言語として勉強している言語学習者の日本語習得にも貢献する。

### 1.2 考察の対象

本研究は国立国語研究所が開発したデータベース『複合動詞レキシコン』を用いて研究を行う。このデータベースは、現代日本語でよく使用される動詞+動詞型の語彙的複合動詞だけを収録している。『複合動詞レキシコン』に収集された動詞+動詞型の複合動詞は、

さらに複合動詞の語構造(前項動詞と後項動詞の格関係を表示)により四種類(「VV型」「Vs型」「pV型」「V型」)<sup>1</sup>に分類することができる。また、品詞性に基づき、自動詞(意志的と非意志的)と他動詞に分けられる。本研究はそれらのうち最も典型的な複合動詞と考えられる「VV型」の複合動詞(計1594語)を考察対象とし、それらの複合動詞の連用形が名詞に転成する状況を考察し、名詞化できる複合動詞が持つ特徴を分析する。

### 1.3 論文の構成

本研究は、本章を含めて全七章から成る。第1章は序論として、研究の目的や研究の対象について述べた。第2章では、本研究に関わる動詞+動詞型の複合動詞と動詞連用形の名詞化についての先行研究を概観する。第3章では、辞書とコーパスにより「VV型」語彙的複合動詞の名詞化状況を考察して、次章以降で特徴を考察する名詞化できる語彙的複合動詞対象語を抽出する。第3章の考察は、第4章以降の分析の基礎を築くものである。第4章と第5章では、それぞれ考察する語彙的複合動詞を自他動詞の品詞類と語彙的複合動詞の後項動詞によって分類し、それらの名詞化できる語彙的複合動詞の内在特徴を異なる視点から分析してまとめる。第6章では、第4章と第5章で前述分析した語彙的複合動詞の連用形から成立した名詞を意味的に分類して論じる。最後に、第7章では、まとめとして、本研究によって解明されたことを総括し、全体の結論を示し、今後の課題を提起する。なお、第3章、第4章は、[瀋\(2023\)](#)に基づいている。

---

<sup>1</sup>『複合動詞レキシコン』の語構造分類の説明によれば、収集された複合動詞は、「VV(動詞+動詞)型」「Vs(動詞+補助的な動詞)型」「pV(接頭辞型化した動詞+動詞)型」と「V(一語化)型」の4種類に分類され、それぞれ品詞類として他動詞、自動詞と自動詞(意志的)に分けられている。その中で、「VV型」複合動詞は「2つの動詞がそれぞれ本来の意味と格関係を持つ」ため、最も典型的な複合動詞と考えられる。

## 第2章 先行研究

### 2.1 はじめに

本研究で言及する現代日本語の複合動詞は「泣き叫ぶ、話し始める、受け取る、洗い出す」のような動詞と動詞が結合した複合語を指し、狭義の複合動詞である。このような動詞は複合という語形成の方法で二つの動詞から形成されるが、各動詞が果たす役割には違いがあり、二つの動詞の間関係も非常に複雑である。また、動詞+動詞型の複合動詞は非常に数が多く、日本語の語彙の中でも重要な部分として、従来から研究が盛んに行われてきた。本章では本研究が扱う日本語の動詞+動詞型の複合動詞の種類や結合条件にかかわる体系的な研究、複合動詞の前後項の意味関係や構成要素の意味用法にかかわる意味論的研究の二つの面に分けて、動詞連用形の名詞化に関する先行研究を概観し、その問題点を指摘する。

### 2.2 複合動詞の種類や結合条件に関する体系的な研究

まず、複合動詞の分類と結合条件に関する先行研究を見る。複合動詞の種類や結合条件に関しては、寺村（1969, 1984）、長嶋（1976, 1997）、山本（1984）、石井（1983, 1984, 1988, 1992）、影山（1993）、姫野（1999, 2001）、由本（1996）や松本（1998）などの先行研究があり、複合動詞の様々な分類が試みられている。

#### 2.2.1 寺村説（1969, 1984）

寺村は、複合動詞の前項動詞と後項動詞が、複合動詞を形成後も、それぞれが単独で使われる場合の意味や文法特徴を保っているかどうかにより、複合動詞を次の4種類に分類している。

- (1) a. 自立語 V + 自立語 V（例：出迎える、殴り殺す、握りつぶす、呼び入れる）  
二つの動作を連結して表し、前項も後項も自立語の意味を保っている。
- b. 自立語 V + 付属語 v（例：思い切る、泣き出す、降り始める、呼びかける）  
前項が動詞のあり方を限定し、後項は自立語の意味を失っている。
- c. 付属語 v + 自立語 V（例：打ち樹てる、差し出す、引き返す、振り向く）

接頭語化した前項が後項にニュアンスを付け加えている。

- d. 付属語 v+付属語 v (例: (話を) 切り上げる、(仲を) 取りもつ、払い下げる)  
前項も後項も自立語の意味を失い、前項と後項を分離することができなくなるな  
っている。

(1)で、複合動詞の自立語 V は元の単純動詞の意味を保っているのに対し、付属語 v は単純動詞として使われた場合の本来の意味を失い、本来の意味とは異なる意味を表している。そして、これらの4つのタイプのうち、a と b の方は生産性が高い一方、c と d の方は生産性が低いと指摘している。

寺村 (1969, 1984) の研究は後の研究者に大きな影響を与えた。しかし、自立語と付属語との境界線に関しては言及しておらず、その要素が自立語か、それとも付属語かを判断することが難しい。付属語はみな自立語から発展してきたものとも考えられるため、自立語か付属語か言い切れない。

### 2.2.2 長嶋説 (1976, 1997)

長嶋は動詞が名詞を支配するかどうかにより、複合動詞を次の二つのタイプに分類した。

- (2) I 類: v1+V2 (修飾要素+被修飾要素)

「N が (を・に) v1」 と 「N が (を・に) V2」 の両方が言えるもの。

例: 木を切り倒す→木を切る (V1) ・木を倒す (V2)

- II 類: V1+v2 (被修飾要素+修飾要素)

「N が (を・に) V1」 だけ言えて、「N が (を・に) v2」 は言えないもの。

例: 犬が子供に噛み付く→犬が子供を噛む (V1) ・\*犬が子供につく (V2)

(2) に示したように、I 類では V2 が、II 類では V1 が意味の中心になっている。また、長嶋 (1997:219) は「このほかに、V1 と V2 の間にこのような従属関係のない、いわば二つの動詞が対等の関係にあると考えられる複合動詞がある」と述べている。例えば「飛び跳ねる」、「泣き叫ぶ」といった複合動詞がこれに該当する。I 類の動詞「刺し殺す」や II 類の動詞「売り尽くす」は、例えば、「刺し殺す」→\*刺したり殺したりする、「売り尽くす」→\*売ったり尽くしたりする、のように、「～たり～たりする」という形で使うことは

できない。それに対して、「飛び跳ねる」や「泣き叫ぶ」はそれぞれ「飛んだり跳ねたりする」「泣いたり叫んだりする」と言い換えられる。このような言い換えができる複合動詞のV1とV2の間には修飾・被修飾の関係はない。

斎藤・石井(1997)では、長嶋の分類は、I類とII類の分類基準を明示した点で寺村を一步前進させたものと評価されている。その一方で、他の類型についての言及がないという指摘もある。

### 2.2.3 山本説 (1984)

前小節の寺村と長嶋の研究を踏まえて、山本(1984)は、「動詞+動詞」型の複合動詞が、前項動詞および後項動詞の格成分とどのように結びつくかに基づき、複合動詞における格支配<sup>2</sup>について考察し、複合動詞の格成分と前項動詞および後項動詞の格成分の対応によって、以下の4類型に複合動詞を分類した。

(3) I類：前項動詞も後項動詞も、複合動詞と同じ格支配関係を持ち、同じ名詞成分と結びつく。

例：抱きかかえる、投げ捨てる、光り輝く、降り積もる

II類：前項動詞だけが複合動詞と同じ格支配関係を持つ。

例：静まり返る、食べすぎる、走り通す、見上げる

III類：後項動詞だけが複合動詞と同じ格支配関係を持つ。

例：打ち破る、差し迫る、引き起こす、振り仰ぐ

IV類：前項動詞も後項動詞も、複合動詞と異なる格支配関係を持ち、同じ名詞成分と結びつかない。

例：打ち解ける、繰り返す、取り締まる、引き立つ

松田(2004:16)は、寺村の分類が「意味的な観点」に基づいているのに対して、山本は「前項動詞と後項動詞の格支配が互いにどのように関連しているか」という「統語的観点」から分類を試みており、複合動詞の分類基準がより客観的なものになったことを評価して

<sup>2</sup>「<格支配>とは、動詞の名詞句との共起制限のことであり、まさに動詞の統語的機能に他ならない。そして、ある動詞がどれだけの数の名詞句を格支配するかを<結合価>といい、支配される名詞句を<格成分>と呼ぶ。」(山本 1984:34)

いる。

#### 2.2.4 石井説 (1983, 1984, 1988, 1992)

以上のような記述的な研究に対して、石井 (1983, 1984, 1988, 1992) は、複合動詞を構成する動詞の「他動性・自動性」「意志性」「アスペクト」などといったカテゴリー的な意味を手がかりに、語構造の観点から複合動詞の構成を明らかにしようとし、複合動詞の最も基本的なパターンは「実現—結果」だとしている。

#### 2.2.5 影山説 (1993, 1996, 2013) と姫野説 (1999, 2001)

影山 (1993: 79) は、「語形成」という観点から「動詞+動詞」型の複合動詞の「派生過程」に注目し、複合動詞を「統語的複合動詞」と「語彙的複合動詞」の二種類に大きく分けている。このうち、「意味の透明性と生産性において、典型的な語よりむしろ普通の文や句に近い性質を備えている」ものが「統語的複合動詞」で、統語的な補文構造形式に由来している。一方、「語彙的複合動詞」は、「意味の慣習化」により意味の不透明化や語彙化を被っていて、「典型的なく語」の特徴—意味の慣習化と語彙的な結合制限を備えている」と指摘されている。

影山 (1993: 80-97) はまた、この区別とは別に、五種類の統語的テスト (1. 代用形「そうする」との置換、2. サ変動詞の使用、3. 主語尊敬語化、4. 受身化、5. 重複構文化) を用いて、前項動詞にこれらのテストが適用できるか否かによって分類を行い、統語的操作が可能なものを統語的複合動詞、統語的操作が語彙的な結合制限により不可能なものを語彙的複合動詞とした。ただし、「流れる」「倒れる」のような、動作主の意志が反映されない自動詞を前項動詞として持つ複合動詞に対して、主語尊敬語化、受身化、重複構文化のテストは適用できない。一方で、「そうする」による置換とサ変動詞の使用に関するテストはあらゆるケースで適用可能なので、姫野 (1999: 18, 2001: 9) は、複合動詞分類の基準として有効なのは後者だと指摘している。

このようにして、影山は統語的複合動詞を形成しうる後項動詞として 27 語を挙げたが、姫野 (1999: 19, 2001: 7) は、さらに「-かかる」「-果てる」「-そこねる」の 3 語を付け加えた。合わせて 30 語を意味で分類すると(4)のようになる。

- (4) 始動 : -かかる・-かける・-だす・-始める  
 継続 : -続ける・-まくる  
 完了 : -終わる・-終る・-きる・-尽くす・-通す・-抜く・-果てる  
 未遂 : -あぐねる・-誤る・-遅れる・-かねる・-そこなう・-そこねる・-  
           そびれる・-損じる・-残す・-忘れる  
 過剰行為 : -過ぎる  
 再試行 : -直す  
 習慣 : -飽きる・-つける・-慣れる  
 相互行為 : -合う  
 可能 : -得る

また、「語彙的複合動詞」に関して、影山（1993: 117）は、複合動詞は項構造に基づいて形成されると考え、動作の主語を「外項」、目的語を「内項」と呼び、まず、日本語の動詞を、(5)のように他動詞、非能格動詞と非対格動詞の三種類に分けた。

- (5) ①他動詞の項構造 :  $x < y >$  例 : 読む・割る  
 ②非能格自動詞 :  $x < >$  例 : 歩く・走る  
 ③非対格自動詞 :  $< y >$  例 : 折れる・割れる

そして、影山（1993）は、「語彙的複合動詞」の組み合わせは外項の有無と関係があり、原則として、語彙的複合動詞は、外項を取る動詞（他動詞と非能格自動詞）同士か、外項を取らない動詞（非対格自動詞）同士によって作られる制約があるとして、それを「他動性の調和の原則」と呼んだ。

非能格自動詞には、自動詞のうち、主語の意図的な動作・行動を表す動詞、人間の生理的な活動を表す動詞が分類される。一方、非対格自動詞には、主として、主語の状態や位置が変化することを表す動詞が分類される。自分の意思で動作するのではなく、自然に何らかの変化を被るものが非対格自動詞の主語になる（影山 1996）。

影山（1993）によれば、複合動詞に、(6) が示すように、他動詞同士、非能格自動詞同士、非対格自動詞同士の組み合わせと、他動詞と非能格自動詞が混ざった組み合わせは存

在するが、その他の組み合わせが存在しないことは、この他動性調和の原則によって説明できる。

(6) a. 他動詞＋他動詞

例：射抜く、追い払う、買い取る、叩き落す、突き倒す、吹き消す など

b. 非能格自動詞＋非能格自動詞

例：歩み寄る、言い寄る、駆け降りる、駆け寄る、飛び降りる、這い寄る など

c. 他動詞＋非能格自動詞

例：荒し回る、買い回る、探し回る、嘆き暮す、待ち構える、待ち暮らす など

d. 非能格自動詞＋他動詞

例：泣きはらす、乗り換える、微笑み返す、伏し拝む、笑い飛ばす など

e. 非対格自動詞＋非対格自動詞

例：生まれ変わる、崩れ落ちる、転がり落ちる、滑り落ちる、張り裂けるなど

f. 他動詞＋非対格自動詞（存在しない）

例：\*洗い落ちる、\*打ち壊れる、\*切り落ちる、\*切り倒れる、\*拭い落ちる など

g. 非対格自動詞＋他動詞（存在しない）

例：\*あきれ返す、\*売れ飛ばす、\*崩れ落とす、\*揺れ起こす、\*揺れ落とす など

h. 非能格自動詞＋非対格自動詞（存在しない）

例：\*跳び落ちる、\*泣き腫れる、\*走り落ちる、\*走りころぶ など

i. 非対格自動詞＋非能格自動詞（存在しない）

例：\*明け暮らす、\*痛み暮らす、\*崩れ降りる、\*転び降りる、\*倒れ暮らす など

ただし、松本（1998）によれば、「非能格自動詞＋非対格自動詞」では「遊び疲れる」「歩き疲れる」「泳ぎ疲れる」「泣き濡れる」「走りくたびれる」「走り疲れる」、「他動詞＋非対格自動詞」では「聞き惚れる」「飲み潰れる」「待ちくたびれる」「読み疲れる」のように、他動性調和の原則に反する複合動詞も存在する。また、他動性調和の原則には、非対格自動詞と非能格自動詞を明確に区別するのが難しいという問題があることも指摘している。

一方、影山（2013）は、「動詞＋動詞」型複合動詞に対する分類について、影山（1993）が導入した語彙的複合動詞・統語的複合動詞の区別のうち、前者をさらに分類して、「主題関係複合動詞」と「アスペクト複合動詞」に分けることを唱えた。

## (7) 「動詞+動詞」型複合動詞：

A 語彙的複合動詞：二つの動詞が直接結びついている。

- ① 主題関係複合動詞：前項と後項の両方が主題関係（項関係）を持つ。前項動詞は様々な意味的な関係（「手段、様態、原因、並列」など）で後項動詞を修飾している。文の格関係を決めるのは主として後項動詞。

例：歩き疲れる、恋い慕う、転げ落ちる、突き落とす など

- ② アスペクト複合動詞：後項動詞は、「補文関係、副詞的」といった意味関係によって、前項動詞が表す事象の展開について述べ、広義の語彙的アスペクトを表す。文の格関係を決めるのは主として前項動詞。

例：死に急ぐ、降りしきる など

B 統語的複合動詞：後項動詞が前項動詞を補文として取っている。文の格関係を決めるのは基本的に前項動詞。

例：出発しかける

### 2.2.6 由本説（1996）と松本説（1998）

前節で述べたように、「他動性調和の原則」を逸脱する語彙的複合動詞の例も多く見られるため、由本（1996）と松本（1998）は「他動性調和の原則」より緩い制約として「主語一致の原則」を提案した。

主語一致の原則とは、二つの動詞が複合する場合、それぞれの動詞の意味構造において主語として実現する意味的な項は、通常、同一の物を指さなければならない、というものである（松本 1998）。

「花火が打ちあがった」における「打ちあがる」、「突き出た半島」における「突き出る」のように、複合動詞を構成する各動詞の主語が異なり、主語一致の原則に反する例もあるが、これらの複合動詞は、主語一致の原則に合致している「打ち上げる」や「突き出す」から派生したものと考えることができる（松本 1998）。

したがって、主語一致の原則は、一部例外が存在するものの、二つの動詞が結合して複合動詞を作る際の一般的な制約と考えられる。主語一致の原則は、他動性調和の原則より

緩い制約であるため、「\*洗い落ちる」「\*打ち壊れる」「\*崩れ落とす」「\*揺れ起こす」のような、二つの動詞の主語が異なるものを不適格な複合動詞として排除できる一方、「走り疲れる」「読み疲れる」のような、他動性調和の原則では容認されない組み合わせも、主語が一致するから成立し得るという説明が可能になる。

### 2.2.7 張説 (2020)

張 (2020) は、影山太郎 (1999: 205) の「一義的経路の制約 (Unique Path Constraint)」についてあらためて議論した上、日本語複合動詞形成における制約を再検討した。日本語複合動詞の構造は複雑で、その形成は一定の規則に従う必要がある。複合動詞が形成される際は「一義的経路の制約」に従い、複合動詞全体には1つの変化プロセスしかない。しかもそのプロセスは後項動詞によって提供される。また、前項動詞の文法特徴についても考察した結果、前項動詞は変化のプロセスを含まず、ただ主体の動作だけを表す。そして、複合動詞全体は〈行為-変化-結果〉という自然法則に当てはまると指摘した。

## 2.3 複合動詞の意味関係や意味用法に関する意味論的研究

「動詞+動詞」型複合動詞の前項後項の意味関係や意味用法に関する研究には、森田 (1994)、影山・由本 (1997)、松本 (1998) などがある。また、複合動詞後項の意味的側面に関しては、寺村 (1982)、新美・山浦・宇津野 (1987) があり、特に、姫野の一連の研究 (1975, 1976, 1977, 1978, 1980, 1982, 1999) がこの分野を開拓した。その後、斎藤 (1985, 1992)、今井 (1993)、李 (1997)、松田 (2000, 2001, 2002, 2004, 2006)、杉村 (2006, 2007) などの研究が見られる。

### 2.3.1 森田説 (1994)

森田 (1994) は、複合動詞には語義の結合に以下の五つの段階があると指摘した。

- (8) 第1段階 並列関係：遊び暮らす、押し開ける、寄りすぎる など
- 第2段階 主述、補足関係：思い余る、見飽きる、読みふける など
- 第3段階 具体的意味から抽象的意味へ：書き上げる、降り出す など
- 第4段階 造語成分への移行：言いそびれる、考えあぐねる など
- 第5段階 実質的意味から形式的意味へ：かき曇る、叱り飛ばす など

森田の分類の第1段階と第2段階では、前項動詞と後項動詞の意味が独立していて、両方の動詞の本来の意味がそのまま保たれている。すなわち、第1段階と第2段階の複合動詞は、前項動詞と後項動詞を使って言い換えることができる。一方、第3、4、5段階では、それぞれの動詞が本来の意味を次第に失い、前項動詞や後項動詞を使って複合動詞を言い換えることができない。すなわち、森田は、複合動詞において前項動詞、後項動詞のそれぞれがどの程度動詞の意味を保持しているかに着目した。

### 2.3.2 影山・由本説 (1997)

影山・由本 (1997) は、「語彙概念構造」(Lexical Conceptual Structure, LCS)の理論に基づいて、語彙的複合動詞の前項と後項の意味関係を以下の四つのパターンに分けた。

- (9) ① 並列関係 (例：泣き叫ぶ)
- ② 付帯状況 (例：遊び暮らす)
- ③ 手段・原因 (例：切り倒す、泣きはらす)
- ④ 補文関係 (例：寝付く)

その上でそれぞれのパターンに関して意味論的制約を指摘し、前節で挙げた「他動性調和原則」の反例の多くは、「語彙概念構造」の理論に基づくこの分類で説明することができるとした。

### 2.3.3 松本説 (1998)

松本 (1998) は、「主語一致の原則」に違反していないのに、成立しない語彙的複合動詞 (例えば、「\*立ち食う」「\*走り転ぶ」など)があることを説明するため、意味的制約を提案した。松本によれば、複合動詞は、それを構成する動詞の意味構造によって組み合わせが制約されており、前項動詞と後項動詞の間に成り立つ特定の意味関係によって、複合動詞を次の六つの種類に分類した。

- (10) ① 前項動詞が後項動詞の手段を表す (例：押し倒す・叩き落す)  
 ② 前項動詞が後項動詞の様態・付帯状況を表す (例：駆け登る・舞い降りる)  
 ③ 前項動詞が後項動詞の原因を表す (例：飲みつぶれる・焼け死ぬ)  
 ④ 前項動詞が意味的主要部となるⅠ (例：咲き溢れる・咲き誇る)  
 ⑤ 前項動詞が意味的主要部となるⅡ (例：叱り付ける・晴れ渡る)  
 ⑥ 前項動詞が後項動詞の背景情報を表す (例：食べ残す・取り残す)

### 2.3.4 寺村説 (1982) と新美・山浦・宇津野説 (1987)

前項動詞と後項動詞の意味関係に関する研究のほか、複合動詞の後項動詞の意味分類に関する研究も見られる。寺村 (1982) は後項動詞の役割を次の三つに分けている。

- (11) ① 前項の時間的な相を表す：開始・継続・終了  
 ② 前項の空間的な相を表す：上下方向の動き、内と外・周囲への動き、ある目標  
     に、向かう動き  
 ③ 密度、強度の相を表す：程度・密度・強さ・完成など

後に、新美・山浦・宇津野 (1987) もほぼ同じような主張をした。

### 2.3.5 姫野説 (1999)

姫野 (1999) は「～あう」「～あがる」「～あげる」「～あわせる」「～かかる」「～かける」「～きる」「～こむ」「～だす」「～つく」「～つける」「～でる」「～とおす」「～なおす」「～なおる」「～ぬく」のような多義性を持つ後項動詞の意味をめぐり詳細な分析を行い、その用法を整理するとともに、類義語との意味的な違いも明らかにした。姫野(1999)以降、その影響を受けて多くの研究が行われた。

### 2.3.6 斎藤説 (1985, 1992) と李説 (1997)

斎藤は意味的派生のプロセスに目を向け、本動詞と後項動詞の間の意味的な関連に着目して、後項に「～返す」を持つ複合動詞 48 語を対象に、単純動詞「返す」が表す意味と比較することにより、後項動詞「～返す」の意味が抽象化するプロセスを考察した。

また、李（1997）は後項に「～きる」を持つ複合動詞を対象に、単純動詞「切る」と後項動詞「～きる」の多義性の違いに着目し、後項動詞「～きる」が持つ「完遂」「極限」「自信満々」などの意味が単純動詞「切る」から派生するプロセスについて考察した。これら齋藤と李の研究は、単純動詞と異なる後項動詞の意味について、その派生プロセスを論じるものと言える。

### 2.3.7 今井説（1993）

伝統的な意味研究とともに、新しい理論を用いて複合動詞の意味を考察した研究も見られる。今井（1993）は「開始・起動」を表す「～出す」を取り上げ、「泣き出す」における「～出す」の「開始・起動」の意味と単独用法「出す」の意味の関係を、認知意味論のイメージ・スキーマを用いて考察した。

### 2.3.8 劉説（1995）

劉（1995）は複合動詞が表す意味関係を「修飾、被修飾関係」「因果関係」「対等関係」「転意関係」などに分類した。また、複合動詞の構成制限について、前後関係、アスペクト意味の制限、語義的制限の三つの観点から考察した。具体的な制限をまとめると以下のようになる。

- (12) ① 前後関係の意味制限に関しては、実質的な意味が強い「くださ」「くだく」「殺す」「こわす」「倒す」「つぶす」などの動詞は前項動詞になりにくい。これらの動詞は後項動詞になって、「殺し倒す」「殴り殺す」などのように、前項動詞に修飾、限定される。
- ② アスペクト意味の制限は、開始のアスペクト、継続のアスペクト、完了のアスペクトに分けて考察している。
- a. 開始のアスペクトを表す「一始める」や「一だす」は、「話す」「泳ぐ」のような、「開始—継続—終了」という時間的経過を持つ動作や作用を表す継続動詞とは結合するが、始まりも終わりも持たない「死ぬ」「ぶつかる」のような瞬間動詞とは結合しない。時間の経過と無縁な動詞、状態性の強い動詞とは結合しにくい。
- b. 継続のアスペクトを表す「続く」と「続ける」は、多くの場合、前項動詞に

「継続動詞」を取る。状態動詞、第四類動詞の後に「続く」や「続ける」が来ることはない。

- c. 完了アスペクトを表す「きる」は、普通「継続動詞」の後に来る。完了の意を表すためには、過程性を持った「継続動詞」でなければならない。「開始」「継続」「完了」のようなアスペクト的な意味を表す「かかる」「続ける」「出す」「始める」「切る」のような動詞が状態動詞、第四類動詞の後に来ることはない。瞬間動詞と継続動詞には、つく場合もあれば、つかない場合もある。

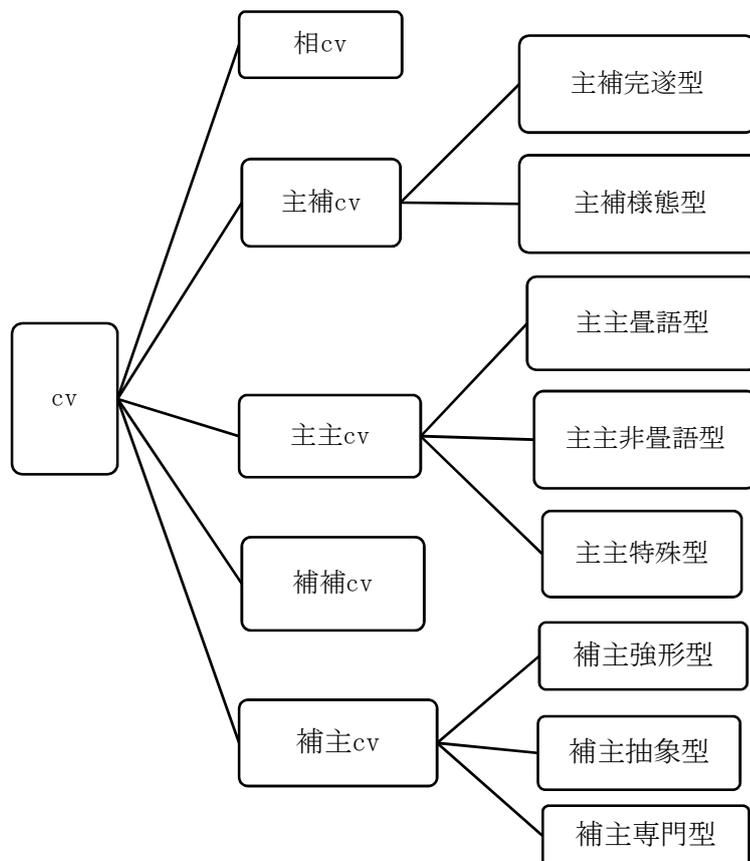
- ③ 語義の共起関係による制限に関しては、後項動詞「一あう」は、「死ぬ」のような、相手と関係なく動作や行為を行うことができ、相手に影響を及ぼすことを表さない前項動詞とは共起できない。また、「けんかする」「結婚する」のような、「相互に」という意味がそれ自体に含まれている動詞とも共起できない。

### 2.3.9 中村説 (1998)

中村 (1998) は、「動詞+動詞」型複合動詞について、その結合に見られるパターンを論じた。複合動詞は、前項の連用形と後項の動詞が単純に連結したものではなく、両者の結合にはいくつかのパターンがあり、特に後項動詞には様々な意味変化が生じることを指摘した。中村は、イメージの広がりや比喩的な転義、展開としてこれらの意味変化を捉え、複合動詞が持つ性質と意味における多様性を考察した。

中村 (1998) は複合動詞を次の (13) のように分類している。

(13)



(中村 1998: 76)

中村（1998）の結論をまとめると以下ようになる。

- (14) ① 複合動詞は、前項と後項の関係や各項の役割によって、性質の異なる幾つかのパターンに分類することができ、多様な表現領域を持つことがわかる。
- ② 後項が前項と結合する際、文字通りの意味で結合することがある一方、様々な方向へ派生的に転義することもあり、その結果、複合動詞が表す意味がネットワークのように広がっていく。
- ③ 後項動詞と前項動詞の結合は個々の動詞の個別の事情によるので、予測することは難しいが、8つの可能性が考えられる。
- ④ 複合動詞を用いる代わりに、副詞句などを使って同じ意味を表すこともできる。しかし、複合動詞には、一語の中に複雑な情報を盛り込むことができるという利点がある。中村は、この便利さと経済性こそが、時とともに使われる複合動詞が

交替しつつも、多くの複合動詞が使い続けられる理由の一つではないかと指摘している。

### 2.3.10 松田説 (2000, 2001, 2002, 2004, 2006)

松田は複合動詞の習得や指導を効果的なものにするため、多義の後項動詞「～こむ」について、以下のような観点から認知的視点によるコア図式理論を援用した研究を行った。

- (15) ① 「～こむ」の多義構造はどのように捉えればよいのか。
- ② 学習者が持っている「～こむ」の多様性に関する知識はどのようなものなのか。
- ③ 学習者にどのようにアプローチすれば、語彙能力を高められるような語彙習得支援が可能になるのか。

### 2.3.11 杉村説 (2005, 2006, 2007, 2010, 2011, 2012, 2013, 2016)

杉村 (2005, 2006, 2007, 2010, 2011, 2012, 2013) はコーパスを基にして、「～直す」「～直る」「～忘れる」「～漏らす」など、後項動詞が同じ複合動詞を対象に、その意味用法および類義関係について研究を行った。

また、杉村 (2016) は、前項動詞と後項動詞の間の意味的な結合関係、複合動詞の後項動詞と本動詞の間の意味的な対応、複合動詞が持つ多義構造、複合動詞に見られる類義関係、複合動詞に自他対応がある場合の意味的な対応、複合動詞が成立しない場合に注目して、次のように、日本語の「動詞+動詞」型複合動詞の意味を記述した。

- (16) ① 前項動詞と後項動詞の間の意味的な結合関係
- ・複合動詞の意味は前項動詞と後項動詞の意味的な結びつきによって決まる。
- 例：「相手の頬を殴り返す」における「殴り返す」は、「(自分が殴られたので自分も相手の頬を殴ってやり返す)」という継起的な意味関係を表している。
- ② 複合動詞の後項動詞と本動詞の間の意味的な対応
- ・後項動詞として用いられるか本動詞として用いられるかで意味が異なる。
- 例：「V1-返す」と「返す」
- ③ 複合動詞が持つ多義構造
- ・同じ後項動詞を持つ複合動詞は多義的なネットワークを形成している。

例：「(悪口を) 言い返す」「(光が) 照り返す」「(盗品を) 取り返す」、「(土を) 掘り返す」「(本を) 読み返す」など

④ 複合動詞に見られる類義関係

・組み合わせの異なる複合動詞が類似した意味を持つことがある。

例：「取り返す」と「取り戻す」、「読み返す」と「読み直す」

⑤ 複合動詞に自他対応がある場合の意味的な対応

・後項動詞が有対動詞の場合、複合動詞にも他動詞形と自動詞形が成立する。

例：「V1-返す」と「V1-返る」

⑥ 複合動詞が成立しない場合

・結合できる動詞の組み合わせや共起する名詞句には制限がある。

例：「返す」と「戻す」は、「取り返す」と「取り戻す」は両方言えるが、「\*買い返す」とは言えず、「買い戻す」しか成立しない。また、「盗品を取り返す」は言えても「\*青春を取り返す」とは言えない。

### 2.3.12 李説 (2009)

李によると、複合動詞には広義と狭義のものがあり、「持っていく」「送ってもらう」のように、二つの動詞が「て」によって繋がっている複合動詞は広義的複合動詞であるのに対し、「押し倒す」「書き上げる」のような「て」が入らない動詞は狭義的複合動詞であるとしている。また、李は、複合動詞の構成は厳密な文法関係に従っていて、構成要素の間に見られる文法関係は統語的な関係と類似していると指摘している。その指摘に基づき、複合動詞の前項動詞と後項動詞の関係をまとめると以下のようなになる。

(17) ① 並列式：意義が同じまたは類似した単純動詞からなる複合動詞

例：成り立つ、見守るなど

② 主従式：統語関係における修飾と被修飾の関係による複合動詞

例：降り積もる、見慣れる など

③ 述補式：述語に補語がつく形式による複合動詞

例：言い返す、寝込む など

④ 主述式：主語と述語の結合による複合動詞

例：気づく、吹き荒れる など

## ⑤ 目的述語式：目的語に述語がつく形式による複合動詞

例：仕込み始める、手放す など

## 2.4 動詞連用形の名詞化に関する研究

動詞およびその連用形の名詞化について、日本国内では、先ず山田（1936）が、現代日本語文法において「品詞の転成」を提唱し、動詞の連用形の名詞化によって成立した名詞を「動詞の転成名詞」と呼んだ。鈴木重幸（1963）も動詞連用形名詞化を動詞連用形の文法機能から分離し、単一の対象として研究すべきだと考えた。

その後、現代の日中言語学者も大体二つの面——連用形名詞か動詞かを中心に——から日本語の連用形名詞化現象に関して研究を行った。西尾（1961）、奥津（1974）、国広（2002）などは日本語連用形名詞を中心に分析し、連用形名詞を形態或いは意味から分類した。一方、影山（1993）、岡村（1995）、伊藤・杉岡（2002）、陳世娟（2005）、沈晨（2013）などは動詞を中心にし、動詞の面から連用形名詞を研究した。

ここで代表的な西尾（1961）、岡村（1995）と伊藤・杉岡（2002）の研究を概観する。まず、西尾（1961）は連用形名詞を形式的に以下のように分類した。

## (18) 一、動詞連用形だけで成り立つ名詞

い 連用形一つだけからなるもの（遊び・扱いなど）

ろ 連用形二つ（以上）からなるもの（受け入れ・請負など）

## 二、動詞連用形が含まれた名詞

い 下位成分に含むもの（火入れ・雪どけなど）

ろ 上（中）位成分に含むもの（届け先・干し草など）

（分類の詳細は第6章で見る。）

次に、岡村（1995）は、西尾（1961）などの研究を参考にし、広く連用形名詞と呼ばれているもののうち、複合語にならず単独で名詞化するもの、且つ、それが動詞の「行為・動き・作用」そのものを表しているもの、即ち西尾（1961）の動詞連用形の名詞化における意味上の類型の一番目——Vの行為をすること／「何々スルコト」を、「典型的な連用形名詞」とする（1995:74）。また、岡村（1995:78-79）は、「動詞連用形＋方／具合／加減／様」という造語が不可能なもの、或いは、このような造語は可能だが連用形名詞の

表す意味と異なるものについては、動詞の「行為・動き・作用のさま」を表すものではない」と指摘している。岡村は、以下の8つの類型を、典型的連用名詞と認めない語の主な例として挙げている（1995: 78-80）。

## (19)

- ① 名詞としての自立度がきわめて高く、もとの動詞と意味的に繋がっていることが連想されにくいもの。特定の事物・人・場所・時などを表すことが多い。

例えば：計る—はかり（秤）／踏み切る—踏切／休む—休み／渡す—渡し など

- ② 行為・はたらきかけの対象を表すもの。

例えば：楽しむ—楽しみ／連れる—連れ／眺める—眺め／含む—含み など

- ③ 動詞の動作・作用によって生じたもの・状態・結果を表すもの。

例えば：凍る—氷／答える—答え／富む—富／光る—光 など

- ④ 動作・作用の道具・手段を表すもの。

例えば：囲う—囲い／支える—支え／包む—包み／つなぐ—つなぎ など

- ⑤ 行為の内容を表すもの。

例えば：続く—続き／願う—願い／望む—望み／話す—話し など

- ⑥ 主体の感情を表すもの。

例えば：恨む—恨み／恐れる—恐れ／驚く—驚き／苦しむ—苦しみ など

- ⑦ 限定的な意味を持つもの。

例えば：生まれる—生まれ（出身地）／行う—行い（論理的）／教える—教え（論理的）／救う—救い（精神的救済） など

- ⑧ その他のもの。（限定されたコンテキストが必要なもの・名詞としての独立度が高いものなど）

例えば：いじめる—いじめ／押す—押し／暮らす—暮らし／見舞う—見舞い など

以上の前提の下で、岡村は、動詞の自他性とアスペクトそれぞれとの関係から、「典型的な連用形名詞」になる動詞連用形には傾向があり、「自動詞かつ瞬間動詞」の連用形が連用形名詞に転成しやすいと指摘している。

また、岡村は連用形名詞について次のように述べた。

- ①動詞の自他性の観点から見た場合、他動詞は「主体の対象へのはたらきかけ」を、自

動詞は「主体の状態の変化」を主に表現することから、「同じ事柄を表現するのに主体の側面から描写することをめざす専用形式（形態的に対応する他動詞）」が存在するため、絶対自／他動詞、相対自／他動詞、両用動詞の中では、特に相対自動詞の連用形が名詞化しやすい。（1995: 83）

②アスペクトの観点から見た場合、金田一（1950, 1976）の四種の動詞分類（即ち、「状態動詞」「継続動詞」「瞬間動詞」「第四種（状態を帯ぶる）」）のうち、「継続動詞」「瞬間動詞」から転成した例が多いことがわかった。なぜなら、主体の変化が幅を持った時間の中で起こるもの（動的概念）より瞬間的な変化（「変化」即「状態」であることから静的概念）によって起こるもののほうが、おのずから「さま」として捉えられやすいからだと考えられる。（1995: 86）。

③最後に、①②の二つの問題を合わせた視点から見ると、瞬間自／他動詞、継続自／他動詞の中で、「自動詞かつ瞬間動詞」から転成した連用形名詞が実例の6割以上を占めることがわかる。なぜなら、自動詞かつ瞬間動詞が表すのは主として主体の状態変化であり、瞬間的な変化を表すからである。（1995: 86）

最後に、伊藤・杉岡（2002）は、日本語動詞を名詞化する方法のうち、動詞の連用形を名詞として用いる方法は、語彙部門で行われる語形成の結果だと述べ、以下のような例を挙げている。（2002: 93-94）

(20) A. 事象に言及しているもの

- a. 行為・出来事：争い、訴え、踊り、泳ぎ、誘い、調べ、眠り、求め、笑い
- b. 程度（～がいい）：当り、ウケ、聞こえ、切れ、滑り、育ち、出、ノリ
- c. 結果状態：（刀の）反り、（立派な）造り、（パイプの）詰まり、へこみ

B. 具体物に言及しているもの

- a. 内容：祈り、教え、思い、考え、感じ、答え、問い、悩み、望み、話し
- b. 結果産物：切り抜き、包み、積み残し、（お）握り、塗り、堀（堀り）
- c. 動作主：すり、付き添い、飛び入り、見習い、見張り
- d. 主体（～（す）るもの）：囲い、支え、助け、流れ
- e. 道具：鋤（すき）、はかり、はたき、ふるい
- f. 対象：差し入れ、知り合い、使い古し、つまみ

g. 場所：住まい、突き当たり、通り、果て、吹き溜まり、（池の）まわり、渡し

伊藤・杉岡は、上記の例を踏まえて、以下のように指摘している。

①名詞化できるものは、動詞全体から見れば一部にすぎず、特に2モーラ以下の動詞の場合は、多くの語彙的ギャップが存在する。たとえば、下記(21a)の動詞の連用形は、他の語と複合語を作ることではできても、単独の名詞として使うことはできない(2002:96)。また、3モーラ以上の連用形や複合動詞においても、名詞用法をもたない例(21b)が存在する(2002:97)。

- (21) a. #着、#煮、#見、#打ち、#聞き、#指し、#去り、#捨て、#付け、#取り  
 b. #集め、#選び、#比べ、#突き刺し、#どなり、#飛び上がり、#ゆずり

②動詞連用形が名詞として使われる場合、意味の透明性が低く、補語の現れ方も規則性が低い。例えば、「磨きがかかる、渡りをつける、示しが見つからない」では、イディオムの一部になっていて、特殊な意味をもっている。また、「焼きが回る、泣きを入れる、巻きが入る(TV番組の収録)、買いが入る(株式の売買)」のように、俗語的な表現で用いられたり、特定のグループ内の特殊な文脈でのみ使われたりすることがある。これらのことは、このタイプの名詞化が語彙部門で行われていることを裏付けている(2002:97)。

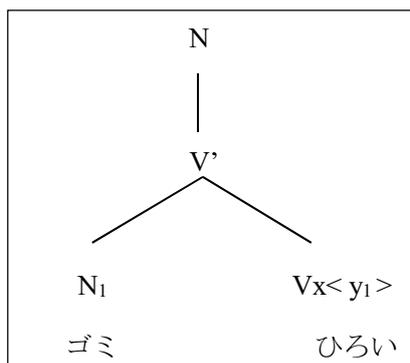
一方、伊藤・杉岡は、以下の例を挙げて、内項を伴う動詞由来の複合語は、語彙部門ではなく統語部門での語形成の結果だと主張している。(2002:110-111)。

- (22) a. 行為：息つき、石投げ、金魚すくい、草刈り、子育て、米作り、窓ふき  
 b. 現象：雨漏り、ガス漏れ、地滑り、日照り、耳鳴り、胸やけ、雪解け  
 c. 動作主：酒飲み、小説書き、相撲とり、人形遣い、風船売り、物取り  
 d. 道具：霧吹き、爪切り、ねじ回し、日除け、水入れ、水かき、眼鏡ふき  
 e. 特徴：うそつき、親思い、金もち、罪作り、風呂好き、物知り  
 f. 場所：足がかり、車寄せ、日溜まり、船止め、水たまり、もの干し  
 g. 時間：週明け、年明け、夕暮れ、夜明け、夜更け

(22)にあげた複合語は、内項の意味役割(対象/着点)は違っていても、動詞の内項を複

合しているという点で共通しているため、その形成には動詞句の構造が関わっていると考えられる。これらの複合語は、動作を表していても動詞として用いることはできず、全体としては名詞になっている。(2002: 111-112)。そのため、伊藤・杉岡は、これらの複合語は[-V]の素性を持つ名詞であり、以下のような外心構造を持つと提案した(2002: 114)。

(23)



## 2.5 本章のまとめと問題所在

本章では、日本語の動詞＋動詞型の複合動詞について、その種類や結合条件に関する体系的な研究、複合動詞の前後項の意味関係や構成要素の意味用法に関する意味論的研究、動詞連用形の名詞化について、主要な先行研究を概観した。二つの動詞が複合してできた語は複雑な特性を持ち、様々な結合制限や使用状況があるため、複合動詞についての研究は非常に豊かになり、大きな発展を遂げてきた。

しかし、上述のように、複合動詞の構造と意味の結合については、様々な面から多くの研究成果があるものの、動詞＋動詞型の複合動詞が名詞に転成する可能性に関しては、十分に検討されてこなかった。また、動詞の名詞化に関する研究に関しても、単純動詞や複合動詞の連用形の名詞化の研究はあっても、動詞の内在構造や意味関係などを考慮した、より深い視点からの研究はまだ十分ではなく、特に動詞＋動詞型の複合動詞の名詞化についてはあまり注目されていない。これまでの先行研究を踏まえて、動詞＋動詞型の複合動詞について、名詞に転成する状況をさらに調査するとともに、複合動詞の前項動詞、後項動詞の結合パターンや意味関係など、先行研究の成果を利用して、連用形が名詞化できる動詞＋動詞型の複合動詞が持つ内在特性についてさらに考察を深めることが望ましい。

### 第3章 「VV型」語彙的複合動詞の連用形が名詞化する状況の考察

#### 3.1 はじめに

本研究で使う辞書は主に『Dual 大辞林』であり、三省堂が2006年10月27日に刊行した『大辞林 第三版』のウェブバージョンである。『Dual 大辞林』は『大辞林 第三版』のウェブバージョンとして、紙バージョンの内容を全て保持した上、2015年7月に更新され、総項目数は約26万5000に達している（紙バージョンは23万8千項目）。現代語を中心とした大型国語辞書として、項目数が多く、新しい語彙も登録されているため、本稿で抽出した対象語の連用形名詞化の状況の考察とその後の前後項についての意味関係の分析、分類などに適切だと考えられる。

そして、本研究で使用するコーパスは主に『KOTONOHA 現代日本語書き言葉均衡コーパス』（Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese、以下では略称「BCCWJ」）である。検索ツールとして中納言とNINJAL-LWP for BCCWJ（以下では略称NLB）を使用する。

「BCCWJ」は国立国語研究所が構築した現代日本語の書き言葉のコーパスであり、書籍、雑誌、新聞、ブログ、ネット掲示板、教科書などのジャンルの1億430万語のデータを網羅する。

本章の考察手順は、まずデータベース『複合動詞レキシコン』から、「VV型」の語彙的複合自動詞508語（データベースの分類基準によれば、非意志的自動詞である語彙的複合自動詞は308語あり、意志的自動詞である語彙的複合自動詞は200語ある）と語彙的複合他動詞1086語（付録に参照）を研究対象語として抽出する。次に、これらの語彙的複合自動詞と語彙的複合他動詞の連用形をそれぞれ辞書（『Dual 大辞林』）とコーパス（「BCCWJ」）と対照し、語彙的複合動詞の名詞化状況を以下のように分類する。

辞書『Dual 大辞林』における語彙的複合動詞の名詞化状況を確認した結果、「名詞化可」（辞書に複合動詞の連用形が自立的な名詞の語彙項目として存在する）、「条件付き可」（複合動詞の連用形自体は非自立で、補助形態素を加えたものが名詞の語彙項目として存在する）と「不可」（複合動詞の連用形はどんな形式でも名詞の語彙項目として存在しない）に分類した。また、一部の語は複合動詞自体が辞書に立項されていないため、「複合動詞が立項なし」と表記した。（分類結果の詳細は各節の辞書による複合動詞の名詞化状況の表を参照）

一方、コーパス「BCCWJ」における語彙的複合動詞の名詞化状況を確認した結果、「名詞化可」（複合動詞の連用形が自立的な名詞として使われた用例がある）、「条件付き可」（複合動詞の連用形に補助形態素を加えたものが名詞として使われた用例がある）と「不可」（どのような形式でも複合動詞の連用形が名詞として使われた用例が見られない）の三種類に分ける。（分類結果の詳細は各節のコーパスによる複合動詞の名詞化状況の表を参照）

### 3.2 「VV型」語彙的複合自動詞の連用形が名詞化する状況

本節では、国立国語研究所の『複合動詞レキシコン』のデータベースから抽出した「VV型」の語彙的複合自動詞 508 語（付録 I における非意志的複合自動詞 308 語と付録 II における意志的複合自動詞 200 語）の連用形が名詞化する状況を考察してまとめる。

#### 3.2.1 非意志的複合自動詞の連用形が名詞化する状況

付録 I にまとめたように、国立国語研究所の『複合動詞レキシコン』によれば、「VV型」の非意志的自動詞のタイプの語彙的複合動詞は 308 語ある。次の 3.2.1.1 節と 3.2.1.2 節において、それぞれ辞書『Dual 大辞林』とコーパスによってこれらの非意志的複合自動詞の名詞化状況を考察する。

##### 3.2.1.1 辞書によって抽出された非意志的複合自動詞の名詞化状況

3.1 節で述べた辞書に基づく語彙的複合動詞の名詞化状況の分類と表記方法を利用して、辞書『Dual 大辞林』による非意志的複合自動詞 308 語の名詞化状況の詳細を以下の表 3-1 に示す。

表 3-1 『Dual 大辞林』による抽出した非意志的複合自動詞の名詞化状況

名詞化 の状況	「VV」型の非意志的複合自動詞	辞書に掲載されている連用形名詞の 語彙項目
可： 37語	行き当たる、行き通う、行き止まる、生き別れる、居残る、移り変わる、生い立つ、落ち込む、返り咲く、切れ込む、焦げ付く、凍え死ぬ、凝り固まる、差し入る、死に別れる、吸い付く、すすり泣く、滑り込む、反り返る、立ちすくむ、出来上がる、通り抜ける、飛び出る、成り上がる、煮こぼれる、寝ぼける、跳ね上がる、跳ね返る、引きこもる、引きつる、引っ込む、吹きこぼれる、触れ合う、結び付く、咽び泣く、持ち上がる、盛り上がる	行き当たり、行き通い、行き止まり、生き別れ、居残り、移り変わり、生い立ち、落ち込み、返り咲き、切れ込み、焦げ付き、凍え死に、凝り固まり、差し入り、死に別れ、吸い付き、すすり泣き、滑り込み、反り返り、立ちすくみ、出来上がり、通り抜け、飛び出、成り上がり、煮こぼれ、寝ぼけ、跳ね上がり、跳ね返り、引きこもり、引きつり、引っ込み、吹きこぼれ、触れ合い、結び付き、咽び泣き、持ち上がり、盛り上がり
条件つき： 2語	沈み込む、吹き出る	沈み込み帯、吹き出物
不可： 168語	あふれ出る、現れ出る、慌てふためく、行き着く、射り付ける、入り混じる、浮かび上がる、浮かび出る、浮き上がる、浮き出る、打ち上がる、移り行く、生まれ落ちる、生まれ育つ、生まれつく、生い茂る、覆いかぶさる、おごり高ぶる、押し掛かる、恐れおののく、落ち掛かる、落ち重なる、思い当たる、思い至る、思い浮かぶ、思い及ぶ、思い乱れる、思い煩う、折り重なる、折れ込む、折れ曲がる、勝ち誇る、絡み付く、消え失せる、消え去る、切れ上がる、食い込む、崩れ落ちる、崩れ掛かる、繰り上がる、繰り合わす、繰り下がる、消し飛ぶ、蹴つまずく、こびり付く、こぼれ落ちる、転がり落ちる、転がり込む、転げ落ちる、転げ込む、探し当てる、咲き残る、死に絶える、染み入る、染み込む、染み付く、染み出る、過ぎ去る、ずり上がる、ずり落ちる、擦り切れる、ずり下がる、ずれ込む、迫り来る、迫り上がる、倒れ掛かる、垂れ下がる、突き刺さる、突き立つ、突き出る、突き通る、付け加わる、突っ立つ、積み重なる、	(存在しない)

	<p>釣り上がる、吊り下がる、出揃う、照り輝く、通り過ぎる、説き及ぶ、溶け合う、溶け込む、飛び散る、飛び付く、流れ着く、流れ出る、泣き明かす、泣き崩れる、泣き暮らす、泣き濡れる、泣き伏す、並び立つ、鳴り響く、煮えたぎる、滲み出る、抜け上がる、抜け落ちる、抜け替わる、濡れそぼつ、寝返る、寝転がる、寝転ぶ、寝静まる、粘り付く、のし上がる、のっ掛かる、伸び上がる、禿げ上がる、剥げ落ちる、張り裂ける、張り付く、光り輝く、引き下がる、吹き上がる、吹き入る、吹き下ろす、吹き募る、吹き飛ぶ、膨れ上がる、踏みこたえる、踏み迷う、降り掛かる、降り込む、降り籠める、降り積もる、へたり込む、へばり付く、舞い上がる、舞い落ちる、舞い降りる、舞い込む、舞い立つ、曲がりくねる、まかり出る、まかり通る、巻き上がる、巻き起こる、巻き付く、紛れ込む、まつわり付く、まとわり付く、回り込む、乱れ飛ぶ、満ち溢れる、満ち足りる、群れ立つ、群れ飛ぶ、めり込む、萌え出る、燃え広がる、潜り込む、持ちこたえる、もつれ込む、漏れ落ちる、焼き付く、焼け落ちる、焼け出される、焼け付く、やせ衰える、やせこける、やせ細る、酔い潰れる、喜び勇む、寄せ来る、呼び習わす、湧き上がる、沸き起こる、湧き出る</p>	
<p>複合動詞が立項なし：101語</p>	<p>遊び疲れる、あふれ落ちる、打ち負ける、写り込む、埋まり込む、生まれ出る、えぐり込む、落ちこぼれる、驚き呆れる、折れ上がる、折れ下がる、輝き出る、絡まり付く、切れ落ちる、切れ下がる、朽ち衰える、くびれ込む、こぼれ出る、転がり出る、転がり回る、転げ出る、転げ回る、咲き出る、探り回る、裂け広がる、さまよい込む、去り行く、したたり落ちる、進入る、滑り入る、滑り落ちる、滑り降りる、滑り出る、ずり下りる、ずり出る、擦り減る、そそけ立つ、そそり立つ、そびえ立つ、たぎり落ちる、漂い出る、垂れ掛かる、ちぎれ落ちる、散り急ぐ、散り落ちる、散り掛かる、散り込む、</p>	<p>/</p>

<p>伝い落ちる、伝わり落ちる、積み上がる、吊るし上がる、溶け入る、溶け出る、飛び入る、流れ入る、流れ落ちる、流れ下る、流れ来る、流れ去る、なだれ落ちる、悩み苦しむ、滲み込む、にじり込む、脱げ落ちる、ねじ曲がる、上り着く、飲み騒ぐ、生え茂る、生え揃う、外れ落ちる、話し疲れる、離れ落ちる、離れ去る、跳ね込む、はまり込む、ふざけ掛かる、降り落ちる、ほとぼしり出る、舞い出る、舞い昇る、紛れ入る、まくれ上がる、混じり込む、迷い入る、迷い込む、迷い出る、むくれ上がる、めくれ上がる、めくれ込む、燃え移る、燃え落ちる、もがき苦しむ、漏れ聞こえる、漏れ伝わる、茹でこぼれる、酔い狂う、よろけ込む、よろけ出る、笑い興じる、煮崩れる、焼け焦げる</p>	
---	--

上の表 3-1 に示されたように、非意志的複合自動詞のうち、その連用形が単独で名詞の語彙項目として成立することが辞書『Dual 大辞林』によって確認できる動詞は 37 語あるが、「沈み込み帯、吹き出物」のようにほかの形態素を加えて初めて名詞の語彙項目として成立するものは 2 語ある。そして、複合動詞の連用形が自立した形式としても補助形態素を加えた形式としても名詞の語彙項目として辞書で確認できないものが 168 語ある。また、「複合動詞レキシコン」のデータベースでは複合動詞として認められているが、辞書では立項されていない語は 101 語あった。その 101 語のうち、「煮崩れる、焼け焦げる」の 2 語は、複合動詞自体が辞書に見つけられない一方、「煮崩れ、焼け焦げ」の形で複合名詞の項目としては存在している。この二つの複合動詞は名詞から動詞に転成する「逆形成」によって形成されたと考えられる。したがって、それらの複合名詞を複合動詞の「連用形名詞の語彙項目」として認めることは難しいため、本論文の研究対象から除外する。

### 3.2.1.2 コーパスによって抽出された非意志的複合自動詞の名詞化状況

語彙的複合動詞の連用形名詞化の結果を別の観点から検証するため、抽出された非意志的複合自動詞の 308 語をコーパス（「BCCWJ」）で検索して確認し、3.1 節に述べた分類方法と表記名を用い、その結果の詳細を表 3-2 に示した。

表 3-2 「BCCWJ」による抽出した非意志的複合自動詞の名詞化状況

名詞化の状況	「VV型」の非意志的自動詞
可：42語	行き止まる、生き別れる、居残る、移り変わる、移り行く、生まれ育つ、 生い立つ、落ち込む、思い当たる、折れ曲がる、返り咲く、切れ込む、食 い込む、繰り上がる、繰り下がる、焦げ付く、凍え死ぬ、沈み込む、死に 別れる、滑り込む、ずれ込む、垂れ下がる、出来上がる、通り抜ける、溶 け込む、成り上がる、煮崩れる、寝返る、跳ね上がる、跳ね返る、引っ込 む、触れ合う、舞い上がる、結び付く、持ち上がる、盛り上がる、焼き付 く、焼け焦げる、焼け出される、行き当たる、飛び入る、跳ね込む
不可：266語	あふれ出る、現れ出る、慌てふためく、行き通う、行き着く、射り付ける、 入り混じる、浮かび上がる、浮かび出る、浮き上がる、浮き出る、打ち上 がる、写り込む、生まれ落ちる、生まれつく、生い茂る、覆いかぶさる、 おごり高ぶる、押し掛かる、恐れおののく、落ち掛かる、落ち重なる、落 ちこぼれる、思い至る、思い浮かぶ、思い及ぶ、思い乱れる、思い煩う、 折り重なる、折れ込む、勝ち誇る、絡み付く、消え失せる、消え去る、切 れ上がる、崩れ落ちる、崩れ掛かる、繰り合わす、消し飛ぶ、蹴つまずく、 こびり付く、こぼれ落ちる、凝り固まる、転がり落ちる、転がり込む、転 げ落ちる、転げ込む、探し当てる、咲き残る、差し入る、死に絶える、染 み入る、染み込む、染み付く、染み出る、吸い付く、過ぎ去る、すすり泣 く、ずり上がる、ずり落ちる、擦り切れる、ずり下がる、迫り来る、迫り 上がる、反り返る、倒れ掛かる、立ちすくむ、突き刺さる、突き立つ、突 き出る、突き通る、付け加わる、突っ立つ、積み重なる、釣り上がる、吊 り下がる、出揃う、照り輝く、通り過ぎる、説き及ぶ、溶け合う、飛び散 る、飛び付く、飛び出る、流れ着く、流れ出る、泣き明かす、泣き崩れる、 泣き暮らす、泣き濡れる、泣き伏す、並び立つ、鳴り響く、煮えたぎる、 煮こぼれる、滲み出る、抜け上がる、抜け落ちる、抜け替わる、濡れそぼ つ、寝転がる、寝転ぶ、寝静まる、粘り付く、寝ぼける、のし上がる、の っ掛かる、伸び上がる、禿げ上がる、剥げ落ちる、張り裂ける、張り付く、 光り輝く、引きこもる、引き下がる、引きつる、吹き上がる、吹き入る、 吹き下ろす、吹きこぼれる、吹き募る、吹き出る、吹き飛ぶ、膨れ上がる、 踏みこたえる、踏み迷う、降り掛かる、降り込む、降り籠める、降り積も る、へたり込む、へばり付く、舞い落ちる、舞い降りる、舞い込む、舞い 立つ、曲がりくねる、まかり出る、まかり通る、巻き上がる、巻き起こる、 巻き付く、紛れ込む、まつわり付く、まとわり付く、回り込む、乱れ飛ぶ、 満ちあふれる、満ち足りる、咽び泣く、群れ立つ、群れ飛ぶ、めり込む、 萌え出る、燃え広がる、潜り込む、持ちこたえる、もつれ込む、漏れ落ち る、焼け落ちる、焼け付く、やせ衰える、やせこける、やせ細る、酔い潰 れる、喜び勇む、寄せ来る、呼び習わす、沸き上がる、沸き起こる、湧き

	<p>出る、遊び疲れる、あふれ落ちる、打ち負ける、埋まり込む、生まれ出る、えぐり込む、驚き呆れる、折れ上がる、折れ下がる、輝き出る、絡まり付く、切れ落ちる、切れ下がる、朽ち衰える、くびれ込む、こぼれ出る、転がり出る、転がり回る、転げ出る、転げ回る、咲き出る、探り回る、裂け広がる、さまよい込む、去り行く、したたり落ちる、進み入る、滑り入る、滑り落ちる、滑り降りる、滑り出る、ずり下りる、ずり出る、擦り減る、そそけ立つ、そそり立つ、そびえ立つ、たぎり落ちる、漂い出る、垂れ掛かる、ちぎれ落ちる、散り急ぐ、散り落ちる、散り掛かる、散り込む、伝い落ちる、伝わり落ちる、積み上がる、吊るし上がる、溶け入る、溶け出る、流れ入る、流れ落ちる、流れ下る、流れ来る、流れ去る、なだれ落ちる、悩み苦しむ、滲み込む、にじり込む、脱げ落ちる、ねじ曲がる、上り着く、飲み騒ぐ、生え茂る、生え揃う、外れ落ちる、話し疲れる、離れ落ちる、離れ去る、はまり込む、ふざけ掛かる、降り落ちる、ほとぼしり出る、舞い出る、舞い昇る、紛れ入る、まくれ上がる、混じり込む、迷い入る、迷い込む、迷い出る、むくれ上がる、めくれ上がる、めくれ込む、燃え移る、燃え落ちる、もがき苦しむ、漏れ聞こえる、漏れ伝わる、茹でこぼれる、酔い狂う、よろけ込む、よろけ出る、笑い興じる</p>
--	---

上の表 3-2 に示されたように、コーパス「BCCWJ」によって、連用形が自立的に名詞として使われる用例を確認できた非意志的複合自動詞は 42 語あり、残りの 266 語は全て自立した形態でも補助形態素を加えた形態でも名詞として使われる用例を確認できなかつた。これを表 3-1 から得られた辞書による名詞化状況の結果と比べると、大きな差が見られず、抽出された非意志的複合自動詞の全体として、複合動詞の連用形が名詞に転成できる比率は低く、名詞化可能な非意志的複合自動詞は自立性が高い点で傾向が一致している。

### 3.2.1.3 抽出された非意志的複合自動詞の名詞化状況のまとめ

3.2.1.1 節の表 3-1 と 3.2.1.2 節の表 3-2 を比べると、非意志的複合自動詞 308 語の中で、24 語は辞書とコーパスの両方で名詞化できることが確認できるが、相違点もある。下の表 3-3 を見てみよう。

表 3-3 辞書とコーパスによる抽出した非意志的複合自動詞の名詞化状況のまとめ

名詞化の状況		非意志的複合自動詞
辞書だけで確認できる： 18語	名詞化可：17語	行き通う、写り込む、落ちこぼれる、凝り固まる、差し入る、吸い付く、すすり泣く、反り返る、立ちすくむ、飛び出る、煮こぼれる、寝ぼける、引きこもる、引きつる、吹きこぼれる、咽び泣く、行き通う
	条件付き可：1語	吹き出る
辞書とコーパスのいずれでも確認できる： 24語	<u>辞書とコーパスのいずれでも名詞化可：23語</u>	行き止まる、生き別れる、居残る、移り変わる、生い立つ、落ち込む、返り咲く、切れ込む、焦げ付く、凍え死ぬ、死に別れる、滑り込む、出来上がる、通り抜ける、成り上がる、跳ね上がる、跳ね返る、引っ込む、触れ合う、結び付く、持ち上がる、盛り上がる、行き当たる
	<u>辞書では条件つき可で、コーパスでは名詞化可：1語</u>	沈み込む
コーパスだけで確認できる： 18語	名詞化可：14語	移り行く、生まれ育つ、思い当たる、折れ曲がる、食い込む、繰り上がる、繰り下がる、ずれ込む、垂れ下がる、溶け込む、寝返る、舞い上がる、焼き付く、焼け出される
	辞書で複合動詞が立項なし：4語	飛び入る、跳ね込む、煮崩れる、焼け焦げる

表 3-3 にまとめた結果からわかるように、辞書とコーパスはそれぞれ規範性と実用性を基準にしているため、異なる名詞化の結果が得られた。本研究は客観性と信頼性の両面を考慮に入れて、両方で名詞化できることを確認した語彙的複合動詞に注目する。また、両方で確認できた名詞化できる 24 語のうち、「沈み込む」の名詞化は、辞書では連用形がほかの形態素を加えて名詞の語彙項目になれるが、コーパスではその連用形がそのまま自立的に名詞化できて使われる用例が見られる。そのため、基準を統一するために、これからは辞書とコーパス両方で確認できる自立的に名詞化可能な非意志的複合自動詞（23 語）を中心に内在的な特徴を考察する。（図 3-1 を参照）

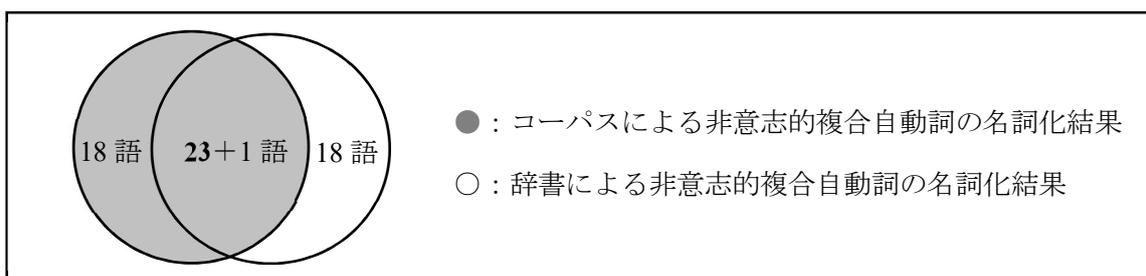


図 3-1

### 3.2.2 意志的複合自動詞の連用形が名詞化する状況

付録 II にまとめたように、国立国語研究所の『複合動詞レキシコン』によれば、「VV型」の非意志的自動詞のタイプの語彙的複合動詞は 200 語ある。次の 3.2.2.1 節と 3.2.2.2 節において、それぞれ辞書『Dual 大辞林』とコーパスによってこれらの意志的複合自動詞の名詞化状況を考察する。

#### 3.2.2.1 辞書によって抽出された意志的複合自動詞の名詞化状況

上と同じように、3.1 節で述べた辞書に基づく語彙的複合動詞の名詞化状況の分類と表記方法を援用して、辞書『Dual 大辞林』による非意志的複合自動詞 200 語の名詞化状況の詳細を以下の表 3-4 に示す。

表 3-4 『Dual 大辞林』 による抽出した意志的複合自動詞の名詞化状況

名詞化の状況	「VV型」の意志的複合自動詞	辞書に掲載されている連用形名詞の語彙項目
可： 25 語	歩み寄る、言い争う、生き残る、浮かれ歩く、討ち入る、駆け入る、駆け込む、食い付く、忍び会う、忍び泣く、立ち退く、立ち回る、付き添う、飛び上がる、飛び下りる、飛び込む、飛び乗る、取り付く、殴り込む、乗り越す、乗り込む、見回る、向かい合う、寄り集まる、寄り掛かる	歩み寄り、言い争い、生き残り、浮かれ歩き、討ち入り、起き上がり、駆け入り、駆け込み、食い付き、忍び逢い、忍び泣き、立ち退き、立ち回り、付き添い、飛び上がり、飛び下り、飛び込み、飛び乗り、取り付き、殴り込み、乗り越し、乗り込み、見回り、向かい合い、寄り集まり、寄り掛かり
条件つき： 1 語	起き上がる	起き上がり小法師
不可： 130 語	遊び暮らす、言い及ぶ、言い寄る、浮かれ出る、動き回る、打ち掛かる、打ち勝つ、売り歩く、追いすぎる、追い付く、起き直る、襲い掛かる、追っ付く、躍り上がる、躍り掛かる、躍り込む、躍り出る、降り立つ、帰り着く、駆け抜ける、駆け寄る、かじり付く、語り明かす、勝ち上がる、切り掛かる、くぐり抜ける、組み付く、食らい付く、漕ぎ着ける、媚びへつらう、しけ込む、しなだれ掛かる、忍び入る、忍び込む、忍び寄る、しゃぶり付く、進み出る、擦り寄る、攻め入る、攻め掛かる、攻め込む、攻めのぼる、攻め寄る、抱き付く、立ち去る、立ち止まる、立ちはだかる、立ち働く、立ちふさがる、立てこもる、辿り着く、談じ込む、掴み掛かる、突き入る、突き掛かる、突っ掛かる、詰め寄る、出歩く、閉じ籠もる、怒鳴り込む、飛び移る、飛び起きる、飛び掛かる、飛び越える、飛び去る、飛び退く、飛び離れる、飛び跳ねる、飛び回る、取りすぎる、流れ歩く、泣き込む、泣き叫ぶ、泣きすぎる、泣き付く、泣き喚く、殴り掛かる、嘆き明かす、嘆き暮らす、名乗り出る、逃げ失せる、逃げ落	(存在しない)

	<p>ちる、逃げ下る、逃げ込む、逃げ去る、逃げ散る、逃げ延びる、逃げ惑う、逃げ回る、にじり出る、にじり寄る、抜け出る、練り歩く、のし掛かる、飲み明かす、飲み歩く、飲み潰れる、のめり込む、乗り入る、乗り移る、乗り掛かる、乗り越える、乗り回る、這い上がる、這い込む、はいずり回る、這い出る、這い上る、這い回る、這い寄る、入り込む、走り込む、走り抜ける、走り回る、走り寄る、馳せ下る、馳せ参じる、馳せ戻る、話しかける、跳ね起きる、跳ねのく、跳ね回る、踏み越える、振り向く、吠え付く、むしゃぶり付く、もたれ掛かる、寄っ掛かる、寄り添う、分け入る</p>	
<p>複合動詞が立項なし：44語</p>	<p>遊び戯れる、甘え掛かる、歩み出る、挑み掛かる、歌い回る、移り住む、泳ぎ着く、泳ぎ出る、泳ぎ渡る、駆け下りる、駆け下る、駆け比べる、駆け去る、駆け登る、駆け戻る、くぐり込む、蹴り掛かる、漕ぎ出る、漕ぎ上る、こごみ掛かる、さまよい出る、騒ぎ回る、慕い寄る、忍び出る、じゃれ掛かる、尋ね歩く、連れ歩く、飛び下がる、鳴き騒ぐ、逃げ出る、逃れ去る、逃れ出る、のさばり出る、這い入る、這い降りる、走り去る、走り着く、走り出る、馳せ上る、話し明かす、踏み入る、吠え掛かる、喚き叫ぶ、泣き寝入る</p>	<p>/</p>

上の表 3-4 に示されたように、『Dual 大辞林』によって、意志的複合自動詞 200 語のうち、その連用形が単独で名詞の語彙項目として成立することが確認できる動詞は 25 語あるが、「起き上がり小法師」のようにほかの形態素を加えて複合語にしてから初めて名詞の語彙項目として成立するのは一つしかない。そして、複合動詞の連用形が自立した形式としても補助形態素を加えた形式としても名詞の語彙項目として辞書で確認できないものが 130 語ある。また、『複合動詞レキシコン』のデータベースでは複合動詞として認めら

れているが、実際に辞書では立項されていない語は44語あり、その中に、「泣き寝入る」は複合動詞自体が辞書に見つけれない一方、「泣き寝入り」の形で複合名詞の項目が存在している。この点については、3.2.1.1節で説明したように、名詞から動詞に転成する「逆形成」という語形成の現象であると考えられるため、複合名詞「泣き寝入り」を複合動詞「泣き寝入る」の「連用形名詞の語彙項目」として認めることは難しい。したがって、これも本論文の研究対象から除外する。

### 3.2.2.2 コーパスによって抽出された意志的複合自動詞の名詞化状況

意志的複合自動詞の連用形名詞化の結果を別の観点から検証するため、抽出された200語の意志的複合自動詞がコーパス（「BCCWJ」）に出現するかどうかを確認し、結果を表3-5に示した。

表 3-5 「BCCWJ」による抽出した意志的複合自動詞の名詞化状況

名詞化の状況	「VV型」の意志的複合自動詞
可：31語	歩み寄る、言い争う、生き残る、討ち入る、追い付く、駆け込む、勝ち上がる、食い付く、組み付く、忍び会う（「忍び逢う」とも書く）、忍び込む、忍び泣く、立ち退く、立ち回る、付き添う、飛び上がる、飛び下りる、飛び込む、取り付く、殴り込む、乗り越す、乗り込む、見回る、向かい合う、寄り集まる、起き上がる、駆け比べる、乗り移る、走り込む、踏み入る、振り向く
条件つき：1語	立てこもる（例：「人質立てこもり」）
不可：168語	遊び暮らす、遊び戯れる、甘え掛かる、歩み出る、言い及ぶ、言い寄る、挑み掛かる、浮かれ歩く、浮かれ出る、動き回る、歌い回る、打ち掛かる、打ち勝つ、移り住む、売り歩く、追いつがる、起き直る、襲い掛かる、追っ付く、躍り上がる、躍り掛かる、躍り込む、躍り出る、泳ぎ着く、泳ぎ出る、泳ぎ渡る、降り立つ、帰り着く、駆け入る、駆け下りる、駆け下る、駆け去る、駆け抜ける、駆け登る、駆け戻る、駆け寄る、かじり付く、語り明かす、切り掛かる、くぐり込む、くぐり抜ける、食らい付く、蹴り掛かる、漕ぎ着ける、漕ぎ出る、漕ぎ上る、ごごみ掛かる、媚びへつらう、さまよい出る、騒ぎ回る、しけ込む、慕い寄る、しなだれ掛かる、忍び入る、忍び寄る、しゃぶり付く、じゃれ掛かる、進み出る、擦り寄る、攻め入る、攻め掛かる、攻め込む、攻めのぼる、攻め寄る、抱き付く、尋ね歩く、立ち去る、立ち止まる、立ちほだかる、立ち働く、立ちふさがる、辿り着く、談じ込む、掴み掛かる、突き入る、突き掛かる、突っ掛かる、詰め寄る、連れ歩く、出歩く、閉じ籠もる、怒鳴り込む、飛び移る、飛び起きる、飛び掛かる、飛び越える、飛び下がる、飛び去る、飛び退く、飛び乗る、飛び離れる、飛び跳ねる、飛び回る、取りつがる、流れ歩く、泣き込む、泣き叫ぶ、鳴き騒ぐ、泣きつがる、泣き付く、泣き寝入る、泣き喚く、殴り掛かる、嘆き明かす、嘆き暮らす、名乗り出る、逃げ失せる、逃げ落ちる、逃げ下る、逃げ込む、逃げ去る、逃げ散る、逃げ出る、逃げ延びる、逃げ惑う、逃げ回る、にじり出る、にじり寄る、抜け出る、練り歩く、逃れ去る、逃れ出る、のさばり出る、のし掛かる、飲み明かす、飲み歩く、飲み潰れる、のめり込む、乗り入る、乗り掛かる、乗り越える、乗り回る、這い上がる、這い入る、這い降りる、這い込む、はいずり回る、這い出る、這い上る、這い回る、這い寄る、入り込む、走り去る、走り着く、走り出る、走り抜ける、走り回る、走り寄る、馳せ下る、馳せ参じる、馳せ上る、馳せ戻る、話し明かす、話しかける、跳ね起きる、跳ねのく、跳ね回る、踏み越える、吠え掛かる、吠え付く、むしゃぶり付く、もたれ掛かる、寄っ掛かる、寄り掛かる、寄り添う、分け入る、喚き叫ぶ、忍び出る

上の表 3-5 に示したように、「BCCWJ」によって、連用形が自立的に名詞化できる用例を確認できた語は 31 語あり、ほかの補助形態素を加えて名詞として使われる用例を確認した語は 1 語のみである。これは表 3-4 から得られた辞書による名詞化の結果と比べると、コーパスで確認された名詞化可能な意志的自動詞の方はやや多いが、自立性が高いという点で辞書でもコーパスでも確認された結果の傾向が一致している。

### 3.2.2.3 抽出された意志的複合自動詞の名詞化状況のまとめ

3.2.2.2 の表 3-5 と 3.2.2.1 の表 3-4 を比べると、複合動詞 200 語の中で、22 語は辞書とコーパスの両方で名詞化できることが確認できるが、相違点も存在している。下の表 3-6 を見てみよう。

表 3-6 辞書とコーパスによる抽出した意志的複合自動詞の名詞化状況のまとめ

名詞化の状況		意志的複合自動詞
辞書だけで確認できる：4 語		浮かれ歩く、駆け入る、飛び乗る、寄り掛かる
辞書とコーパス両方で確認できる：22 語	<u>辞書とコーパスのいずれでも名詞化可：21 語</u>	歩み寄る、言い争う、生き残る、討ち入る、駆け込む、食い付く、忍び会う、忍び泣く、立ち退く、立ち回る、付き添う、飛び上がる、飛び下りる、飛び込む、取り付く、殴り込む、乗り越す、乗り込む、見回る、向かい合う、寄り集まる
	<u>辞書では条件つき可で、コーパスでは名詞化可：1 語</u>	起き上がる
コーパスだけで確認できる：11 語	名詞化可：8 語	追いつく、勝ち上がる、組み付く、忍び込む、立てこもる、乗り移る、走り込む、振り向く
	辞書で複合動詞が立項なし：3 語	駆け比べる、踏み入る、泣き寝入る

表 3-6 にまとめた結果を見てわかるように、辞書とコーパスは基準が異なるため、異なる名詞化の結果が得られた。本研究は 3.2.1.3 節と同じように、客観性と信頼性の両面を考え、辞書とコーパスの両方で名詞化できることを確認した複合動詞に注目する。また、両方で名詞化できる 22 語のうち「起き上がる」の名詞化は、辞書ではほかの形態素を加えて

から名詞化できるが、コーパスでは自立的に使われた用例が見られる。したがって、基準を統一するために、辞書で確認できない「起き上がる」は除外し、辞書とコーパス両方で自立的な名詞化が確認できる意志的複合自動詞 21 語を中心に内在的な特徴を考察して分析する。(図 3-2 を参照)

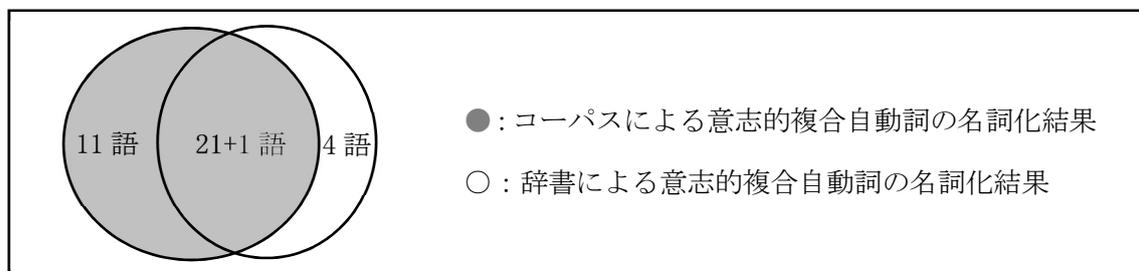


図 3-2

### 3.2.3 抽出された「VV型」語彙的複合自動詞の名詞化状況のまとめ

3.2.1 節と 3.2.2 節では、それぞれ抽出された「VV型」非意志的語彙的複合自動詞 308 語と意志的語彙的複合自動詞 200 語を対象にして、それらの「VV型」語彙的複合自動詞の名詞化状況を確認した。辞書『Dual 大辞林』による語彙的複合自動詞の名詞化状況を下の表 3-7 に示し、コーパス「BCCWJ」で確認した語彙的複合自動詞の名詞化状況を下の表 3-8 に示す。

表 3-7 辞書『Dual 大辞林』による語彙的複合自動詞の名詞化状況

	名詞化可	条件付き可	不可	立項なし	計
意志的自動詞	25	1	130	44	200
非意志的自動詞	37	2	168	101	308
計	62 (12.2%)	3 (0.6%)	298 (58.7%)	145 (28.5%)	508

表 3-8 コーパス「BCCWJ」による抽出した語彙的複合自動詞の名詞化状況

	名詞化可	条件付き可	不可	計
意志的自動詞	31	1	168	200
非意志的自動詞	42	0	266	308
計	73 (14.4%)	1 (0.2%)	434 (85.4%)	508

上の表 3-8 を表 3-7 から得られた結果と比べると、全体として、語彙的複合自動詞の連用形が名詞に転成できる比率は非常に低く（辞書での転成率は 12.8%であるが、コーパスでの転成率は 14.6%である）、名詞化可能な語彙的複合自動詞は自立性が高いという点で辞書とコーパスから確認した結果の傾向が一致している。

また、3.2.1.3 節の表 3-3 と 3.2.2.3 節の表 3-7 を比較すると、語彙的複合自動詞 508 語の中で、44 語は辞書とコーパスの両方で名詞化できることが確認できるが、相違点も存在している。下の表 3-9 を見てみよう。

表 3-9 辞書とコーパスによる抽出した語彙的複合自動詞の名詞化状況のまとめ

名詞化の状況		語彙的複合自動詞	
辞書だけで確認できる:22語	名詞化可:21語	意志的自動詞:4語	浮かれ歩く、駆け入る、飛び乗る、寄り掛かる
		非意志的自動詞:17語	行き通う、写り込む、落ちこぼれる、凝り固まる、差し入る、吸い付く、すすり泣く、振り返る、立ちすくむ、飛び出る、煮こぼれる、寝ぼける、引きこもる、引きつる、吹きこぼれる、咽び泣く、行き通う
	条件付き可:1語	非意志的自動詞:1語	吹き出る
辞書とコーパスのいずれでも確認できる:46語	辞書とコーパスのいずれでも名詞化可:44語	意志的自動詞:21語	歩み寄る、言い争う、生き残る、討ち入る、駆け込む、食い付く、忍び会う、忍び泣く、立ち退く、立ち回る、付き添う、飛び上がる、飛び下りる、飛び込む、取り付く、殴り込む、乗り越す、乗り込む、見回る、向かい合う、寄り集まる
		非意志的自動詞:23語	行き止まる、生き別れる、居残る、移り変わる、生い立つ、落ち込む、返り咲く、切れ込む、焦げ付く、凍え死ぬ、死に別れる、滑り込む、出来上がる、通り抜ける、成り上がる、跳ね上がる、跳ね返る、引っ込む、触れ合う、結び付く、持ち上がる、盛り上がる、行き当たる
	辞書では条件つき可で、コーパスでは名詞化可:2語	意志的自動詞:1語	起き上がる
	非意志的自動詞:1語	沈み込む	
コーパスだけで確認できる:29語	名詞化可:22語	意志的自動詞:8語	追いつく、勝ち上がる、組み付く、忍び込む、立てこもる、乗り移る、走り込む、振り向く
		非意志的自動詞:14語	移り行く、生まれ育つ、思い当たる、折れ曲がる、食い込む、繰り上がる、繰り下がる、ずれ込む、垂れ下がる、溶け込む、寝返る、舞い上がる、焼き付く、焼け出される
	辞書で複合動詞が立項なし:7語	意志的自動詞:3語	駆け比べる、踏み入る、泣き寝入る
		非意志的自動詞:4語	飛び入る、跳ね込む、煮崩れる、焼け焦げる

表 3-9 にまとめた結果を見てわかるように、辞書とコーパスはそれぞれ規範性と実用性を基準にしているため、名詞化の可否については異なる結果が得られた。本研究は客観性と信頼性の両面を考慮に入れて、両方で名詞化できることを確認した語彙的複合自動詞に注目する。また、辞書とコーパスのいずれでも名詞化できる 46 語のうち語彙的複合自動詞「起き上がる、沈み込む」の名詞化は、コーパスでは自立的に使われた用例が見られるが、辞書では確認できない。基準を統一するために、辞書で確認できない「起き上がる、沈み込む」は除外し、辞書とコーパス両方で自立的な名詞化が確認できる語彙的複合自動詞の 44 語を次章の研究対象の一部として内在的な特徴を考察して分析する。（図 3-3 を参照）

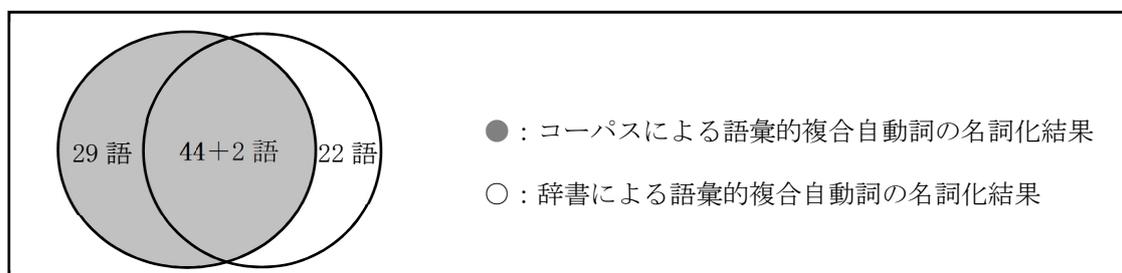


図 3-3

### 3.3 「VV型」語彙的複合他動詞の連用形が名詞化する状況

本節では、国立国語研究所の『複合動詞レキシコン』のデータベースから、「VV型」の語彙的複合他動詞（1086 語）を対象として抽出し、それらの語彙的複合他動詞の連用形が名詞化する状況を考察してまとめる。（付録Ⅲを参照）

#### 3.3.1 辞書によって抽出された語彙的複合他動詞の名詞化状況

これらの語彙的複合他動詞 1086 語の名詞化状況を辞書によって確認した結果、3.1 節の分類基準を参照し、同じように辞書に複合動詞の連用形が自立的な名詞の語彙項目として存在する場合を「名詞化可」、複合動詞の連用形自体が非自立で、補助形態素を加えたものが名詞の語彙項目として存在する場合を「条件付き可」、複合動詞の連用形はどのような形式でも名詞の語彙項目として存在しない場合を「不可」に分類する。また、一部の複合他動詞（240 語）は複合動詞自体が辞書に立項されていないため、「複合動詞が立項なし」と表記する。

表 3-10 『Dual 大辞林』による語彙的複合他動詞の名詞化状況

名詞化 の状況	「VV型」語彙的複合他動詞	辞書に掲載されている連用形名詞の 語彙項目
可： 252語	<p>明け渡す、預け入れる、あぶり出す、洗い出す、言い捨てる、言い伝える、言い逃れる、生け捕る、射込む、鑄込む、植え込む、植え付ける、受け入れる、受け取る、受け持つ、打ち上げる、打ち返す、打ち込む、打ち壊す、打ち出す、打ち鳴らす、打ち抜く、埋め合わせる、埋め立てる、売り込む、売り出す、売り渡す、選り抜く、追い落とす、追い越す、追い込む、追い出す、追い抜く、置き忘れる、送り込む、送り出す、押し入れる、押し込む、押し込める、押し倒す、押し出す、押し付ける、押し戻す、押っ付ける、折り込む、折り畳む、買い入れる、買い受ける、買い取る、買い戻す、書き入れる、書き置く、書き起こす、掻き落とす、書き込む、書き捨てる、書き付ける、書き取る、書き抜く、掻き混ぜる、掛け合わせる、掛け持つ、囲い込む、貸し出す、担ぎ出す、刈り入れる、借り入れる、刈り取る、着替える、聞き込む、聞き取る、聞き分ける、着古す、切り落とす、切り崩す、切り裂く、切りさげる、切り捨てる、切り出す、切り取る、切り抜く、切り回す、食い切る、組み合わせる、組み入れる、組み立てる、汲み取る、繰り上げる、繰り出す、蹴飛ばす、下げ渡す、差し立てる、締めくくる、締め出す、背負い込む、吸い込む、吸い出す、据え付ける、すげ替える、住み替える、刷り込む、擦り込む(摺り込む)、磨り出す、せせら笑う、攻め取る、迫り上げる、備え付ける、染め付ける、染め抜く、染め分ける、叩き込む、裁ち落とす、立て掛ける、使い古す、掴み取る、突き当たる、突き合わせる、突き落とす、突き倒す、突き出す、継ぎ足す、突き付ける、突き抜ける、搗き交ぜる、作り付ける、付け足す、伝え聞く、包み隠す、積み出す、詰め替える、詰め込む、吊り上げる、吊るし上げる、連れ込む、出迎える、問</p>	<p>明け渡し、預け入れ、あぶり出し、洗い出し、言い捨て、言い伝え、言い逃れ、生け捕り、射込み、鑄込み、植え込み、植え付け、受け入れ、受け取り、受け持ち、打ち上げ、打ち返し、打ち込み、打ち壊し、打ち出し、打ち鳴らし、打ち抜き、埋め合わせ、埋め立て、売り込み、売り出し、売り渡し、選り抜き、追い落とし、追い越し、追い込み、追い出し、追い抜き、置き忘れ、送り込み、送り出し、押し入れ、押し込み、押し込め、押し倒し、押し出し、押し付け、押し戻し、押っ付け、折り込み、折り畳み、買い入れ、買い受け、買い取り、買い戻し、書き入れ、書き置き、書き起こし、掻き落とし、書き込み、書き捨て、書き付け、書き取り、書き抜き、掻き混ぜ、掛け合わせ、掛け持ち、囲い込み、貸し出し、担ぎ出し、刈り入れ、借り入れ、刈り取り、着替え、聞き込み、聞き取り、聞き分け、着古し、切り落とし、切り崩し、切り裂き、切りさげ、切り捨て、切り出し、切り取り、切り抜き、切り回し、食い切り、組み合わせ、組み入れ、組み立て、汲み取り、繰り上げ、繰り出し、蹴飛ばし、下げ渡し、差し立て、締めくくり、締め出し、背負い込み、吸い込み、吸い出し、据え付け、すげ替え、住み替え、刷り込み、擦り込み(摺り込み)、磨り出し、せせら笑い、攻め取り、迫り上げ、備え付け、染め付け、染め抜き、染め分け、叩き込み、裁ち落とし、立て掛け、使い古し、掴み取り、突き当たり、突き合わせ、突</p>

<p>い掛ける、綴じ込む、届け出る、取り上げる、取り合わせる、取り入れる、取り返す、取り替える、取り込む、取り壊す、取りのける、取り外す、取り払う、泣き落とす、投げ込む、撫でつける、煮切る、煮出す、縫い込む、縫い取る、脱ぎ捨てる、抜き取る、盗み見る、塗り込む、願い出る、寝違える、乗っ取る、飲み込む、乗り潰す、履き替える、掃き込む、履き捨てる、掃き出す、働き掛ける、はめ込む、払い込む、払い下げる、払い戻す、貼り替える、貼り込む、貼り出す、貼り付ける、引き上げる、引き当てる、引き合わせる、引き入れる、引き受ける、引き写す、引き落とす、引き込む、引き下げる、引きずる、引き倒す、引き出す、引き付ける、引き抜く、引き延ばす、引き剥ぐ、引き回す、引っ張る、封じ込める、伏し拝む、踏み抜く、振り落とす、振り掛ける、振り込む、振り出す、振り回す、振り分ける、掘り抜く、舞い納める、巻き上げる、巻き込む、混ぜ返す、見送る、見落とす、見切る、見知る、見立てる、見通す、見取る、見習う、見逃す、見計らう、見開く、見遣る、見分ける、申し入れる、申し込む、申し出る、申し渡す、持ち帰る、持ち越す、持ち込む、持ち出す、持ち運ぶ、持ち回る、持ち寄る、揉み消す、盛り上げる、盛り込む、焼き付ける、雇い入れる、譲り渡す、寄せ集める、寄せ掛ける、呼び掛ける、呼び込む、呼び出す、呼び戻す、読み聞かせる、読み取る、割り当てる、割り出す、割り付ける、割り振る、割り戻す</p>	<p>き落とし、突き倒し、突き出し、継ぎ足し、突き付け、突き抜け、搦き交ぜ、作り付け、付け足し、伝え聞き、包み隠し、積み出し、詰め替え、詰め込み、吊り上げ、吊るし上げ、連れ込み、出迎え、問い掛け、綴じ込み、届け出、取り上げ、取り合わせ、取り入れ、取り返し、取り替え、取り込み、取り壊し、取りのけ、取り外し、取り払い、泣き落とし、投げ込み、撫でつけ、煮切り、煮出し、縫い込み、縫い取り、脱ぎ捨て、抜き取り、盗み見、塗り込み、願い出、寝違え、乗っ取り、飲み込み、乗り潰し、履き替え、掃き込み、履き捨て、掃き出し、働き掛け、はめ込み、払い込み、払い下げ、払い戻し、貼り替え、貼り込み、貼り出し、貼り付け、引き上げ、引き当て、引き合わせ、引き入れ、引き受け、引き写し、引き落とし、引き込み、引き下げ、引きずり、引き倒し、引き出し、引き付け、引き抜き、引き延ばし、引き剥ぎ、引き回し、引っ張り、封じ込め、伏し拝み、踏み抜き、振り落とす、振り掛け、振り込み、振り出し、振り回し、振り分け、掘り抜き、舞い納め、巻き上げ、巻き込み、混ぜ返し、見送り、見落とす、見切り、見知り、見立て、見通し、見取り、見習い、見逃し、見計らい、見開き、見遣り、見分け、申し入れ、申し込み、申し出、申し渡し、持ち帰り、持ち越し、持ち込み、持ち出し、持ち運び、持ち回り、持ち寄り、揉み消し、盛り上げ、盛り込み、焼き付け、雇い入れ、譲り渡し、寄せ集め、寄せ掛け、呼び掛け、呼び込み、呼び出し、呼び戻し、読み聞かせ、読み取り、割り当て、割り出し、割り付け、割り振り、割り戻し</p>
--	--

<p>条件つき：18語</p>	<p>押し上げる、押し下げる、織り込む、嘔み潰す、着せ替える、組み込む、吸い上げる、吸い付ける、吸い取る、炊き込む、釣り込む、飛び越す、取り戻す、縫い付ける、踏み分ける、掘り出す、巻き取る、呼び寄せる</p>	<p>押し上げポンプ、押し下げ介入、織込み済み、嘔み潰し錘、着せ替え人形、組み込み関数、吸い上げポンプ、吸い付けタバコ、吸い取り紙、炊き込み御飯、釣り込み腰、飛び越し走査、取り戻し権、縫いつけ紋、踏み分け石、掘り出し物、巻き取り紙、呼び寄せ高齢者</p>
<p>不可：576語</p>	<p>仰ぎ見る、明け払う、与り知る、編み込む、洗い流す、併せ持つ、言い当てる、言い表す、言い交わす、言い聞かせる、言いくるめる、言い消す、言い込める、言い足す、言い繕う、言い退ける、言い残す、言い含める、言い触らす、言い古す、言い負かす、射落とす、いぶり出す、忌み嫌う、入れ込める、入れ混ぜる、うかがい知る、請け負う、受け継ぐ、受け付ける、受け止める、受け流す、打ち落とす、打ち砕く、打ち殺す、打ち付ける、打ち取る、打ちのめす、討ち果たす、討ち滅ぼす、打ち負かす、打ち割る、映し出す、写し取る、奪い取る、生み落とす、生み出す、生み付ける、売りさばく、売り回る、描き出す、えぐり出す、選び出す、選び取る、選り分ける、追い上げる、追い返す、追い散らす、追い求める、追い遣る、覆い隠す、覆いかぶせる、送り返す、送り届ける、押し開ける、押し当てる、教え諭す、押し沈める、押し進める、推し進める、押し立てる、押し潰す、押し通す、押しとどめる、押し止める、押し流す、押しのける、推し量る、押し開く、押し曲げる、押し破る、押しやる、押し分ける、追っ払う、おっぼり出す、落とし入れる、脅し取る、おびき出す、思い合わせる、思い描く、思い起こす、思い焦がれる、思い定める、思い知る、思い悩む、思い残す、思い迷う、織り出す、織りなす、折り曲げる、織り交ぜる、搔い込む、買い込む、買い揃える、買い足す、搔い出す、買い整える、買い求める、抱え込む、搔き上げる、搔き集める、嗅ぎ当てる、書き著す、書き表す、搔き入れる、書き写す、搔き下ろす、書き加える、搔き込む、書き記す、書き添える、</p>	<p>(存在しない)</p>

<p>書き足す、書きためる、書き連ねる、書き留める、嗅ぎ取る、掻き鳴らす、書き残す、嗅ぎ回る、掻き乱す、掻きむしる、掻き分ける、嗅ぎ分ける、駆け上がる、駆け巡る、貸し与える、かすめ取る、稼ぎ出す、語り継ぐ、語り伝える、勝ち得る、勝ち進む、勝ち取る、担ぎ上げる、担ぎ込む、かなぐり捨てる、兼ね備える、噛み切る、噛み砕く、噛み分ける、醸し出す、絡み付ける、絡め取る、駆り集める、借り受ける、借り込む、借り倒す、駆り出す、借り出す、考え出す、感じ取る、着飾る、聞き入れる、聞き知る、聞き出す、聞きただす、聞きとがめる、聞き古す、着崩す、刻み込む、刻み付ける、着せ掛ける、切り刻む、切り殺す、切り倒す、切り詰める、切り離す、切り払う、切り開く、切り伏せる、切り結ぶ、切り揃える、食い荒らす、食い倒す、食い散らす、食いつなぐ、食い潰す、括り付ける、口説き落とす、汲み上げる、組み合わす、汲み入れる、酌み交わす、汲み込む、組み敷く、組み伏せる、汲み干す、繰り合わせる、繰り入れる、繰り下げる、くり抜く、繰り広げる、くわえ込む、蹴落とす、消し止める、削り取る、蹴散らす、蹴破る、蹴り上げる、蹴り込む、蹴り出す、恋い焦がれる、恋い慕う、乞い願う、こき落とす、漕ぎ出す、扱き使う、扱き混ぜる、挟き開ける、こすり付ける、探し出す、探り当てる、探り出す、差し付ける、刺し貫く、刺し通す、差し招く、誘い込む、誘い出す、さらけ出す、縛り付ける、絞り出す、絞り取る、仕舞い込む、絞め殺す、招き入れる、吸い寄せる、漉き込む、掬いあげる、救い上げる、救い出す、すすり込む、住み荒らす、すり下ろす、擦り付ける、擦り潰す、擦り抜ける、擦り減らす、擦りむく、攻め落とす、責め落とす、責め苛む、攻め減ぼす、競り上げる、競り落とす、煎じ出す、そぎ落とす、そぎ取る、注ぎ込む、染め出す、剃り落とす、抱き上げる、抱き起こす、抱き下ろす、抱き抱える、薫き込める、抱き止める、抱き寄せる、たくし上げる、</p>	
--	--

<p>たくし込む、たぐり込む、たぐり出す、助け出す、尋ね出す、叩き起こす、叩き落とす、叩き壊す、叩き出す、叩き付ける、畳み込む、断ち切る、断ち割る、立て切る、使い慣らす、突き当てる、突き合わす、継ぎ合わせる、突き入れる、突き動かす、突き切る、突き崩す、突き砕く、突き込む、つぎ込む、突き殺す、突き刺す、注ぎ足す、突き立てる、突き通す、突き飛ばす、突き抜く、突き放す、突き戻す、突き破る、付け加える、漬け込む、付けねらう、つつき出す、突っ切る、突っ立てる、突っ放す、突っぱねる、包み込む、繋ぎ止める、つまみ出す、積み上げる、積み重ねる、積み込む、摘み取る、釣り上げる、釣り落とす、吊り下げる、つり出す、連れ去る、連れ出す、連れ戻す、照らし合わす、照らし合わせる、照らし出す、問い合わせ、問いただく、解き明かす、説き明かす、説き聞かせる、研ぎ澄ます、説き付ける、解き放す、解き放つ、説き伏せる、解きほぐす、綴じ合わせる、閉じ込める、綴じ付ける、取り集める、取り押さえる、取り下ろす、取り籠める、取り殺す、取り捨てる、取り出す、取り逃がす、取り逃す、取り除く、取り離す、取り寄せる、取り分ける、流し込む、眺め暮らす、薙ぎ倒す、薙ぎ払う、泣き腫らす、投げ入れる、投げ返す、投げ掛ける、投げ捨てる、投げ倒す、投げ出す、投げ飛ばす、成し遂げる、なだめすかす、撫で上げる、撫で下ろす、握り込む、握り潰す、煮含める、にらみ合わせる、縫い合わせる、抜き出す、脱ぎ散らす、拭き取る、盗み出す、盗み取る、塗り隠す、塗り固める、塗り消す、塗り込める、塗り付ける、塗り潰す、ねじ開ける、ねじ上げる、ねじ伏せる、ねじ曲げる、ねじ向ける、ねじり上げる、練り合わせる、練り固める、飲み下す、飲み倒す、飲みつぶす、飲み干す、乗り過ごす、乗り捨てる、乗り継ぐ、乗り慣らす、計り知る、掃き清める、掃き捨てる、吐き捨てる、吐き出す、吐き散らす、剥ぎ取る、掃き寄せる、運び込む、運び出す、挟み入れる、</p>	
---	--

<p>挟み切る、挟み込む、挟み出す、弾き出す、跳ね上げる、跳ね返す、撥ね飛ばす、撥ねのける、払いのける、払い渡す、張り上げる、貼り合わせる、張り倒す、引き下ろす、引き比べる、轢き殺す、引き裂く、引きずり落とす、引きずり下ろす、引きずり込む、引きずり出す、引きずり回す、引きちぎる、引き詰める、引き連れる、引きとどめる、引き止める、弾き鳴らす、引き剥がす、引き外す、引き離す、引きむしる、引き戻す、引き破る、引き寄せる、引っ込める、引っ張り上げる、引っ張り込む、引っ張り出す、ひねり殺す、拾い上げる、吹き入れる、吹き掛ける、吹き消す、吹き散らす、吹き飛ばす、拭き取る、吹き鳴らす、吹き払う、踏み荒らす、踏み入れる、踏み固める、踏み殺す、踏み倒す、踏み出す、踏み散らす、踏み潰す、踏み均す、踏み鳴らす、踏みにじる、踏み外す、踏み破る、振り仰ぐ、振り上げる、振り下ろす、振り飛ばす、振り放す、振り払う、振りほどく、振り撒く、振り乱す、振り向ける、奮い起こす、ふり落とす、ふれ回る、踏ん付ける、へし折る、放り上げる、放り込む、放り出す、放り投げる、干し固める、ほじくり出す、ほっぼり出す、褒めそやす、誉め称える、掘り当てる、掘り起こす、掘り込む、巻き起こす、撒き散らす、巻き付ける、巻き戻す、まくし上げる、曲げ込む、混ぜ合わせる、待ち明かす、待ちくたびれる、待ち暮らす、待ち焦がれる、祭り上げる、招き入れる、招き寄せる、丸め込む、見出だす、見下ろす、見比べる、見捨てる、見て取る、見とがめる、見慣れる、見放す、迎え入れる、迎え撃つ、迎え取る、むしり取る、結び合わす、結び合わせる、結び付ける、召し抱える、召し出す、申し聞かせる、申し述べる、もぎ取る、もたせ掛ける、持ち上げる、持ち歩く、持ち替える、持ち崩す、持ち去る、揉み出す、揉みほぐす、もらい受ける、守り立てる、漏れ聞く、焼き捨てる、やり過ごす、やり遂げる、結い付ける、譲り受ける、茹でこぼす、揺り上げる、揺</p>	
---	--

	<p>り動かす、揺り起こす、揺り落とす、結わえ付ける、酔い潰す、呼び集める、呼び入れる、呼び起こす、呼び返す、呼び交わす、呼び止める、詠み込む、読み進む、読み流す、選り出す、分け与える、渡り歩く、笑い飛ばす、割り引く</p>	
<p>複合動詞が立項なし： 240語</p>	<p>嘲り笑う、暴き出す、編み合わせる、編み入れる、編み付ける、洗い落とす、洗い清める、言い伏せる、生け替える、射抜く、いぶし出す、植え替える、受け伝える、うずめ込む、歌い古す、移し入れる、移し植える、移し替える、写し込む、移し取る、訴え出る、奪い去る、生まれ持つ、埋め込む、描き込む、えぐり取る、選り抜く、追い入れる、教え育てる、教え導く、落とし込む、おびき入れる、買い集める、飼慣らす、抱え上げる、抱え入れる、抱え下りる、抱え下ろす、抱え出す、書き潰す、隠し込む、隠し持つ、囲い入れる、重ね上げる、かじり散らす、数え入れる、語り聞かせる、担ぎ入れる、担ぎ下ろす、担ぎ回る、かぶせ込む、刈り落とす、刻み入れる、刻み出す、着せ付ける、切り起こす、切り分ける、くぐり入る、くけ込む、汲み下ろす、くるみ込む、加え入れる、削り落とす、削り出す、蹴り入れる、蹴り転がす、蹴り倒す、蹴り飛ばす、漕ぎ上がる、漕ぎ入れる、漕ぎ下ろす、漕ぎ戻す、漉し出す、こしらえ出す、こすり入れる、こすり落とす、こすり込む、こそげ落とす、探し回る、探し求める、誘い入れる、さらい上げる、さらい込む、さらい出す、さらえ出す、さらし出す、しごき出す、沈め込む、絞り入れる、染み付ける、示し与える、しゃべり回る、透かし出す、掬い入れる、掬い出す、掬い取る、すげ替わる、滑り落とす、ずり上げる、摺り入れる、ずり落とす、ずり下ろす、擦り消す、刷り出す、注ぎ入れる、注ぎ掛ける、たくし入れる、たくり上げる、たぐり入れる、助け上げる、助け起こす、助け下ろす、叩き入れる、叩き飛ばす、食べ荒らす、食べ散らかす、だまし取る、ちぎり取る、使い減らす、掴み上げる、掴み入れる、掴み下ろす、掴み出す、突</p>	<p>/</p>

<p>き開ける、突き固める、繋ぎ合わす、繋ぎ合わせる、つまみ上げる、つまみ入れる、積み入れる、吊り下ろす、連れ帰る、連れ回る、溶かし入れる、溶かし込む、溶かし出す、溶き入れる、説き落とす、説き聞かす、溶き込む、研ぎ減らす、留め付ける、流し入れる、流し出す、殴り殺す、殴り倒す、投げ上げる、投げ与える、投げ落とす、なすり込む、悩み明かす、習い覚える、縫い合わす、縫い繕う、脱ぎ散らかす、盗み去る、練り合わす、練り込む、飲み比べる、乗り古す、掃き集める、掃き入れる、履き下ろす、掃きためる、履き古す、吐き戻す、運び上げる、運び入れる、運び下ろす、運び去る、運び回る、挟み上げる、弾き飛ばす、はたき落とす、はめ入れる、払い落とす、引きずり上げる、引きずり入れる、浸し入れる、引っ張り入れる、引っ張り下ろす、ひねくり出す、ひねり上げる、ひねり入れる、ひねり出す、拾い集める、拾い出す、封じ込む、拭き落とす、含み込む、踏み下ろす、踏み砕く、踏み消す、踏み壊す、振り入れる、振り動かす、放り落とす、彫り入れる、掘り入れる、掘り崩す、舞い上げる、巻き入れる、まくり入れる、混ぜ入れる、混ぜ込む、まつり付ける、招き込む、まぶし込む、まぶし付ける、導き入れる、導き出す、めくり上げる、召し入れる、申し聞かす、持ち倦む、揉み入れる、揉み込む、盛り入れる、漏れ承る、養い育てる、譲り与える、揺すり落とす、結わえ上げる、寄せ入れる、呼び回る、呼び迎える、読み進める、読み古す、分かち与える、分かち持つ、割り入れる、受け渡す、組み分ける、使い捨てる、流し打つ、盗み聞く、狙い打つ、覗き見る、払い出す、呼び捨てる</p>	
--	--

以上の表 3-10 に示したように、語彙的複合他動詞のうち、その連用形が単独で名詞の語彙項目として成立することが辞書『Dual 大辞林』によって確認できる複合他動詞は 252 語あるが、「押上げポンプ、炊き込み御飯、吸い取り紙」のように補助形態素を加えて初めて名詞の語彙項目として成立する複合他動詞が 18 語ある。そして、複合動詞の連用形が自

立した形式としても補助形態素を加えた形式としても名詞の語彙項目として辞書で確認できない動詞が576語ある。また、『複合動詞レキシコン』のデータベースでは複合動詞として認められているが、辞書では立項されていない語が240語あった。その240語のうち、「受け渡す、使い捨てる、流し打つ、盗み聞く」などの9語は、複合動詞自体が辞書に見つけられない一方、「受け渡し、使い捨て、流し打ち、盗み聞き」などの形で複合名詞の項目としては存在している。これらの複合動詞は名詞から動詞に転成する「逆形成」によって形成されたと考えられ、3.2.1.1節の「煮崩れ、焼け焦げ」の語例や3.2.2.1節の「泣き寝入り」の語例と同じように、複合動詞の「連用形名詞の語彙項目」として認めることは難しい。したがって、前の節と同様に、本研究の研究対象から除外する。

### 3.3.2 コーパスによって抽出された語彙的複合他動詞の名詞化状況

抽出された1086語の語彙的複合他動詞がコーパス（「BCCWJ」）に出現するかどうかを確認し、3.1節で言及された分類方法を援用し、複合動詞の連用形が自立的な名詞とする使用例がある場合を「名詞化可」、複合動詞の連用形に補助形態素を加えたものが名詞とする使用例がある場合を「条件付き可」、そしてどんな形式でも複合動詞の連用形が名詞とする使用例が見られない場合を「不可」に分け、その結果を表3-11に示した。

表 3-11 「BCCWJ」による語彙的複合他動詞の名詞化状況

名詞化 の状況	「VV型」の語彙的複合他動詞
可： 322 語	<p>明け渡す、預け入れる、あぶり出す、洗い出す、言い伝える、言い逃れる、生け捕る、鑄込む、植え込む、植え付ける、受け入れる、受け取る、受け持つ、受け渡す、打ち上げる、打ち込む、打ち壊す、打ち出す、打ち抜く、埋め合わせる、埋め立てる、売り込む、売り出す、売り渡す、選り抜く、追い落とす、追い越す、追い込む、追い出す、追い抜く、送り込む、送り出す、押し入れる、押し込む、押し込める、押し倒す、押し出す、押し付ける、折り込む、折り畳む、買い入れる、買い受ける、買い取る、買い戻す、書き入れる、書き置く、書き起こす、書き込む、書き付ける、書き取る、掛け合わせる、掛け持つ、囲い込む、貸し出す、担ぎ出す、刈り入れる、借り入れる、刈り取る、着替える、聞き込む、聞き取る、聞き分ける、着古す、切り崩す、切り裂く、切りさげる、切り捨てる、切り出す、切り取る、切り抜く、組み合わせる、組み入れる、組み立てる、汲み取る、組み分ける、繰り上げる、繰り出す、差し立てる、締めくくる、締め出す、吸い込む、吸い出す、据え付ける、すげ替える、住み替える、刷り込む、磨り出す、せせら笑う、備え付ける、染め付ける、染め抜く、染め分ける、叩き込む、裁ち落とす、立て掛ける、使い捨てる、使い古す、掴み取る、突き当たる、突き合わせる、突き落とす、突き倒す、突き出す、継ぎ足す、突き抜ける、作り付ける、付け足す、包み隠す、積み出す、詰め替える、詰め込む、吊り上げる、吊るし上げる、連れ込む、出迎える、問い掛ける、綴じ込む、届け出る、取り上げる、取り合わせる、取り入れる、取り返す、取り替える、取り込む、取り壊す、取り外す、取り払う、流し打つ、泣き落とす、投げ込む、煮切る、煮出す、縫い取る、抜き取る、盗み聞く、盗み見る、願い出る、寝違える、狙い打つ、覗き見る、乗っ取る、飲み込む、履き替える、掃き出す、働き掛ける、はめ込む、払い込む、払い下げる、払い出す、払い戻す、貼り替える、貼り付ける、引き上げる、引き当てる、引き合わせる、引き入れる、引き受ける、引き写す、引き落とす、引き込む、引き下げる、引きずる、引き倒す、引き出す、引き付ける、引き抜く、引き延ばす、引き剥ぐ、引き回す、引っ張る、封じ込める、踏み抜く、振り掛ける、振り込む、振り出す、振り分ける、掘り抜く、巻き上げる、巻き込む、見送る、見落とす、見切る、見立てる、見通す、見取る、見習う、見逃す、見開く、見分ける、申し入れる、申し込む、申し出る、申し渡す、持ち帰る、持ち越す、持ち込む、持ち出す、持ち運ぶ、持ち回る、持ち寄る、揉み消す、盛り込む、焼き付ける、雇い入れる、譲り渡す、寄せ集める、呼び掛ける、呼び出す、呼び戻す、呼び捨てる、読み聞かせる、読み取る、割り当てる、割り出す、割り付ける、割り振る、割り戻す、押し上げる、織り込む、噛み潰す、着せ替える、組み込む、吸い上げる、吸い取る、炊き込む、飛び越す、取り戻す、掘り出す、巻き取る、編み込む、請け負う、受け継ぐ、受け付ける、打ち割る、売りさばく、追い上げる、送り届ける、押し潰す、思い残す、買い込む、掻き集める、書き添える、書きためる、書き留める、書き残す、駆け上がる、語り伝える、借り出す、切り詰める、切り開く、食い潰す、汲み上げる、繰り入れる、繰り下げる、くり抜く、絞り出す、漉き込む、すり下ろす、競り上げる、注ぎ込む、畳み込む、突き崩す、つぎ込む、突き放す、繋ぎ止める、積み上げる、積み重ねる、積み込む、釣り上げる、つり出す、取り集める、取り下ろす、取り出す、取り寄せる、流し込む、投げ入れる、投げ掛ける、</p>

	<p>投げ捨てる、握り潰す、縫い合わせる、抜き出す、乗り継ぐ、運び込む、運び出す、挟み込む、跳ね上げる、跳ね返す、払い渡す、貼り合わせる、引き裂く、引き離す、引き戻す、引き寄せる、吹き入れる、拭き取る、踏み倒す、放り込む、掘り起こす、巻き付ける、巻き戻す、混ぜ合わせる、迎え入れる、結び付ける、持ち歩く、譲り受ける、茹でこぼす、割り引く、生け替える、植え替える、移し替える、埋め込む、買い集める、切り分ける、削り出す、刷り出す、突き固める、積み入れる、投げ上げる、練り込む、飲み比べる、履き古す、吐き戻す</p>
<p>条件付き： 8語</p>	<p>書き抜く、見知る、押し下げる、押し立てる、借り受ける、練り合わせる、救い出す、塗り潰す</p>
<p>不可： 756語</p>	<p>言い捨てる、射込む、打ち返す、打ち鳴らす、置き忘れる、押し戻す、押っ付ける、掻き落とす、書き捨てる、掻き混ぜる、切り落とす、切り回す、食い切る、蹴飛ばす、下げ渡す、背負い込む、擦り込む（摺り込む）、攻め取る、迫り上げる、突き付ける、搦き交ぜる、伝え聞く、取りのける、撫でつける、縫い込む、脱ぎ捨てる、塗り込む、乗り潰す、掃き込む、履き捨てる、貼り込む、貼り出す、伏し拝む、振り落とす、振り回す、舞い納める、混ぜ返す、見計らう、見遣る、盛り上げる、寄せ掛ける、呼び込む、吸い付ける、釣り込む、縫い付ける、踏み分ける、呼び寄せる、仰ぎ見る、明け払う、与り知る、洗い流す、併せ持つ、言い当てる、言い表す、言い交わす、言い聞かせる、言いくるめる、言い消す、言い込める、言い足す、言い繕う、言い退ける、言い残す、言い含める、言い触らす、言い古す、言い負かす、射落とす、いぶり出す、忌み嫌う、入れ込める、入れ混ぜる、うかがい知る、受け止める、受け流す、打ち落とす、打ち砕く、打ち殺す、打ち付ける、打ち取る、打ちのめす、討ち果たす、討ち滅ぼす、打ち負かす、映し出す、写し取る、奪い取る、生み落とす、生み出す、生み付ける、売り回る、描き出す、えぐり出す、選び出す、選び取る、選り分ける、追い返す、追い散らす、追い求める、追い遣る、覆い隠す、覆いかぶせる、送り返す、押し開ける、押し当てる、教え諭す、押し沈める、押し進める、推し進める、押し通す、押しとどめる、押し止める、押し流す、押しのける、押し量る、押し開く、押し曲げる、押し破る、押しやる、押し分ける、追っ払う、おっぼり出す、落とし入れる、脅し取る、おびき出す、思い合わせる、思い描く、思い起こす、思い焦がれる、思い定める、思い知る、思い悩む、思い迷う、織り出す、織りなす、折り曲げる、織り交ぜる、掻き込む、買い揃える、買い足す、掻き出す、買い整える、買い求める、抱え込む、掻き上げる、嗅ぎ当てる、書き著す、書き表す、掻き入れる、書き写す、掻き下ろす、書き加える、掻き込む、書き記す、書き足す、書き連ねる、嗅ぎ取る、掻き鳴らす、嗅ぎ回る、掻き乱す、掻きむしる、掻き分ける、嗅ぎ分ける、駆け巡る、貸し与える、かすめ取る、稼ぎ出す、語り継ぐ、勝ち得る、勝ち進む、勝ち取る、担ぎ上げる、担ぎ込む、かなぐり捨てる、兼ね備える、噛み切る、噛み砕く、噛み分ける、醸し出す、絡み付ける、絡め取る、駆り集める、借り込む、借り倒す、駆り出す、考え出す、感じ取る、着飾る、聞き入れる、聞き知る、聞き出す、聞きただす、聞きとがめる、聞き古す、着崩す、刻み込む、刻み付ける、着せ掛ける、切り刻む、切り殺す、切り倒す、切り離す、切り払う、切り伏せる、切り結ぶ、切り揃える、食い荒らす、食い倒す、食い散らす、食いつなぐ、括り付ける、口説き落とす、組み合わす、汲み入れる、酌み交わす、汲み込む、組み敷く、組み伏せる、汲み干す、練り広げる、くわえ込む、蹴落とす、消し止める、削り取る、蹴散らす、蹴</p>

破る、蹴り上げる、蹴り込む、蹴り出す、恋い焦がれる、恋い慕う、乞い願う、こき落とす、漕ぎ出す、扱き使う、扱き混ぜる、挟き開ける、こすり付ける、探し出す、探り当てる、探り出す、差し付ける、刺し貫く、刺し通す、差し招く、誘い込む、誘い出す、さらけ出す、縛り付ける、絞る取る、仕舞い込む、絞め殺す、招き入れる、吸い寄せる、掬いあげる、救い上げる、すすり込む、住み荒らす、擦り付ける、擦り潰す、擦り抜ける、擦り減らす、擦りむく、攻め落とす、責め落とす、責め苛む、攻め滅ぼす、競り落とす、煎じ出す、そぎ落とす、そぎ取る、染め出す、剃り落とす、抱き上げる、抱き起こす、抱き下ろす、抱き抱える、薫き込める、抱き止める（抱き留める?）、抱き寄せる、たくし上げる、たくし込む、たぐり込む、たぐり出す、助け出す、尋ね出す、叩き起こす、叩き落とす、叩き壊す、叩き出す、叩き付ける、断ち切る、断ち割る、立て切る、使い慣らす、突き当てる、突き合わす、継ぎ合わせる、突き入れる、突き動かす、突き切る、突き砕く、突き込む、突き殺す、突き刺す、注ぎ足す、突き立てる、突き通す、突き飛ばす、突き抜く、突き戻す、突き破る、付け加える、潰け込む、付けねらう、つつき出す、突っ切る、突っ立てる、突っ放す、突っばねる、包み込む、つまみ出す、摘み取る、釣り落とす、吊り下げる、連れ去る、連れ出す、連れ戻す、照らし合わす、照らし合わせる、照らし出す、問い合わす、問いただす、解き明かす、説き明かす、説き聞かせる、研ぎ澄ます、説き付ける、解き放す、解き放つ、説き伏せる、解きほぐす、綴じ合わせる、閉じ込める、綴じ付ける、取り押さえる、取り籠める、取り殺す、取り捨てる、取り逃がす、取り逃す、取り除く、取り離す、取り分ける、眺め暮らす、薙ぎ倒す、薙ぎ払う、泣き腫らす、投げ返す、投げ倒す、投げ出す、投げ飛ばす、成し遂げる、なだめすかす、撫で上げる、撫で下ろす、握り込む、煮含める、にらみ合わせる、脱ぎ散らす、拭き取る、盗み出す、盗み取る、塗り隠す、塗り固める、塗り消す、塗り込める、塗り付ける、ねじ開ける、ねじ上げる、ねじ伏せる、ねじ曲げる、ねじ向ける、ねじり上げる、練り合わせる、練り固める、飲み下す、飲み倒す、飲みつぶす、飲み干す、乗り過ごす、乗り捨てる、乗り慣らす、計り知る、掃き清める、掃き捨てる、吐き捨てる、吐き出す、吐き散らす、剥ぎ取る、掃き寄せる、挟み入れる、挟み切る、挟み出す、弾き出す、撥ね飛ばす、撥ねのける、払いのける、張り上げる、張り倒す、引き下ろす、引き比べる、轆き殺す、引きずり落とす、引きずり下ろす、引きずり込む、引きずり出す、引きずり回す、引きちぎる、引き詰める、引き連れる、引きとどめる、引き止める、弾き鳴らす、引き剥がす、引き外す、引きむしる、引き破る、引っ込める、引っ張り上げる、引っ張り込む、引っ張り出す、ひねり殺す、拾い上げる、吹き掛ける、吹き消す、吹き散らす、吹き飛ばす、吹き鳴らす、吹き払う、踏み荒らす、踏み入れる、踏み固める、踏み殺す、踏み出す、踏み散らす、踏み潰す、踏み均す、踏み鳴らす、踏みにじる、踏み外す、踏み破る、振り仰ぐ、振り上げる、振り下ろす、振り飛ばす、振り放す、振り払う、振りほどく、振り撒く、振り乱す、振り向ける、奮い起こす、ふるい落とす、ふれ回る、踏ん付ける、へし折る、放り上げる、放り出す、放り投げる、干し固める、ほじくり出す、ほっぼり出す、褒めそやす、誉め称える、掘り当てる、掘り込む、巻き起こす、撒き散らす、まくし上げる、曲げ込む、待ち明かす、待ちくたびれる、待ち暮らす、待ち焦がれる、祭り上げる、招き入れる、招き寄せる、丸め込む、見出だす、見下ろす、見比べる、見捨てる、見て取る、見とがめる、見慣れる、見放す、迎え撃つ、迎え取る、むしり取る、結び合わす、結び合わせる、召し抱える、召し出す、申し聞かせる、申し述べる、もぎ取る、もたせ掛ける、持ち上げる、持ち替える、持ち

崩す、持ち去る、揉み出す、揉みほぐす、もらい受ける、守り立てる、漏れ聞く、焼き捨てる、やり過ごす、やり遂げる、結い付ける、揺り上げる、揺り動かす、揺り起こす、揺り落とす、結わえ付ける、酔い潰す、呼び集める、呼び入れる、呼び起こす、呼び返す、呼び交わす、呼び止める、詠み込む、読み進む、読み流す、選り出す、分け与える、渡り歩く、笑い飛ばす、嘲り笑う、暴き出す、編み合わせる、編み入れる、編み付ける、洗い落とす、洗い清める、言い伏せる、射抜く、いぶし出す、受け伝える、うずめ込む、歌い古す、移し入れる、移し植える、写し込む、移し取る、訴え出る、奪い去る、生まれ持つ、描き込む、えぐり取る、選り抜く、追い入れる、教え育てる、教え導く、落とし込む、おびき入れる、飼い慣らす、抱え上げる、抱え入れる、抱え下りる、抱え下ろす、抱え出す、隠し込む、隠し持つ、囲い入れる、重ね上げる、かじり散らす、数え入れる、語り聞かせる、担ぎ入れる、担ぎ下ろす、担ぎ回る、かぶせ込む、刈り落とす、刻み入れる、刻み出す、着せ付ける、切り起こす、くぐり入る、くけ込む、汲み下ろす、くろみ込む、加え入れる、削り落とす、蹴り入れる、蹴り転がす、蹴り倒す、蹴り飛ばす、漕ぎ上がる、漕ぎ入れる、漕ぎ下ろす、漕ぎ戻す、漉し出す、こしらえ出す、こすり入れる、こすり落とす、こすり込む、こそげ落とす、探し回る、探し求める、誘い入れる、さらい上げる、さらい込む、さらい出す、さらえ出す、さらし出す、しごき出す、沈め込む、絞り入れる、染み付ける、示し与える、しゃべり回る、透かし出す、掬い入れる、掬い出す、掬い取る、すげ替わる、滑り落とす、ずり上げる、摺り入れる、ずり落とす、ずり下ろす、擦り消す、注ぎ入れる、注ぎ掛ける、たくし入れる、たくり上げる、たぐり入れる、助け上げる、助け起こす、助け下ろす、叩き入れる、叩き飛ばす、食べ荒らす、食べ散らかす、だまし取る、ちぎり取る、使い減らす、掴み上げる、掴み入れる、掴み下ろす、掴み出す、突き開ける、繋ぎ合わす、繋ぎ合わせる、つまみ上げる、つまみ入れる、吊り下ろす、連れ帰る、連れ回る、溶かし入れる、溶かし込む、溶かし出す、溶き入れる、説き落とす、説き聞かす、溶き込む、研ぎ減らす、留め付ける、流し入れる、流し出す、殴り殺す、殴り倒す、投げ与える、投げ落とす、なすり込む、悩み明かす、習い覚える、縫い合わす、縫い繕う、脱ぎ散らかす、盗み去る、練り合わす、乗り古す、掃き集める、掃き入れる、履き下ろす、掃きためる、運び上げる、運び入れる、運び下ろす、運び去る、運び回る、挟み上げる、弾き飛ばす、はたき落とす、はめ入れる、払い落とす、引きずり上げる、引きずり入れる、浸し入れる、引っ張り入れる、引っ張り下ろす、ひねくり出す、ひねり上げる、ひねり入れる、ひねり出す、拾い集める、拾い出す、封じ込む、拭き落とす、含み込む、踏み下ろす、踏み砕く、踏み消す、踏み壊す、振り入れる、振り動かす、放り落とす、彫り入れる、掘り入れる、掘り崩す、舞い上げる、巻き入れる、まくり入れる、混ぜ入れる、混ぜ込む、まつり付ける、招き込む、まぶし込む、まぶし付ける、導き入れる、導き出す、めくり上げる、召し入れる、申し聞かす、持ち倦む、揉み入れる、揉み込む、盛り入れる、漏れ承る、養い育てる、譲り与える、揺すり落とす、結わえ上げる、寄せ入れる、呼び回る、呼び迎える、読み進める、読み古す、分かち与える、分かち持つ、割り入れる、書き潰す

上の表 3-11 に示したように、コーパス「BCCWJ」によると、語彙的複合他動詞の連用形が自立的に名詞化できる使用例を確認できた語は 322 語あり、補助形態素を加えて名詞と

して使われる用例を確認した語が8語、自立的に名詞化できる用例も補助形態素を加えて使われる用例も確認できなかった語は756語あった。これを表3-10から得られた結果と比べると、全体として、語彙的複合他動詞の連用形が名詞に転成できる比率は低い。しかし、3.2.3節における語彙的複合自動詞の連用形に比べれば、語彙的複合他動詞の連用形の方が名詞に転成しやすい傾向がある。一方、名詞化可能な複合動詞の自立性が高いという点では複合自動詞も複合他動詞も共通している。

### 3.3.3 「VV型」語彙的複合他動詞の名詞化状況のまとめ

3.3.1節と3.3.2節では、抽出された「VV型」語彙的複合他動詞1086語を対象にして、それらの名詞化状況を辞書とコーパスによって確認した。確認した結果をそれぞれ下の表3-12と表3-13に示す。

表3-12 『Dual大辞林』による抽出された語彙的複合他動詞の名詞化状況

	名詞化可	条件付き可	不可	立項なし	計
語彙的複合他動詞	252	18	576	240	1086
計 (%)	23.2%	1.7%	53%	22.1%	100%

表3-13 「BCCWJ」による抽出された語彙的複合他動詞の名詞化状況

	名詞化可	条件付き可	不可	計
語彙的複合他動詞	322	8	756	1086
計 (%)	29.7%	0.7%	69.6%	100%

上の表3-12を表3-13から得られた結果と比べると、全体として、語彙的複合他動詞の連用形が名詞に転成できる比率は高くはなく（辞書での転成率は24.9%にとどまるが、コーパスでの転成率は30.4%である）、名詞化可能な語彙的複合他動詞は自立性が高いという点で辞書とコーパスから確認した結果の傾向が一致している。

また、3.3.1節の表3-10と3.3.2節の表3-11を比較すると、語彙的複合他動詞1086語の中で、223語は辞書とコーパスの両方で名詞化できることが確認できるが、相違点も存在している。下の表3-14を見てみよう。

表 3-14 辞書とコーパスによる抽出した語彙的複合他動詞の名詞化状況のまとめ

名詞化の状況		語彙的複合他動詞
辞書だけで確認できる： 47語	名詞化可： 42語	言い捨てる、射込む、打ち返す、打ち鳴らす、置き忘れる、押し戻す、押し付ける、搔き落とす、書き捨てる、搔き混ぜる、切り落とす、切り回す、食い切る、蹴飛ばす、下げ渡す、背負い込む、擦り込む、攻め取る、迫り上げる、突き付ける、搗き交ぜる、伝え聞く、取りのける、撫でつける、縫い込む、脱ぎ捨てる、塗り込む、乗り潰す、掃き込む、履き捨てる、貼り込む、貼り出す、伏し拝む、振り落とす、振り回す、舞い納める、混ぜ返す、見計らう、見遣る、盛り上げる、寄せ掛ける、呼び込む
	条件付き可：5語	吸い付ける、釣り込む、縫い付ける、踏み分ける、呼び寄せる
辞書とコーパスのいずれでも確認できる： 223語	<u>連用形が両方で名詞化可</u> ：208語	明け渡す、預け入れる、あぶり出す、洗い出す、言い伝える、言い逃れる、生け捕る、鑄込む、植え込む、植え付ける、受け入れる、受け取る、受け持つ、打ち上げる、打ち込む、打ち壊す、打ち出す、打ち抜く、埋め合わせる、埋め立てる、売り込む、売り出す、売り渡す、選り抜く、追い落とす、追い越す、追い込む、追い出す、追い抜く、送り込む、送り出す、押し入れる、押し込む、押し込める、押し倒す、押し出す、押し付ける、折り込む、折り畳む、買入れる、買い受ける、買い取る、買い戻す、書き入れる、書き置く、書き起こす、書き込む、書き付ける、書き取る、掛け合わせる、掛け持つ、囲い込む、貸し出す、担ぎ出す、刈り入れる、借り入れる、刈り取る、着替える、聞き込む、聞き取る、聞き分ける、着古す、切り崩す、切り裂く、切りさげる、切り捨てる、切り出す、切り取る、切り抜く、組み合わせる、組み入れる、組み立てる、汲み取る、繰り上げる、繰り出す、差し立てる、締めくくる、締め出す、吸い込む、吸い出す、据え付ける、すげ替える、住み替える、刷り込む、磨り出す、せせら笑う、備え付ける、染め付ける、染め抜く、染め分ける、叩き込む、裁ち落とす、立て掛ける、使い古す、掴み取る、突き当たる、突き合わせる、突き落とす、突き倒す、突き出す、継ぎ足す、突き抜ける、作り付ける、付け足す、包み隠す、積み出す、詰め替える、詰め込む、吊り上げる、吊るし上げる、連れ込む、出迎える、問い掛ける、綴じ込む、届け出る、取り上げる、取り合わせる、取り入れる、取り返す、取り替える、取り込む、取り壊す、取り外す、取り払う、泣き落とす、投げ込む、煮切る、煮出す、縫い取る、抜き取る、盗み見る、願い出る、寝違える、乗っ取る、飲み込む、履き替える、掃き出す、働き掛ける、はめ込む、払い込む、払い下げる、払い戻す、貼り替える、貼り付ける、引き上げる、引き当てる、引き合わせる、引き入れる、引き受ける、引き写す、引き落とす、引き込む、引き下げる、引きずる、引き倒す、引き出す、引き付ける、引き抜く、引き延ばす、引き剥ぐ、引き回す、引っ張る、封じ込める、踏み抜く、振り掛ける、振り込む、振り出す、振り分ける、掘り抜く、巻き上げる、巻き込む、見送る、見落とす、

		見切る、見立てる、見通す、見取る、見習う、見逃す、見開く、見分ける、申し入れる、申し込む、申し出る、申し渡す、持ち帰る、持ち越す、持ち込む、持ち出す、持ち運ぶ、持ち回る、持ち寄る、揉み消す、盛り込む、焼き付ける、雇い入れる、譲り渡す、寄せ集める、呼び掛ける、呼び出す、呼び戻す、読み聞かせる、読み取る、割り当てる、割り出す、割り付ける、割り振る、割り戻す
	<u>連用形が両方で条件付き可</u> ：1語	押し下げる
	<u>辞書では名詞化可で、コーパスでは条件付き可</u> ：2語	書き抜く、見知る
	<u>辞書では条件付き可で、コーパスでは名詞化可</u> ：12語	押し上げる、織り込む、噛み潰す、着せ替える、組み込む、吸い上げる、吸い取る、炊き込む、飛び越す、取り戻す、掘り出す、巻き取る
コーパスだけで確認できる：107語	名詞化可：78語	編み込む、請け負う、受け継ぐ、受け付ける、打ち割る、売りさばく、追い上げる、送り届ける、押し潰す、思い残す、買い込む、掻き集める、書き添える、書きためる、書き留める、書き残す、駆け上がる、語り伝える、借り出す、切り詰める、切り開く、食い潰す、汲み上げる、繰り入れる、繰り下げる、くり抜く、絞り出す、漉き込む、すり下ろす、競り上げる、注ぎ込む、畳み込む、突き崩す、つぎ込む、突き放す、繋ぎ止める、積み上げる、積み重ねる、積み込む、釣り上げる、つり出す、取り集める、取り下ろす、取り出す、取り寄せる、流し込む、投げ入れる、投げ掛ける、投げ捨てる、握り潰す、縫い合わせる、抜き出す、乗り継ぐ、運び込む、運び出す、挟み込む、跳ね上げる、跳ね返す、払い渡す、貼り合わせる、引き裂く、引き離す、引き戻す、引き寄せる、吹き入れる、拭き取る、踏み倒す、放り込む、掘り起こす、巻き付ける、巻き戻す、混ぜ合わせる、迎え入れる、結び付ける、持ち歩く、譲り受ける、茹でこぼす、割り引く
	条件付き可：5語	押し立てる、借り受ける、繰り合わせる、救い出す、塗り潰す
	辞書で複合動詞が立項なし：24語	生け替える、植え替える、移し替える、埋め込む、買い集める、切り分ける、削り出す、刷り出す、突き固める、積み入れる、投げ上げる、練り込む、飲み比べる、履き古す、吐き戻す、受け渡す、組み分ける、使い捨てる、流し打つ、盗み聞く、狙い打つ、覗き見る、払い出す、呼び捨てる

表 3-14 にまとめた結果を見て分かるように、辞書とコーパスの基準の相違を反映して、名詞化状況の結果は異なっている。語彙的複合他動詞の名詞化状況の中で、辞書とコーパスの両方で名詞化できる 223 語のうち、「書き抜く、見知る」のような辞書では自立的に使われる用例が見られるが、コーパスでは確認できない 2 語がある。一方、「組み込む、吸い上げる」などのようなコーパスでは自立的に使用された用例があるが、辞書では確認できない 12 語がある。また、語彙的複合他動詞「押し上げる」については、辞書とコーパスのいずれでもほかの形態素を加えて初めて名詞化できる。ここでは基準を統一するために、前述の場合と同じように、これらの語例は除外し、辞書とコーパス両方で自立的な名詞化が確認できる語彙的複合他動詞 208 語を研究対象として内在的な特徴を考察する。(図 3-4)

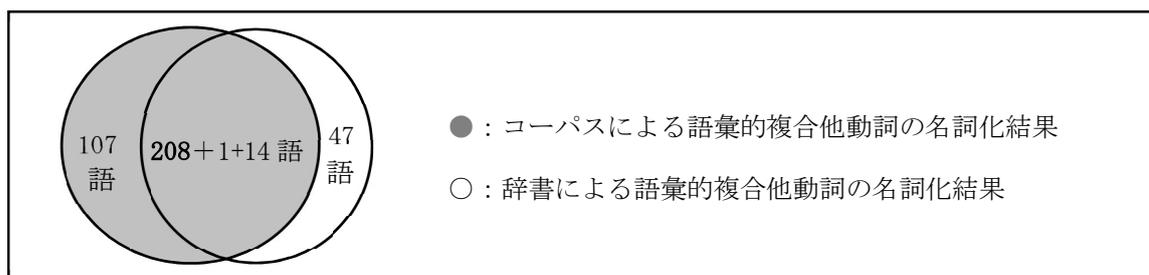


図 3-4

### 3.4 本章のまとめ

本章では、辞書『Dual 大辞林』とコーパス「BCCWJ」を利用して、国立国語研究所が開発したデータベース『複合動詞レキシコン』から抽出した全 1594 語の「VV型」語彙的複合動詞を中心に、その連用形の名詞化の状況を統計的に考察し、次章の名詞化できる語彙的複合動詞の特徴の考察の対象となる語を決定した。

考察の結果として、「VV型」語彙的複合動詞のうち、辞書とコーパスのいずれでも名詞化できるものは 269 語あり（自動詞は 46 語で、他動詞は 223 語）、全体として名詞に転成できる比率は低く（16.9%）が、その中で、語彙的複合他動詞は語彙的複合自動詞より名詞化しやすい（他動詞の名詞化の転成率は 21.7%が、自動詞の名詞化の転成率は 9.5%）ことがわかった。そして、名詞化可能な語彙的複合動詞は、連用形名詞の自立性が高い傾向が見られる（辞書とコーパスの両方で「名詞化可」に属する自動詞は 44 語で、他動詞は 208

語)。

また、辞書とコーパスはそれぞれ規範性と実用性を備えているため、名詞化の状況については異なる結果が得られた。本研究は客観性と信頼性の両面を考えるとともに、そして、基準を統一するために、辞書とコーパスの両方で自立的な名詞化が確認できる語彙的複合動詞 252 語（該当する自動詞と他動詞はそれぞれ 44 語と 208 語）を中心に内在的な特徴を考察して分析する。

## 第4章 名詞化できる「VV型」語彙的複合動詞にある特徴についての調査結果

### 4.1 はじめに

前章ではデータベース『複合動詞レキシコン』からの「VV型」の語彙的複合動詞を中心に、動詞の自他性を分け、その連用形の名詞化の状況を辞書とコーパスで考察して、本章が扱う自立的に名詞化可能な252語（複合自動詞の44語と複合他動詞の208語）を抽出した。本章は先行研究の理論に基づき、抽出した名詞化できる語彙的複合自動詞と語彙的複合他動詞について、それぞれ他動性調和の原則による前後項動詞の構造、語彙概念構造による前後項動詞間の意味関係と前後項動詞連用形の名詞化状況の三つの視点から、それらの名詞化可能な語彙的複合動詞が持つ特徴を考察して分析する。

### 4.2 本章に関わる先行研究の略述

本節では、本章が扱う名詞化可能な語彙的複合動詞の特徴考察に関わる先行研究に言及する。以下では、先行研究の中で代表的な、項構造に基づく語彙的複合動詞の結合制限である「他動性調和の原則」（影山 1993: 116-125）と語彙的複合動詞の意味構造に関する「語彙概念構造」（影山・由本 1997: 71-78）の先行研究について簡略に紹介する。

#### 4.2.1 影山「他動性調和の原則」（1993）

第二章の2.2.5節で触れたように、影山（1993）は、項構造に基づき外項を取るか否かで動詞を分類し、「語彙的複合動詞」を構成する動詞の組み合わせには、他動性調和の原則の制約があることを指摘している。他動性調和の原則は下の表4-1に示す。他動性調和の原則によって、語彙的複合動詞にある項構造をより明確化することができる。

表4-1 動詞の項構造による他動性調和の原則

種類	意志性	外項	内項	他動詞との結合	非能格自動詞との結合	非対格自動詞との結合
他動詞	+	+	+	+	+	-
非能格自動詞	+	+	-	+	+	-
非対格自動詞	-	-	+	-	-	+

## 4.2.2 影山・由本「語彙概念構造」(1997)

第二章の2.3.2節で触れた影山・由本(1997)は、語彙概念構造(LCS)に基づき、語彙的複合動詞の前項と後項動詞の意味関係を四種類に分けている。影山・由本(1997)によれば、語彙的複合動詞には時間関係を提示する接続語のようなものがなく、前項と後項動詞が表す事象の時間関係は発話の順序通りに解釈される。そのため、双方の動詞が表す事象の時間関係は、両方が同時に発生するか、あるいは前項が表す事象が後項の事象より先行するかのいずれかである。この時間関係のもとに、前項と後項動詞の概念構造内部の変項が同定するか否かなどの制約条件を参照して判定することによって、四つの意味関係に分類している。その意味関係の分類と各分類の制約を表4-2に示す。

表4-2 語彙概念構造による語彙的複合動詞前項と後項動詞の意味関係

種類	時間関係	制約	LCS	語例
並列関係	$t1 = t2$ <sup>3</sup> (同時)	① 変項の同定 ② 前後項が同等な重さ (同等なアスペクトなど)を持つ	[LCS1] AND [LCS2]	泣き叫ぶ
付帯状況	$t1 = t2$ (同時)	① 前項は継続相のみ ② 前項が後項の主要部の動詞に付随する ③ 変項の同定	[LCS1] WHILE [LCS2]	遊び暮らす
手段・原因	$t1 \geq t2$ (前後)	前項が表す事象が後項より先行する	[LCS2] BY [LCS1]	勝ち取る
補文構造	-	前項の事象全体が後項の事象における項となる	[LCS2] .. [LCS1] .. ]	使い果たす

本章では、これらの先行研究を踏まえ、「他動性調和の原則」や「語彙概念構造」の理論に基づき、名詞化できる語彙的複合動詞が持つ項構造と概念構造などについての特性と傾向を考察する。

<sup>3</sup>  $t1$  は語彙的複合動詞の前項動詞が表す事象 (EVENT) が行われる時間点であり、 $t2$  は後項動詞が表す事象が行われる時間点である。

### 4.3 連用形が名詞化できる語彙的複合自動詞にある特徴

#### 4.3.1 「他動性調和の原則」に基づく前後項動詞の構造から見る

先行研究のまとめ(4.2節)で言及したように、影山(1993)は項構造によって、動詞を「他動詞」「非能格自動詞」と「非対格自動詞」の三種類に大別した。さらに、語彙的複合動詞の形成に際し、項構造において共通性を持つ二つの動詞が結合するという「他動性調和の原則」が一般的に存在すると指摘した。即ち、他動詞は他動詞および非能格自動詞と結合でき、意志的な非能格自動詞は非能格自動詞とも他動詞とも結合できるが、非意志的な非対格自動詞は非対格自動詞のみと組み合わせさせて、語彙的複合動詞を形成する。本節は、この他動性調和の原則に基づいて、抽出された語彙的複合自動詞をそれぞれ四つのタイプに分類して、名詞化できる語彙的複合自動詞にある項構造の組み合わせの特徴を考察する。各タイプによって名詞化できる語彙的複合自動詞を分類した結果を表4-3に示す。

影山は「非対格自動詞と非能格自動詞」即ち自動詞の意志性の有無に対する具体的な分類基準について言明していないため、語彙的複合動詞の前項か後項が自動詞の場合、本研究では以下の基準で分類する。① 辞書『Dual 大辞林』による複合動詞の意味を前項後項動詞の意味と対照し、前項後項動詞から継承された意味で判断する。② もし①の基準で判断しにくい場合、特に前項後項自動詞に意志的・非意志的な場合の両方が可能である場合は、複合動詞を「NINJAL-LWP for BCCWJ」<sup>4</sup>に入れて検索し、その中の共起パターンから使用頻度が高い順に例文を見ながら判断して分類する。例えば、「生い立つ、移り変わる」それぞれの後項動詞「立つ」と「変わる」には意志・無意志の両方の場合があるため、「NINJAL-LWP for BCCWJ」から使用頻度が高い順に例文を出して検討する。例(1)と(2)のような例から、その2語は非意志性を持ち、「非対格自動詞+非対格自動詞」のパターンに該当すると判断できる。

(1) ・地球の生い立ち、生命の進化の歴史、群馬の自然を紹介している博物館のホームページ。

・とはいえ、二人の生い立ち、革命思想を懐くに至った過程はずいぶん異なる。

<sup>4</sup> 「NINJAL-LWP for BCCWJ」は国立国語研究所が構築した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（「BCCWJ」）を検索するために、国立国語研究所とLago言語研究所が共同開発したオンライン検索システムである。名詞や動詞などの内容語の共起関係や文法的振る舞いを網羅的に表示できるのがこのシステムの最大の特長である。

- (2) ・この世に生まれたものはすべて移り変わっていく。  
 ・このように、季節が移り変わる地域では、温度・光・水・大気・土壌などの非生物的環境が大きく変動するため、生物の生活は、それに強く影響を受ける。

表 4-3 他動性調和の原則に基づく名詞化できる語彙的複合自動詞のタイプの分布

種類	タイプ	各パターンに該当する名詞化できる語彙的複合自動詞	
意志的自動詞	非能格自動詞＋非能格自動詞	9語 (42.9%)	歩み寄る、生き残る、立ち退く、立ち回る、付き添う、飛び上がる、飛び下りる、向かい合う、寄り集まる
	他動詞＋非能格自動詞 非能格自動詞＋他動詞	8語 (38.1%)	討ち入る、食い付く、忍び会う、忍び泣く、取り付く、見回る、言い争う、乗り越す
	*非能格自動詞＋分類不能	3語 (14.3%)	駆け込む、飛び込む、乗り込む
	*他動詞＋分類不能	1語 (4.8%)	殴り込む
非意志的自動詞	非対格自動詞＋非対格自動詞	12語 (52.2%)	移り変わる、生い立つ、返り咲く、焦げ付く、凍え死ぬ、死に別れる、出来上がる、通り抜ける、成り上がる、跳ね上がる、跳ね返る、触れ合う
	*非対格自動詞＋分類不能	4語 (17.4%)	落ち込む、切れ込む、滑り込む、引っ込む
	*非能格自動詞と非対格自動詞の組み合わせ	4語 (17.4%)	居残る、行き止まる、生き別れる、行き当たる
	*他動詞と非対格自動詞の組み合わせ	2語 (8.7%)	持ち上がる、盛り上がる
	他動詞＋非能格自動詞	1語 (4.3%)	結び付く

意志的自動詞では、「歩み寄る、生き残る」のような「非能格自動詞＋非能格自動詞」のタイプが一番多く（9語・42.9%）、次いで多いのが「他動詞＋非能格自動詞の組み合わせ」のタイプ（8語・38.1%）である。この二つのタイプの語数を合わせて、名詞化できる意志的複合自動詞の大半は他動性を持つ項構造の語の組み合わせである。

一方、非意志的自動詞では、「移り変わる、生い立つ」のような「非対格自動詞＋非対格自動詞」の組み合わせが一番多く12語（52.2%）あり、名詞化できる非意志的複合自動詞の半数以上を占める。

表4-3を見ると、名詞化できる語彙的複合自動詞の8割近くは他動性調和原則に従っているが、原則に違反するのも存在する。まず、意志的自動詞のうち、「非能格自動詞＋分類不能」（3語・14.3%）と「他動詞＋分類不能」（1語・4.8%）のタイプはいずれも他動性調和の原則を満たしているかどうか決定できないが、全て同じように後項動詞「込む」を取っている。語彙的複合動詞の後項動詞として、「込む」はある場所の内部に移動する意味を持ち、単独で使うことができない。そして、「駆け込む、飛び込む、乗り込む、殴り込む」の前項動詞「駆ける、飛ぶ、乗る、殴る」そのものは方向性を持っていないが、後項動詞「込む」が付くことで方向性が生まれる。しかし、後項動詞「付く」が前項動詞の「格特性を抑制する」（影山1993）のと異なり、後項動詞としての「込む」は前項動詞の項構造を受け継がず、自身そのものの項構造を保持し、到達を表す非対格自動詞のまま変わっていない。その点について影山（1993）は、「込む」は複合動詞の後項動詞として機能する時、他動詞、非能格自動詞、非対格自動詞すべてを前項動詞とすることができ、他動性調和の原則に反するが、それは項構造のレベルではなく、語彙部門内で利用できる語彙概念構造のレベルで処理できると述べている。

一方、非意志的自動詞の中には、前述と同じように後項動詞「込む」をとる「非対格自動詞＋分類不能」のタイプが4語（17.4%）あるほか、「非能格自動詞と非対格自動詞の組み合わせ」と「他動詞と非対格自動詞の組み合わせ」のタイプはそれぞれ4語（17.4%）と2語（8.7%）あり、いずれも他動性調和の原則に違反するが、これらも次節で見るように、語彙概念構造によって説明できる。したがって、本節で述べた他動性調和原則は、語彙概念構造で説明される語例を除けば全ての語彙的複合動詞に適用できることになる。なお、後者「他動詞と非対格自動詞の組み合わせ」に該当する「持ち上がる、盛り上がる」の2語にはそれぞれ対応する複合他動詞形「持ち上げる、盛り上げる」が存在し、西尾（1982）と須賀（1983）によれば、これらの複合自動詞（「持ち上がる、盛り上がる」）は対応する複合他動詞形（「持ち上げる、盛り上げる」）から逆形成されたものと考えられる。

## 4.3.2 「語彙概念構造」に基づく前後項動詞の意味関係から見る

前に触れたように、影山・由本（1997）は語彙概念構造（LCS）の理論に基づき、前後項動詞の意味関係の視点から、語彙的複合動詞を「並列関係」「付帯状況」「手段・原因」と「補文構造」の四類に分けている。本節では、この分類基準を用いて、抽出された連用形が名詞化できる語彙的複合自動詞（前章で辞書とコーパスいずれでも自立的に名詞化できると確認した44語）における前後項の意味関係の特徴を考察する。まず、その意味関係の分類の分布を表4-4に示す。

表4-4 前後項の意味関係の分類による名詞化できる語彙的複合自動詞の分布

前後項の意味関係の分類	各分類に該当する語彙的複合自動詞	
並列関係	12語 (27.3%)	言い争う、生き残る、立ち退く、付き添う、居残る、死に別れる、出来上がる、通り抜ける、成り上がる、触れ合う、結び付く、盛り上がる
付帯状況	3語 (6.8%)	忍び会う、忍び泣く、生き別れる
手段・原因	29語 (65.9%)	歩み寄る、討ち入る、駆け込む、食い付く、立ち回る、飛び上がる、飛び下りる、飛び込む、取り付く、殴り込む、乗り越す、乗り込む、見回る、向かい合う、寄り集まる、行き止まる、移り変わる、生い立つ、落ち込む、返り咲く、切れ込む、焦げ付く、凍え死ぬ、滑り込む、跳ね上がる、跳ね返る、引っ込む、持ち上がる、行き当たる
補文構造	該当なし	-

表4-4に示したように、名詞化できる語彙的複合自動詞には「並列関係」「付帯状況」「手段・原因」という前後項動詞の意味関係のタイプが三つあり、「補文構造」に属する語は見当たらない。その中で、「手段・原因」類が最も多く、半数以上を占める。

## ① 「並列関係」類（[LCS1] AND [LCS2]）

前後項の意味関係が「並列関係」類に属する、名詞化できる語彙的複合自動詞は12語（27.3%）ある。

(3) 「言い争う」 例：心配のあまり両親は激しく言い争う。

[[x] SAY] + [[x'] QUARREL] → [[[x<sub>i</sub>] SAY] AND [[x'<sub>i</sub>] QUARREL]]

→ [[x<sub>i</sub>] SAY AND QUARREL]

例(3)で前項と後項動詞の意味関係が「並列関係」類に属する「言い争う」の語彙概念構造の合成を示したように、「言い争う」は、前項動詞「SAY」（「言う」を表す意味述語）と後項動詞「QUARREL」（「争う」を表す意味述語）が表す事象が同時に発生する事象であり、そして前後項動詞はいずれも同じ外項「両親」(x<sub>i</sub>)をとって、また前項動詞「言う」と後項動詞「争う」が表す事象が全く同等の重さを持っているため、同じ人物によってなされる一つの行為を表す動詞概念となることができる。したがって、「言い争う」のような語彙的複合自動詞は「並列関係」のタイプに該当する。

## ② 「付帯状況」類（[LCS1] WHILE [LCS2]）

前後項の意味関係が「付帯状況」類に入る、名詞化できる語彙的複合自動詞は3語(6.8%)しかない。

(4) 「忍び泣く」 例：それまで、黙ってうつむいていた亜希子が、低い声でしのび泣いていた。

[[x] HIDE ] + [[x] WEEP ] → [[[x<sub>i</sub>] WEEP ] WHILE [[x<sub>i</sub>] HIDE ]]

例(4)で「付帯状況」類に属する「忍び泣く」の語彙概念構造の合成を示したように、「忍び泣く」は、前項動詞「HIDE」（「忍ぶ」を表す意味述語）と「WEEP」（「泣く」を表す意味述語）が表す二つの事象が同時進行するが、前項動詞「忍ぶ」が表す事象は主動詞「泣く」が表す事象に付随する事態であるため、「忍び泣く」のような語彙的複合自動詞は「付帯状況」のタイプに属する。

## ③ 「手段・原因」類（[LCS2] BY [LCS1]）

前後項の意味関係が「手段・原因」類に該当する、名詞化できる語彙的複合自動詞は28語(65.9%)ある。

(5) 「乗り越す」 例：席を守るのに熱中しすぎて、乗り越してしまうこともある。

[[x] GET ON [z]] + [[x'] PASS [y]] → [[x<sub>i</sub>] PASS [y<sub>j</sub>]] BY [[x<sub>i</sub>] GET ON]

例(5)で「手段・原因」類に入る「乗り越す」の語彙概念構造の合成を示したように、「乗り越す」は、前項動詞「GET ON」（「乗る」を表す意味述語）が表す事象が後項動詞「PASS」（「越す」を表す意味述語）が表す事象に先行し、前項動詞「乗る」が表す事象が後項動詞「越す」が表す事象の原因になるため、「手段・原因」類に属する。また、「食い付く」（「食うことによって付く」）のように、前項動詞が表す事象が、後項動詞が表す事象の手段である場合も、この「手段・原因」類に属する。

一方、前節で述べた他動性調和の原則に違反する「動詞+込む」の複合動詞を語彙概念構造のレベルで処理することについては、由本（1997）によれば、語彙概念構造の分類においても特別なタイプと考えることができ、「動詞+込む」は、上の四つの語彙概念構造のパターンと異なり、「込む」自体の一定の意味作用に従い、語彙概念構造を形成すると言うことができる。また、この点については、英語の接頭辞とも似ていると考えられる。しかし、「動詞+込む」の語彙的複合自動詞はいずれも語彙概念構造の「手段・原因」類に分類できるとも考えられる。例えば、前項動詞を「V1」で表記し、「駆け込む、飛び込む、乗り込む、殴り込む」などの概念構造の合成を簡略に示すと、すべて、[[V1]+[込む]] → [V1 することによって、内側に入る]と説明することができ、「手段・原因」類に該当すると言える。

また、前節で述べた他動性調和原則に反する「込む」を含まない複合動詞についても、語彙概念構造で説明することはできる。例えば、「行き止まる、行き当たる、持ち上がる」の前後項動詞は「手段・原因」の意味関係であり、「生き別れる」と「盛り上がる」の前後項動詞はそれぞれ「付帯状況」と「並列関係」の意味関係がある。

### 4.3.3 前項と後項動詞の連用形の名詞化の状況から見る

語彙的複合自動詞の連用形名詞は複合動詞の前項動詞の連用形が後項動詞の連用形と複合された組み合わせなので、前後項動詞の連用形が名詞に転成することができるか否か、そして名詞化できた場合に、前後項動詞の連用形を単独で名詞として使うことができるかどうかは、語彙的複合自動詞の連用形が名詞化するプロセスに影響がある可能性がある

想定される。したがって、本節では、語彙的複合自動詞における前後項動詞の連用形名詞化の状況を調べ、連用形が名詞化できる語彙的複合自動詞（前章で辞書とコーパスいずれも自立的に名詞化できると確認した44語）にある特徴を考察する。まず、辞書とコーパスで確認した分布状況をそれぞれ表4-5と表4-6に示す。

前後項動詞の連用形が単独で辞書『Dual大辞林』の名詞語彙項目として立項されている場合、又はコーパス（「BCCWJ」）で自立的な名詞として使われた用例がある場合に、名詞化の状況を「可」と表記し、前後項動詞の連用形に補助形態素を加えたものが辞書の名詞語彙項目にある場合、又はコーパスで名詞として使われた用例がある場合は「補助可」、どのような形式でも前後項動詞の連用形が辞書の名詞語彙項目になくコーパスで名詞として使われた用例も見られない場合に、「不可」と表記する。例えば、「食い付く」の前項動詞「食う」の連用形「食い」と後項動詞「付く」の連用形「付き」は、辞書によると、両方とも単独の形で名詞の語彙項目にあり、コーパスにも名詞として使われた用例があるため、「可+可」の組み合わせとなる。一方、「付き添う」の前項動詞「付く」の連用形「付き」は、辞書とコーパスによって「可」のタイプに属するが、後項動詞「添う」の連用形「添い（そい）」は、単独で名詞の語彙項目としては確認できず、「添い寝」のような補助形態素と結合した形で名詞の語彙項目となり、コーパスでも使用されるため、「添う」の連用形の名詞化状況は「補助可」のタイプに属し、「付き添う」は「可と補助可の組み合わせ」になる。

なお、「添い（ぞい）」は、名詞の語彙項目として辞書に存在するが、動詞連用形の「濁音化」が関わっているため、今回は「添う（そう）」の連用形名詞とは見なさない。また、「掛かり」は単独で名詞の語彙項目として辞書に存在するが、辞書には「掛かること」という意味は記載されていない。しかし、動詞の連用形が名詞に転成する過程で語の意味の変化（意味の拡大或いは意味の縮小）が起きた可能性もあるため、本稿では「掛かり」を「掛かる」の単独で成立する連用形名詞と見なす。

表 4-5 前後項動詞の名詞化の状況による名詞化できる語彙的複合自動詞の分布 (辞書)

前後項動詞連用形の名詞化状況の組み合わせ	辞書で確認した各パターンに該当する語彙的複合自動詞	
可+可	32 語 (72.7%)	歩み寄る、生き残る、駆け込む、食い付く、忍び泣く、立ち回る、飛び上がる、飛び込む、取り付く、殴り込む、乗り込む、見回る、寄り集まる、行き止まる、生き別れる、居残る、移り変わる、落ち込む、切れ込む、焦げ付く、死に別れる、滑り込む、出来上がる、通り抜ける、成り上がる、跳ね上がる、跳ね返る、引っ込む、結び付く、持ち上がる、盛り上がる、行き当たる
可と補助可の組み合わせ	10 語 (22.7%)	忍び会う、立ち退く、付き添う、飛び下りる、乗り越す、言い争う、討ち入る、向かい合う、生い立つ、触れ合う
可と不可の組み合わせ	2 語	返り咲く、凍え死ぬ

表 4-6 前後項動詞の名詞化の状況による名詞化できる語彙的複合自動詞の分布

(コーパス)<sup>5</sup>

前後項動詞連用形の名詞化状況の組み合わせ	コーパス (BCCWJ) で確認した各パターンに該当する語彙的複合自動詞	
可+可	34 語 (77.3%)	歩み寄る、 <u>言い争う</u> 、生き残る、食い付く、 <u>忍び会う</u> 、 <u>忍び泣く</u> 、立ち回る、飛び上がる、飛び込む、取り付く、乗り込む、見回る、寄り集まる、行き止まる、生き別れる、居残る、移り変わる、落ち込む、 <u>返り咲く</u> 、切れ込む、焦げ付く、 <u>凍え死ぬ</u> 、死に別れる、滑り込む、出来上がる、通り抜ける、成り上がる、跳ね上がる、跳ね返る、引っ込む、結び付く、持ち上がる、盛り上がる、行き当たる
可と補助可の組み合わせ	8 語 (18.2%)	討ち入る、 <u>駆け込む</u> 、立ち退く、付き添う、 <u>殴り込む</u> 、乗り越す、向かい合う、触れ合う
可と不可の組み合わせ	2 語 (4.5%)	<u>飛び下りる</u> 、 <u>生い立つ</u>

上の表 4-5 と 4-6 に示したように、抽出された名詞化できる語彙的複合動詞の前後項動

<sup>5</sup> 表 4-6 で下線を付している語は表 4-5 の辞書で確認した分類と異なる語である。

詞の名詞化状況をそれぞれ辞書とコーパスで確認すると、いずれもほぼ同じような分布であり、全体として前項動詞と後項動詞のうち少なくとも一方は単独で名詞化できる傾向が見られる。その中で、前項と後項動詞の両方が単独で名詞化できる「可+可」の組み合わせは全体の三分の二以上（それぞれ 32 語・72.7%と 34・77.3%語）を占め、圧倒的に最多のパターンであることがわかる。

#### 4.3.4 連用形が名詞化できない語彙的複合自動詞にある特徴の略述

名詞化できる語彙的複合自動詞が持つ各特徴をより明確にするために、抽出された全 508 語の「VV型」語彙的複合自動詞のうち、辞書（『Dual 大辞林』）とコーパス（「BCCWJ」6）のいずれでも名詞化できない複合動詞の中からランダムに同じ 44 語（表 4-7a に示す）を（「遊び暮らす、流れ歩く」などの意志的な 21 語と「現れ出る、並び立つ」などの非意志的な 23 語）取り出して考察した。そして、考察の結果得られた特徴分布を連用形が名詞化可能な語彙的複合他動詞の特徴分布と対照した結果を表 4-7b に示した。

表 4-7a ランダムに抽出された連用形が名詞化できない語彙的複合自動詞（44 語）

種類	ランダムに抽出された名詞化できない語彙的複合自動詞	
意志的自動詞	21 語	遊び暮らす、言い寄る、帰り着く、食らい付く、忍び寄る、攻め込む、抱き付く、詰め寄る、飛び起きる、流れ歩く、泣き叫ぶ、逃げ去る、飲み潰れる、乗り入る、走り回る、跳ねのく、踏み越える、吠え付く、もたれ掛かる、寄り添う、分け入る
非意志的自動詞	23 語	現れ出る、生まれつく、生い茂る、消え去る、転がり落ちる、絡み付く、折れ込む、折り重なる、咲き残る、染み出る、過ぎ去る、流れ着く、照り輝く、突き立つ、吹き入る、舞い落ちる、湧き出る、並び立つ、迫り来る、勝ち誇る、覆いかぶさる、擦り切れる、付け加わる

表 4-7b 抽出した名詞化不可と名詞化可能な語彙的複合動詞の特徴分布の対照結果

他動性調和の原則の視点から見る						
種類	他動性調和の原則によるタイプ	名詞化可能な複合動詞の語数		名詞化不可の複合動詞の語数	他動性調和の原則によるタイプ	種類
意志的動詞 (21語)	非能格自動詞+非能格自動詞	9語 (42.9%)	VS	11語 (52.4%)	非能格自動詞+非能格自動詞	意志的動詞 (21語)
	他動詞+非能格自動詞 非能格自動詞+他動詞	8語 (38.1%)		5語 (23.8%)	他動詞+非能格自動詞	
	*非能格自動詞+分類不能	3語 (14.3%)		4語 (19.0%)	*非能格自動詞と非対格自動詞の組み合わせ	
	*他動詞+分類不能	1語 (4.8%)		1語 (4.8%)	*他動詞+分類不能	
非意志的動詞 (3語)	非対格自動詞+非対格自動詞	12語 (52.2%)		18語 (78.3%)	非対格自動詞+非対格自動詞	非意志的動詞 (3語)
	*非対格自動詞+分類不能	4語 (17.4%)		1語 (4.3%)	*非対格自動詞+分類不能	
	*非能格自動詞と非対格自動詞の組み合わせ	4語 (17.4%)		1語 (4.3%)	非能格自動詞+非能格自動詞	
	*他動詞と非対格自動詞の組み合わせ	2語 (8.7%)		3語 (13.0%)	*他動詞+非対格自動詞	
	他動詞+非能格自動詞	1語 (4.3%)		-	-	
語彙概念構造の視点から見る						
前後項の意味関係の分類	名詞化可能な複合他動詞の語数		VS	名詞化不可の複合他動詞の語数	前後項の意味関係の分類	
並列関係	12語 (27.3%)			21語 (47.7%)	並列関係	
付帯状況	3語 (6.8%)			6語 (13.6%)	付帯状況	
手段・原因	29語 (65.9%)			17語 (38.6%)	手段・原因	
補文構造	-			-	補文構造	
前後項動詞連用形の名詞化状況の視点から見る						
前後項動詞連用形の名詞化状況の組み合わせ	名詞化可能な複合他動詞の語数		VS	名詞化不可の複合他動詞の語数	前後項動詞連用形の名詞化状況の組み合わせ	
可+可	32語 (72.7%)			23語 (52.3%)	可+可	
可と補助可の組み合わせ	10語 (22.7%)			14語 (31.8%)	可と補助可の組み合わせ	
可と不可の組み合わせ	2語 (4.5%)			3語 (6.8%)	可と不可の組み合わせ	
-	-			4語 (9.0%)	不可+補助可	

上の表 4-7b の対照した結果によって、連用形が名詞化できない語彙的複合自動詞にある特徴的な傾向については、以下のようにまとめられる。

① 名詞化できない非意志的自動詞の 23 語の中では、「非対格自動詞＋非対格自動詞」のタイプ (18 語・78.3%) が一番多く、次に多いのが「他動詞＋非対格自動詞」 (3 語・13.0%)、「非能格自動詞＋非能格自動詞」 (1 語・4.3%) と「非対格自動詞＋分類不能」 (1 語・4.3%) のタイプである。一方、名詞化できない意志的な自動詞の 21 語は、割合が高い順にそれぞれ「非能格自動詞＋非能格自動詞」 (11 語・52.4%)、「他動詞＋非能格自動詞」 (5 語・23.8%)、「非能格自動詞＋非対格自動詞」 (4 語・19.0%) と「他動詞＋分類不能」 (1 語・4.8%) となる。これらの結果から、他動性調和原則による分類の視点から見ると、名詞化できる複合自動詞と名詞化できない複合自動詞には同じ傾向が見られることがわかる。

② 語彙概念構造による前後項動詞の意味関係の分布について、名詞化できない複合自動詞の 44 語は「並列関係」に該当するものが一番多く (21 語・47.7%) ほぼ半数であり、次に「手段・原因」 (17 語・38.6%) と「付帯状況」 (6 語・13.6%) の順であり、名詞化できる複合自動詞における分布 (「手段・原因」が 29 語・65.9%、「並列関係」が 12 語・27.3%、「付帯状況」が 3 語・6.8%) と比べると、後者の方が分布がより偏っていることがわかる。特に、「手段・原因」の意味関係のパターンにおいて名詞化できるものとできないものの差が最も大きいことから、前後項の意味関係は名詞化の可能性に影響する要素の一つと考えられる。

③ 名詞化できない複合自動詞前後項動詞の連用形の名詞化状況の分布は、前後項動詞が両方とも自立的に名詞化できる「可＋可」のパターン (23 語・52.3%) が一番多く、5 割であるが、名詞化できる複合自動詞の 44 語ほど圧倒的な割合 (「可＋可」が 8 割近くを占める) ではない。このことは、単純動詞としての前後項動詞の連用形名詞の独立性が、全体として名詞化できる語彙的複合動詞よりも低いことを示している、また、名詞化できる複合自動詞と異なり、「不可＋補助可」のタイプ (4 語・9.0%) も存在する。

#### 4.3.5 本節のまとめ

本節では辞書とコーパスのいずれでも自立的に名詞化できることを確認した 44 語を中心に取り上げ、他動性調和の原則、語彙的複合動詞の前後項動詞の意味関係と前後項動詞

の連用形自体の名詞化状況の三つの視点より、抽出された連用形が名詞化できる語彙的複合自動詞（44語）にある特徴を考察した。最後に辞書とコーパスのいずれでも名詞化できないことを確認した語彙的複合自動詞（ランダムに抽出した同じ語数の44語）と対照した結果、以下のことがわかった。

① 語彙的複合自動詞の前後項動詞の意味関係の視点から見ると、名詞化できる複合動詞では「手段・原因」（29語・65.9%）の分類に該当する語が7割近くを占め、最も多い。そして、前後項動詞の意味関係に基づく分布は、ランダムに抽出された名詞化できない複合自動詞と比べると、大きな偏りが見られ、名詞化できない複合動詞の分布と明らかな差があることがわかる。したがって、名詞化できる語彙的複合自動詞において、前後項動詞に「手段・原因」の意味関係がある場合が多いことは大きな特徴の一つと言え、語彙的複合自動詞の名詞化の可能性と語彙概念構造に基づく前後項動詞の意味関係の間には関連があると言える。

② 前後項動詞の連用形自体の名詞化状況の視点から見ると、名詞化できる語彙的複合自動詞では前項動詞と後項動詞が共に単独で名詞化できるケースが8割近くを占めて圧倒的に多い。名詞化できない語彙的複合自動詞でも前項動詞と後項動詞が共に単独で名詞化できるケースは多いが、その割合は5割に過ぎない。このことから、名詞化できる語彙的複合自動詞の前項と後項動詞はより名詞化しやすく、それぞれの名詞化の程度（自立性）もより高い傾向にあることがわかる。

③ 他動性調和の原則の視点から見ると、名詞化できる語彙的複合自動詞は、他動性調和原則に違反する語例も多少あるものの、大半は原則通りであることがわかる。この傾向はランダムに抽出された名詞化できない語彙的複合自動詞でも同様であり、この視点においては、名詞化できる複合自動詞と名詞化できない複合自動詞の間に大きな差がないことがわかった。

#### 4.4 連用形が名詞化できる語彙的複合他動詞にある特徴

本節は4.2節と同じように、三つの視点から語彙的複合他動詞にある特徴を考察する。

##### 4.4.1 「他動性調和の原則」に基づく前後項動詞の構造から見る

まず、先行研究（4.2節）で言及された「他動性調和の原則」に基づき、抽出された名詞化できる語彙的複合他動詞の208語を四つのタイプに分類して、それらにある項構造の組

み合わせの特徴を調査する。また、4.3.1節における、語彙的複合動詞の前項か後項動詞が自動詞の場合の自動詞の意志性の有無の判断と分類基準を援用し、各パターンによって名詞化可能な語彙的複合他動詞を分類した結果を表4-8に示す。

表 4-8 他動性調和の原則に基づく名詞化できる語彙的複合他動詞のタイプの分布

種類	タイプ	各パターンに該当する名詞化できる語彙的複合他動詞
語彙的複合他動詞	他動詞+他動詞	<p>164 語 (78.8%)</p> <p>明け渡す、預け入れる、あぶり出す、洗い出す、言い伝える、生け捕る、植え付ける、受け入れる、受け取る、受け持つ、打ち上げる、打ち壊す、打ち出す、打ち抜く、埋め合わせる、埋め立てる、売り出す、売り渡す、選り抜く、追い落とす、追い越す、追い出す、追い抜く、送り出す、押し入れる、押し込める、押し倒す、押し出す、押し付ける、折り畳む、買い入れる、買い受ける、買い取る、買い戻す、書き入れる、書き置く、書き起こす、書き付ける、書き取る、掛け合わせる、掛け持つ、貸し出す、担ぎ出す、刈り入れる、借り入れる、刈り取る、着替える、聞き取る、聞き分ける、着古す、切り崩す、切り裂く、切りさげる、切り捨てる、切り出す、切り取る、切り抜く、組み合わせる、組み入れる、組み立てる、汲み取る、繰り上げる、繰り出す、差し立てる、締めくくる、締め出す、吸い出す、据え付ける、すげ替える、磨り出す、備え付ける、染め付ける、染め抜く、染め分ける、裁ち落とす、立て掛ける、使い古す、掴み取る、突き合わせる、突き落とす、突き倒す、突き出す、継ぎ足す、作り付ける、付け足す、包み隠す、積み出す、詰め替える、吊り上げる、吊るし上げる、問い掛ける、取り上げる、取り合わせる、取り入れる、取り返す、取り替える、取り壊す、取り外す、取り払う、煮切る、煮出す、縫い取る、抜き取る、盗み見る、履き替える、掃き出す、払い下げる、払い戻す、貼り替える（張り替える）、引き上げる、引き当てる、引き合わせる、引き入れる、引き受ける、引き写す、引き落とす、引き下げる、引きずる、引き倒す、引き出す、引き付ける、引き抜く、引き延ばす、引き剥ぐ、引き回す、引っ張る、封じ込める、踏み抜く、振り掛ける、振り出</p>

			す、振り分ける、掘り抜く、巻き上げる、見送る、見落とす、見切る、見立てる、見通す、見取る、見習う、見逃す、見開く、見分ける、申し入れる、申し渡す、持ち越す、持ち出す、持ち運ぶ、揉み消す、焼き付ける、雇い入れる、譲り渡す、寄せ集める、呼び掛ける、呼び出す、呼び戻す、読み聞かせる、読み取る、割り当てる、割り出す、割り付ける、割り振る、割り戻す、貼り付ける
*他動詞＋分類不能	28語 (13.5%)		鑄込む、植え込む、打ち込む、売り込む、追い込む、送り込む、押し込む、折り込む、書き込む、囲い込む、聞き込む、吸い込む、刷り込む、叩き込む、詰め込む、連れ込む、綴じ込む、取り込む、投げ込む、飲み込む、はめ込む、払い込む、引き込む、振り込む、巻き込む、申し込む、持ち込む、盛り込む
他動詞＋非能格自動詞 非能格自動詞＋他動詞	14語 (6.7%)		言い逃れる、住み替える、せせら笑う、出迎える、届け出る、泣き落とす、願い出る、寝違える、乗っ取る（乗り取る）、働き掛ける、申し出る、持ち帰る、持ち回る、持ち寄る
*他動詞＋非対格自動詞	2語 (1.0%)		突き当たる、突き抜ける

語彙的複合他動詞では、「明け渡す、預け入れる、あぶり出す」のような「他動詞＋他動詞」のタイプが最も多く（164語）、7割以上を占める。上の表4-8を見ると、名詞化できる語彙的複合他動詞の9割近くは他動性調和原則に従っているが、原則に反する語も存在する。そのうち、前節の語彙的複合自動詞と同じように後項動詞「込む」を取る「他動詞＋分類不能」（28語）のタイプがある。4.3.1節で言及したように、「込む」は語彙的複合動詞の後項動詞として、ある場所の内部に移動する意味があり、単独で使うことができない。影山（1993）は、「込む」を複合動詞の後項動詞とする場合、非対格自動詞、非能格自動詞、他動詞のいずれも前項動詞とすることができて、他動性調和の原則に違反するが、それは語彙概念構造のレベルで処理することができると指摘している。なお、同じように他動性調和原則を満たしていない「他動詞＋非対格自動詞」（2語）のタイプも存在している。このタイプに該当する「突き当たる、突き抜ける」にはそれぞれ対応する「他動詞＋他動詞」タイプの複合他動詞形「突き当てる、突き抜く」が存在し、前述と同様に、これらの複合他動詞「突き当たる、突き抜ける」は対応する他動性調和の原則に従って

る複合他動詞形「突き当てる、突き抜く」から逆形成されたものと考えられる。

#### 4.4.2 「語彙概念構造」に基づく前後項動詞の意味関係から見る

次に、先行研究で触れた影山・由本（1997）が指摘している語彙概念構造の理論を踏まえ、前後項動詞の意味関係の視点から、抽出された名詞化可能な語彙的複合他動詞の 208 語を、4.3.2 節の語彙的複合自動詞と同じように「並列関係」「付帯状況」「手段・原因」と「補文構造」の四つのタイプに分類する。調査した意味関係の分類の分布を下の表 4-9 に示す。

表 4-9 前後項の意味関係の分類による名詞化できる語彙的複合他動詞の分布

前後項の意味関係の分類	各分類に該当する語彙的複合他動詞	
並列関係	17 語 (8.2%)	預け入れる、植え付ける、受け入れる、受け取る、受け持つ、折り畳む、掛け持つ、締めくくる、すげ替える、立て掛ける、付け足す、継ぎ足す、問い掛ける、取り払う、働き掛ける、貼り替える（張り替える）、呼び掛ける
付帯状況	14 語 (6.7%)	明け渡す、生け捕る、着替える、繰り上げる、繰り出す、住み替える、備え付ける、詰め替える、盗み見る、履き替える、見開く、持ち越す、持ち回る、持ち寄る
手段・原因	172 語 (82.7%)	あぶり出す、洗い出す、言い伝える、言い逃れる、鑄込む、植え込む、打ち上げる、打ち込む、打ち壊す、打ち出す、打ち抜く、埋め合わせる、埋め立てる、売り込む、売り出す、売り渡す、選り抜く、追い落とす、追い越す、追い込む、追い出す、追い抜く、送り込む、送り出す、押し入れる、押し込む、押し込める、押し倒す、押し出す、押し付ける、折り込む、買い入れる、買い受ける、買い取る、買い戻す、書き入れる、書き置く、書き込む、書き付ける、書き取る、掛け合わせる、囲い込む、貸し出す、担ぎ出す、刈り入れる、借り入れる、刈り取る、聞き込む、聞き取る、聞き分ける、着古す、切り崩す、切り裂く、切りさげる、切り捨てる、切り出す、切り取る、切り抜く、組み合わせる、組み入れる、組み立てる、汲み取る、差し立てる、締め出す、吸い込む、吸い出す、据え付ける、刷り込む、磨り出す、せせら笑う、染め付ける、染め抜く、染め分ける、叩き込む、裁ち落とす、使い古す、掴み取る、突き当たる、突き合わせる、突き落とす、突き倒す、突き出す、突き抜ける、作り付ける、包み隠す、積み出す、詰め込む、吊り上げる、吊るし上げる、連れ込む、出迎える、綴じ込む、届け出る、取り上げる、取り合わせる、取り入れる、取

		り返す、取り替える、取り込む、取り壊す、取り外す、泣き落とす、投げ込む、煮切る、煮出す、縫い取る、抜き取る、願い出る、寝違える、乗っ取る、飲み込む、掃き出す、はめ込む、払い込む、払い下げる、払い戻す、引き上げる、引き当てる、引き合わせる、引き入れる、引き受ける、引き写す、引き落とす、引き込む、引き下げる、引きずる、引き倒す、引き出す、引き付ける、引き抜く、引き延ばす、引き剥ぐ、引き回す、引っ張る、封じ込める、踏み抜く、振り掛ける、振り込む、振り出す、振り分ける、掘り抜く、巻き上げる、巻き込む、見送る、見立てる、見取る、見習う、見分ける、申し入れる、申し込む、申し出る、申し渡す、持ち帰る、持ち込む、持ち出す、持ち運ぶ、揉み消す、盛り込む、焼き付ける、雇い入れる、譲り渡す、寄せ集める、呼び出す、呼び戻す、読み聞かせる、読み取る、割り当てる、割り出す、割り付ける、割り振る、割り戻す、貼り付ける
補文構造	5語 (2.4%)	書き起こす、見落とす、見切る、見通す、見逃す

表 4-9 に示したように、語彙的複合他動詞では、「手段・原因」(172語)のタイプが圧倒的に多く、名詞化できる語彙的複合他動詞の八割以上はこのタイプに該当する。次いで多いのが「並列関係」(17語)のタイプである。一方、4.3.2 節における名詞化できる語彙的複合自動詞にはない「補文構造」類(5語)も存在する。

① 「並列関係」類 ( [LCS1] AND [LCS2] )

前後項の意味関係が「並列関係」類に属する、名詞化できる語彙的複合他動詞は17語ある。

(6) 「折り畳む」 例：カーリンは新聞を折りたたみ、ケイトに渡した。

[[x] DOUBLE OVER [y]] + [[x'] FOLD UP [y']] → [[[x<sub>i</sub>] DOUBLE OVER [y<sub>j</sub>]] AND [[x'<sub>i</sub>] FOLD UP [y'<sub>j</sub>]]]

→ [[x<sub>i</sub>] DOUBLE OVER AND FOLD UP [y<sub>j</sub>]]

(6) では、前項動詞と後項動詞の意味関係が「並列関係」類に該当する「折り畳む」の語彙概念構造の合成を示した。「折り畳む」は、前項動詞「DOUBLE」(「折る」を表す意味述語)と後項動詞「FOLD」(「畳む」を表す意味述語)が表す事象(EVENT)が同

時に進行している事象であり、また前後項動詞は単に「AND」で繋がれるのではなく、いずれも同定された外項「カーリン」(x<sub>i</sub>)と内項「新聞」(y<sub>j</sub>)を取り、更に前後項二つの事象は類似概念を意味して同等な重さを持つため、同じ対象に対する同じ動作主によってなされる一つの行為を表示する語彙概念(LCS)となることができる。したがって、「折り畳む」のような名詞化できる語彙的複合他動詞は「並列関係」のタイプに属する。

### ②「付帯状況」類（[LCS1] WHILE [LCS2]）

前後項の意味関係が「付帯状況」類に入る、名詞化できる語彙的複合他動詞は13語ある。

(7)「持ち寄る」例：情報を持ち寄り、いろいろな場で話し合ってみることも大切です。

[[x'] HAVE [y']] + [[x] GET TOGETHER]

→ [[[x<sub>i</sub>] GET TOGETHER] WHILE [[x<sub>i</sub>] HAVE [y<sub>j</sub>]]]

(7)では、前項動詞と後項動詞の意味関係が「付帯状況」類に属する「持ち寄る」の語彙概念構造の合成を示した。「持ち寄る」は、前項動詞「HAVE」（「持つ」を表す意味述語）と後項動詞「GET TOGETHER」（「寄る」を表す意味述語）が表す事象が(6)の「並列関係」類のように同時に発生する事象であり、それぞれ概念構造内の変項も同定される。一方、前項「持つ」が表す事象は後項主動詞「寄る」が表す事象に付随し、前項も「付帯状況」類にある前項動詞が表す事象は継続的な活動であるという制限を満たしているため、このような名詞化できる語彙的複合動詞は「付帯状況」類に該当する。

### ③「手段・原因」類（[LCS2] BY [LCS1]）

前後項の意味関係が「手段・原因」のタイプに属し、名詞化できる語彙的複合他動詞は172語ある。

(8) a.「吸い出す」 例：映画とかで、へビにかまれた人の傷口から毒を吸い出すてる

けど、あの人は大丈夫なの？

[[x] SUCK [y]] + [[x'] CAUSE [y' BECOME [y' BE OUT]]]

→ [[x<sub>i</sub>] CAUSE [y<sub>j</sub> BECOME [y<sub>j</sub> BE OUT OF z<sub>k</sub>]] BY [[x<sub>i</sub>] SUCK [y<sub>j</sub>]]

b. 「飲み込む」 例：次郎は唾を飲みこんだ。

[x] CAUSE [BECOME[[y'] BE [place ]]] + [BECOME [[x] BE IN [y]]]

→ [[x<sub>i</sub>] CAUSE [BECOME [[y<sub>j</sub>] BE [IN [z<sub>k</sub>]]]]

(8a) では、前項動詞と後項動詞の意味関係が「手段・原因」類に該当する「吸い出す」の語彙概念構造の合成を示した。「吸い出す」は、前項動詞「吸う」が表す事象が後項動詞「出す」が表す事象より先行する。二つの事象は時間の順に行われるが、二つの事象が一つの語彙概念になるので、前項の事象によって後項の事象が起こると見なし、前項動詞が表す事象は後項が表す事象の手段・原因を表すと説明できる。このような名詞化できる語彙的複合動詞は「手段・原因」類に属する。このタイプは、前述の「並列関係」「付帯状況」の同時に進行する類と異なり、厳しい制限があまりないため、そもそも語彙的複合動詞の中で生産性が一番高いタイプである。

一方、(8b) では、「飲み込む」の語彙概念構造の合成も示した。「飲み込む」は、前に触れた「他動性調和の原則」によって処理できない後項動詞「込む」を取る語彙的複合動詞である。4.3.2 節の語彙的複合自動詞のところの説明したように、(8b) の合成プロセスからも、自動詞「込む」自体に一定の意味があるので、目的語の位置について特に提示されない前項他動詞「飲む」がつくと、前項が表す行為の結果を明確にできることがわかる。すなわち、目的語とする内項[y<sub>j</sub>]（「唾」を指す）が口から喉の内部に移ることになるという位置変化が明示されるようになる。(8b) 「飲み込む」の概念構造に示したように、後項自動詞「込む」を前項他動詞と結合すると、「込む」の概念構造は必ず前項他動詞の目的語の位置変化を表す。(影山 1993: 133)

#### ④ 「補文構造」類（ [LCS2. . . [LCS1] . . . ] ）

前後項の意味関係が「補文構造」類に属し、名詞化できる語彙的複合他動詞は5語しかない。

(9) 「見落とす」 例：しかし、これは“一つ大切なことを見落として”います。

[[x'] SEE [y']] + [[x] FAIL [IN [Event (y)]]]

→ [[x<sub>i</sub>] FAIL [IN [Event [x<sub>i</sub>] SEE [y<sub>j</sub>]]]]

(9) では、前項動詞と後項動詞の意味関係が「補文関係」類に該当する「見落とす」の語彙概念構造の合成を示した。前に述べた①②③のタイプと異なり、「補文関係」類は二つの事象が時間的に同時か前後かで進行するのではなく、前項動詞が表す事象全体が後項動詞が表す事象における項になっている関係である。(9)の「見落とす」は、前項動詞「見る」の事象が後項動詞「落とす」の事象における項になり、すなわち「大切なことを見る」ことを落とす」と解釈できる。このように、前項の概念構造が後項の事象の項を補足しているような名詞化できる語彙的複合他動詞は「補文関係」のタイプに属する。

#### 4.4.3 前項と後項動詞の連用形の名詞化の状況から見る

前述で触れたように、語彙的複合動詞の連用形が名詞化する場合、その複合動詞を作っている前項と後項単純動詞の連用形名詞化状況も影響を与える要因の一つと考えられるため、本節でも名詞化できる語彙的複合他動詞の前項と後項動詞の連用形名詞化の状況を考察し、連用形が名詞化できる語彙的複合他動詞（前章で辞書とコーパスいずれも自立的に名詞化できると確認した208語）にある特徴を考察する。

考察は4.3.3節に言及された基準を援用し、前後項動詞の連用形が単独で辞書『Dual大辞林』の名詞語彙項目として立項されている場合、又はコーパス（「BCCWJ」）で自立的な名詞として使われた用例がある場合に、名詞化の状況を「可」と表記し、前後項動詞の連用形に補助形態素を加えたものが辞書の名詞語彙項目にある場合、又はコーパスで名詞として使われた用例がある場合は「補助可」、どんな形式でも前後項動詞の連用形が辞書の名詞語彙項目になくコーパスで名詞として使われた用例が見られない場合に、「不可」と表記する。辞書とコーパスで確認した分布状況をそれぞれ表4-10と表4-11に示す。

表 4-10 前後項動詞の名詞化の状況による名詞化できる語彙的複合他動詞の分布（辞書）

前後項動詞連用形の名詞化状況の組み合わせ	辞書で確認した各パターンに該当する語彙的複合他動詞	
可+可	131 語 (63.0%)	<p>明け渡す、あぶり出す、洗い出す、受け取る、受け持つ、売り込む、売り出す、売り渡す、追い落とす、追い込む、追い出す、追い抜く、送り込む、送り出す、押し込む、押し出す、折り込む、折り畳む、買い受ける、買い取る、買い戻す、掛け合わせる、掛け持つ、囲い込む、貸し出す、担ぎ出す、聞き込む、聞き取る、聞き分ける、切り崩す、切りさげる、切り出す、切り取る、切り抜く、組み合わせる、組み立てる、繰り上げる、繰り出す、差し立てる、締めくくる、締め出す、刷り込む、せせら笑う、備え付ける、染め付ける、染め抜く、染め分ける、叩き込む、立て掛ける、掴み取る、突き当たる、突き合わせる、突き落とす、突き出す、継ぎ足す、突き抜ける、作り付ける、付け足す、包み隠す、詰め替える、詰め込む、吊り上げる、吊るし上げる、連れ込む、出迎える、問い掛ける、綴じ込む、届け出る、取り上げる、取り合わせる、取り返す、取り替える、取り込む、取り払う、泣き落とす、投げ込む、煮切る、煮出す、縫い取る、抜き取る、盗み見る、願い出る、寝違える、乗っ取る、飲み込む、掃き出す、働き掛ける、払い込む、払い下げる、払い戻す、引き上げる、引き当てる、引き受ける、引き写す、引き落とす、引き込む、引き下げる、引きずる、引き出す、引き付ける、引き抜く、引っ張る、振り掛ける、振り込む、振り出す、振り分ける、巻き上げる、巻き込む、見送る、見落とす、見切る、見立てる、見通す、見取る、見習う、見開く、見分ける、持ち帰る、持ち込む、持ち出す、持ち運ぶ、持ち回る、持ち寄る、盛り込む、焼き付ける、譲り渡す、呼び掛ける、呼び出す、呼び戻す、読み聞かせる、読み取る</p>
補助可と可の組み合わせ	68 語 (32.7%)	<p>預け入れる、言い伝える、言い逃れる、鑄込む、植え込む、植え付ける、受け入れる、打ち上げる、打ち込む、打ち出す、打ち抜く、埋め合わせる、埋め立てる、選り抜く、追い越す、押し入れる、押し込める、押し倒す、買い入れる、書き置く、書き起こす、書き込む、書き付ける、書き取る、借り入れる、刈り取る、着替える、切</p>

		り裂く、切り捨てる、組み入れる、汲み取る、吸い込む、吸い出す、据え付ける、すげ替える、住み替える、磨り出す、裁ち落とす、使い古す、突き倒す、積み出す、取り入れる、取り壊す、取り外す、履き替える、はめ込む、貼り替える（張り替える）、引き入れる、引き倒す、引き延ばす、引き剥ぐ、封じ込める、踏み抜く、掘り抜く、見逃す、申し込む、申し出る、申し渡す、持ち越す、揉み消す、雇い入れる、寄せ集める、割り当てる、割り出す、割り付ける、割り振る、割り戻す、貼り付ける
補助可+補助可	6語 (2.9%)	生き捕る、打ち壊す、書き入れる、刈り入れる、着古す、申し入れる
不可+可	3語 (1.4%)	押し付ける、引き合わせる、引き回す

表 4-11 前後項動詞の名詞化の状況による名詞化できる語彙的複合他動詞の分布

(コーパス) 6

前後項動詞連用形の名詞化状況の組み合わせ	コーパス（「BCCWJ」）で確認した各パターンに該当する語彙的複合他動詞	
可+可	141語 (67.8%)	明け渡す、洗い出す、 <u>言い伝える</u> 、 <u>言い逃れる</u> 、受け取る、受け持つ、 <u>打ち上げる</u> 、 <u>打ち込む</u> 、 <u>打ち出す</u> 、 <u>打ち抜く</u> 、売り込む、売り出す、売り渡す、送り込む、送り出す、押し込む、押し出す、 <u>押し付ける</u> 、折り込む、折り畳む、買い受ける、買い取る、 <u>書き置く</u> 、 <u>書き起こす</u> 、 <u>書き込む</u> 、 <u>書き付ける</u> 、 <u>書き取る</u> 、掛け合わせる、掛け持つ、囲い込む、貸し出す、担ぎ出す、 <u>着替える</u> 、聞き込む、聞き取る、聞き分ける、切り崩す、切りさげる、切り出す、切り取る、切り抜く、組み合わせる、組み立てる、繰り上げる、繰り出す、差し立てる、締めくくる、締め出す、刷り込む、せせら笑う、備え付ける、染め付ける、染め抜く、染め分ける、叩き込む、立て掛ける、掴み取る、突き当たる、突き合わせる、突き落とす、突き出す、継ぎ足す、突き抜ける、作り付ける、付け足す、包み隠す、 <u>積み出す</u> 、詰め替える、詰め込む、吊るし上げる、連れ込む、出迎える、問い掛ける、綴じ込む、届け出る、取り上げる、取り合わせる、取り返す、取り替える、取り込む、取り外す、取り払う、泣き落とす、投げ込む、縫い取る、抜き取

6 表 4-11 で下線を付している語は表 4-10 の辞書で確認した分類と異なる語であり、二重線を付している 11 語（全体の 5%を占める）は前項か後項の名詞化の可否の点で、表 4-10 の辞書で確認した結果と異なる。

		る、盗み見る、願い出る、乗っ取る、飲み込む、働き掛ける、払い込む、払い下げる、引き上げる、引き当てる、 <u>引き合わせる</u> 、引き受ける、引き写す、引き落とす、引き込む、引き下げる、引き出す、引き付ける、引き抜く、引き延ばす、 <u>引き回す</u> 、引っ張る、振り掛ける、振り込む、振り出す、振り分ける、 <u>掘り抜く</u> 、巻き上げる、巻き込む、見送る、見落とす、見切る、見立てる、見通す、見取る、見習う、見開く、見分ける、持ち帰る、持ち込む、持ち出す、持ち運ぶ、持ち回る、持ち寄る、 <u>揉み消す</u> 、盛り込む、焼き付ける、譲り渡す、 <u>寄せ集める</u> 、読み聞かせる、読み取る、 <u>選り抜く</u> 、 <u>割り当てる</u> 、 <u>割り出す</u> 、 <u>割り付ける</u> 、 <u>割り振る</u>
補助可と可の組み合わせ	54 語 (26.0%)	<u>あぶり出す</u> 、 <u>生け捕る</u> 、 <u>鋳込む</u> 、 <u>植え込む</u> 、 <u>植え付ける</u> 、 <u>受け入れる</u> 、 <u>打ち壊す</u> 、 <u>追い落とす</u> 、 <u>追い込む</u> 、 <u>追い出す</u> 、 <u>追い抜く</u> 、 <u>押し入れる</u> 、 <u>押し倒す</u> 、 <u>買い入れる</u> 、 <u>買い戻す</u> 、 <u>書き入れる</u> 、 <u>借り入れる</u> 、 <u>刈り取る</u> 、 <u>着古す</u> 、 <u>切り裂く</u> 、 <u>切り捨てる</u> 、 <u>組み入れる</u> 、 <u>汲み取る</u> 、 <u>吸い込む</u> 、 <u>吸い出す</u> 、 <u>据え付ける</u> 、 <u>住み替える</u> 、 <u>磨り出す</u> 、 <u>裁ち落とす</u> 、 <u>使い古す</u> 、 <u>突き倒す</u> 、 <u>吊り上げる</u> 、 <u>取り入れる</u> 、 <u>取り壊す</u> 、 <u>煮切る</u> 、 <u>煮出す</u> 、 <u>履き替える</u> 、 <u>掃き出す</u> 、 <u>払い戻す</u> 、 <u>貼り替える</u> 、 <u>引き入れる</u> 、 <u>引きずる</u> 、 <u>引き倒す</u> 、 <u>引き剥ぐ</u> 、 <u>踏み抜く</u> 、 <u>申し込む</u> 、 <u>申し出る</u> 、 <u>申し渡す</u> 、 <u>持ち越す</u> 、 <u>雇い入れる</u> 、 <u>呼び掛ける</u> 、 <u>呼び出す</u> 、 <u>割り戻す</u> 、 <u>貼り付ける</u>
補助可+補助可	5 語 (2.4%)	<u>預け入れる</u> 、 <u>追い越す</u> 、 <u>刈り入れる</u> 、 <u>申し入れる</u> 、 <u>呼び戻す</u>
可と不可の組み合わせ	8 語 (3.8%)	<u>埋め合わせる</u> 、 <u>埋め立てる</u> 、 <u>押し込める</u> 、 <u>すげ替える</u> 、 <u>寝違える</u> 、 <u>はめ込む</u> 、 <u>封じ込める</u> 、 <u>見逃す</u>

上の表 4-10 と 4-11 を見て分かるように、抽出された名詞化できる語彙的複合他動詞の前後項動詞の名詞化状況をそれぞれ辞書とコーパスで確認すると、いずれも類似した分布であり、全体として前項と後項動詞のうち少なくとも一方は単独で名詞化できる傾向が見られる。その中で、前後項動詞とも単独で名詞化できる「可+可」のタイプは全体の6割以上を占める。これらの点については 4.3.3 節における名詞化できる語彙的複合自動詞の前後項動詞の名詞化状況と同じである。ただし、前後項ともに補助形態素をつけてから名詞化できる「補助可+補助可」のタイプは名詞化できる語彙的複合他動詞のみに存在している組み合わせである。また、表 4-11 を表 4-10 と比べると、表 4-11 の一重線を付している語彙的複合他動詞は、前項か後項動詞が転成してきた連用形名詞の自立性について表 4-

10の辞書で調べた結果と違いがあるだけである。一方、二重線を付している語彙的複合他動詞(11語)は、前項か後項の名詞化の可否の点で、表4-10の辞書で確認した結果と異なるが、語彙的複合他動詞全体の5%に過ぎず、重大な数値とは言えない。

#### 4.4.4 連用形が名詞化できない語彙的複合他動詞にある特徴の略述

名詞化できる語彙的複合他動詞が持つ特徴を更に明確にするために、抽出された全1086語の「VV型」語彙的複合他動詞のうち、辞書(『Dual大辞林』)とコーパス(「BCCWJ」)のいずれでも名詞化できない493語の複合動詞の中からランダムに同じ語数の208語(表4-12aに示す)を取り出して考察した。その考察した特徴分布を連用形が名詞化可能な語彙的複合他動詞の特徴分布と対照した結果を表4-12bに示した。

表 4-12a ランダムに抽出された連用形が名詞化できない語彙的複合他動詞 (208 語)

種類	ランダムに抽出された名詞化できない語彙的複合他動詞
語彙的複合他動詞	<p>仰ぎ見る、煎じ出す、迎え撃つ、洗い流す、併せ持つ、言い表す、言い消す、言い足す、言い残す、言い含める、言い触らす、言い古す、言い負かす、射落とす、いぶり出す、忌み嫌う、生み付ける、うかがい知る、受け止める、打ち砕く、討ち果たす、討ち滅ぼす、奪い取る、生み出す、売り回る、選り分ける、追い求める、追い遣る、覆い隠す、送り返す、押し開ける、教え諭す、推し量る、押し開く、落とし入れる、脅し取る、思い定める、折り曲げる、織り交ぜる、買い揃える、嗅ぎ当てる、書き著す、書き加える、書き記す、書き足す、駆け巡る、貸し与える、稼ぎ出す、語り継ぐ、勝ち得る、勝ち取る、担ぎ上げる、兼ね備える、噛み切る、醸し出す、駆り集める、借り倒す、考え出す、着飾る、聞き知る、聞き古す、着崩す、刻み込む、着せ掛ける、切り刻む、切り倒す、切り離す、切り払う、食い荒らす、食い倒す、食い散らす、食いつなぐ、括り付ける、組み合わせず、酌み交わす、汲み干す、繰り広げる、消し止める、削り取る、恋い慕う、乞い願う、抉じ開ける、探し出す、探し当てる、刺し通す、誘い出す、縛り付ける、招じ入れる、吸い寄せる、救い上げる、住み荒らす、擦り潰す、擦り減らす、責め苛む、攻め滅ぼす、競り落とす、そぎ落とす、染め出す、剃り落とす、抱き下ろす、抱き寄せる、たくし上げる、助け出す、尋ね出す、叩き落とす、断ち切る、断ち割る、立て切る、使い慣らす、突き刺す、注ぎ足す、突き立てる、突き抜く、付け加える、潰け込む、付けねらう、包み込む、つまみ出す、摘み取る、釣り落とす、吊り下げる、連れ去る、照らし合わせる、問い合わせ、解き明かす、説き聞かせる、研ぎ澄ます、解きほぐす、綴じ合わせる、閉じ込める、綴じ付ける、取り除く、眺め暮らす、泣き腫らす、投げ返す、投げ飛ばす、成し遂げる、なだめすかす、撫で上げる、思い描く、煮含める、にらみ合わせる、脱ぎ散らす、拭い取る、盗み出す、盗み取る、塗り隠す、塗り固める、ねじ開ける、ねじ曲げる、ねじり上げる、練り固める、飲み干す、乗り捨てる、乗り慣らす、計り知る、掃き清める、吐き出す、剥ぎ取る、掃き寄せる、払いのける、張り倒す、引き詰める、弾き鳴らす、引き外す、ひねり殺す、拾い上げる、吹き飛ばす、踏み殺す、踏み潰す、踏み鳴らす、汲み込む、振り上げる、振り撒く、奮い起こす、放り出す、干し固める、褒めそやす、誉め称える、掘り当てる、巻き起こす、撒き散らす、曲げ込む、待ちくたびれる、待ち焦がれる、丸め込む、見捨てる、見放す、結び合わせる、召し抱える、申し述べる、持ち替える、持ち去る、もらい受ける、守り立てる、漏れ聞く、焼き捨てる、結い付ける、揺り動かす、酔い潰す、呼び集める、呼び起こす、呼び止める、読み進む、選り出す、分け与える、推し進める、笑い飛ばす</p>

表 4-12b 抽出した名詞化不可と名詞化可能な語彙的複合他動詞の特徴分布の対照結果

他動性調和の原則の視点から見る						
他動性調和の原則によるタイプ		名詞化可能な複合他動詞の語数	VS	名詞化不可の複合他動詞の語数	他動性調和の原則によるタイプ	
他動詞+他動詞		164語 (78.8%)		184語 (88.5%)	他動詞+他動詞	
*他動詞+分類不能		28語 (13.5%)		6語 (2.9%)	*他動詞+分類不能	
他動詞+非能格自動詞 非能格自動詞+他動詞		14語 (6.7%)		13語 (6.3%)	非能格自動詞+他動詞 他動詞+非能格自動詞	
*他動詞+非対格自動詞		2語 (1.0%)		5語 (2.4%)	*非対格自動詞+他動詞 *他動詞+非対格自動詞	
語彙概念構造の視点から見る						
前後項の意味関係の分類		名詞化可能な複合他動詞の語数	VS	名詞化不可の複合他動詞の語数	前後項の意味関係の分類	
並列関係		17語 (8.2%)		53語 (25.5%)	並列関係	
付帯状況		14語 (6.7%)		15語 (7.2%)	付帯状況	
手段・原因		172語 (82.7%)		136語 (65.4%)	手段・原因	
補文構造		5語 (2.4%)		4語 (1.9%)	補文構造	
前後項動詞連用形の名詞化状況の視点から見る						
前後項動詞連用形の名詞化状況の組み合わせ		名詞化可能な複合他動詞の語数	VS	名詞化不可の複合他動詞の語数	前後項動詞連用形の名詞化状況の組み合わせ	
可+可		131語 (63.0%)		93語 (44.7%)	可+可	
補助可と可の組み合わせ 68語 (32.7%)	補助可+可	43語 (20.7%)		35語 (16.8%)	補助可+可	補助可と可の組み合わせ 61語 (29.3%)
	可+補助可	25語 (12.0%)		26語 (12.5%)	可+補助可	
補助可+補助可		6語 (2.9%)		14語 (6.7%)	補助可+補助可	
不可+可		3語 (1.4%)		7語 (3.4%)	不可+可	可と不可の組み合わせ 22語 (10.6%)
			15語 (7.2%)	可+不可		

-	-	11語 (5.3%)	補助可+ 不可	補助可と 不可の組 み合わせ 15語 (7.2%)
		4語 (1.9%)	不可+補 助可	
-	-	3語 (1.4%)	不可+不可	

表 4-12c 名詞化が「可／不可」の前後項を取る名詞化可能と不可能の複合他動詞の分布

前項か後項の 名詞化の可否状況	該当する名詞化可能な 複合他動詞の語数と比率	該当する名詞化不可の 複合他動詞の語数と比率
後項「可」	177語 (85.0%)	135語 (65.0%)
前項「可」	156語 (75.0%)	134語 (64.4%)
後項「不可」	0語 (0.0%)	29語 (13.9%)
前項「不可」	3語 (1.4%)	14語 (6.7%)

上の表 4-12b の対照した結果によって、連用形が名詞化できない語彙的複合他動詞にある特徴的な傾向については、以下のようにまとめられる。

① 名詞化できない語彙的複合他動詞の 208 語の中では、他動性調和の原則に従い、184 語ある「他動詞+他動詞」のタイプが最も多く、88.5%を占め、すなわち全体の 9 割近くを占める。そして、同じように他動性調和の原則に従う「他動詞+非能格自動詞／非能格自動詞+他動詞」のタイプは 13 語あり、6.3%である。また、他動性調和の原則に反する「他動詞+分類不能(込む)」類は 6 語あり、全体の 2.9%に過ぎず、「他動詞+非対格自動詞」類もわずか 5 語であり、2.4%に過ぎない。一方、名詞化できる語彙的複合他動詞について、他動性調和の原則に従う「他動詞+他動詞」のタイプの方は 164 語あり、78.8%、すなわちおよそ全体の 8 割を占め、「他動詞+非能格自動詞／非能格自動詞+他動詞」のタイプは 14 語あり、6.7%である。また原則に違反する名詞化できる「他動詞+分類不能(込む)」の方は 28 語あり、全体の 13.5%であり、高い順で 3 位に当たる。

他動性調和の原則に基づく前後項の構造から見ると(表 4-12b を参照)、同語数を持つ名詞化できる語彙的複合他動詞と名詞化できない語彙的複合他動詞で類似している傾向が現れ、原則に合う「他動詞+他動詞」類の語彙的複合他動詞の割合は同様に最高位のタイプであり、約 8 割～9 割を占める。「他動詞+他動詞」類の割合は、名詞化できない語の

方が名詞化できる語より約9.7%多く、したがって、「他動詞+他動詞」の構造を持っていても、その語彙的複合動詞が名詞化しやすいとは言えない。同様に、他動性調和の原則に従う「他動詞+非能格自動詞/非能格自動詞+他動詞」の構造からなる名詞化できる語彙的複合他動詞は大体名詞化できない語彙的複合他動詞に近い割合であるが、いずれも全体の約6%に過ぎないため、「他動詞+非能格自動詞/非能格自動詞+他動詞」の構造を持つ語彙的複合動詞の連用形が名詞に転成するか否かの傾向に対しても明示することができない。他動性調和の原則に反する「他動詞+非対格自動詞/非対格自動詞+他動詞」類の語彙的複合他動詞は、いずれの割合も非常に低いが、他動性調和の原則に違反する「他動詞+分類不能(込む)」の構造を持つ語彙的複合他動詞は、名詞化できる語の割合が名詞化できない語の割合のおよそ5倍であるため、このタイプに該当する語彙的複合他動詞の連用形が名詞に転成する傾向は前項動詞の他動性と正の相関関係を持つ可能性がある。

② 語彙概念構造に基づく前後項動詞の意味関係の分布について(表4-12bを参照)、名詞化できない語彙的複合他動詞と名詞化できる語彙的複合他動詞の208語のうち、「手段・原因」類に該当する語数はそれぞれ136語と172語あり、全体の65.4%と82.7%を占め、いずれの中でも最も多くの意味関係の分類である。そして、「並列関係」類に該当する名詞化できない語と名詞化できる語はそれぞれ53語と17語あり、25.5%と8.2%であり、両方とも二番目に多いパターンである。また、名詞化できない語と名詞化できる語の「付帯状況」における割合は類似し、それぞれ7.2%(15語)と6.7%(14語)であり、「補文構造」における割合はいずれも最も少ない分類であり、ここでも似ている傾向が見られ、わずか1.9%(4語)と2.4%(5語)に過ぎない。これらの結果から見ると、語彙的複合他動詞の名詞化の可否に関わらず、前後項の意味関係は「手段・原因」類が最も多いことがわかる。ただし、名詞化可能な語では8割に達するが、名詞化不可の語は6割で、そのうち前者の方は後者より約17%高い。また、「並列関係」の意味関係のパターンにおいて名詞化できないものは名詞化できるものの3倍であり、その差が最も大きいため、この意味関係にある語彙的複合他動詞は名詞に転成しにくい傾向がより強く考えられる。

③ 名詞化できない語彙的複合他動詞前後項動詞の連用形の名詞化状況の分布は、前後項動詞が両方とも自立的に名詞化できる「可+可」のタイプが一番多く、93語あり、4割以上(44.7%)であるが、名詞化できる語において最高位の「可+可」の131語ほどの割合(63.0%)ではなく、18.3%低い。これは、単純動詞としての前後項動詞の連用形名詞の独

立性が、全体として名詞化できる語彙的複合他動詞よりも低いことを示す。また、名詞化できない複合他動詞と名詞化できる複合他動詞のうち「補助可+補助可」のパターンに該当するものはそれぞれ14語(6.7%)と6語(2.9%)あり、その差が明らかに見られる。名詞化できない語彙的複合他動詞において、「補助可と不可の組み合わせ」と「不可+不可」はそれぞれ15語と3語であり、合わせて8.6%になるが、いずれも名詞化できる複合他動詞には存在しないパターンである。一方、表4-12bの統計結果からまとめた上の表4-12cに示されたように、全体としては、名詞化できる語彙的複合他動詞において、単純動詞としての前項か後項の連用形名詞が単独で名詞化できる傾向が名詞化できない複合他動詞より割合が明らかに高い傾向があり、そのうち特に、後項動詞の連用形が単独で名詞化(「可」)できる語彙的複合他動詞の比率は、名詞化できるものの方が名詞化できないものより20%高い。即ち複合動詞の主要部である後項動詞の連用形名詞の自立性が高いほど、語彙的複合他動詞は名詞化しやすい傾向がある。また、前項か後項動詞が名詞化できない(「不可」)語彙的複合他動詞はいずれも名詞化しにくい傾向が見られる。

#### 4.4.5 本節のまとめ

本節では、辞書とコーパスのいずれでも自立的に名詞化できることを確認した208語の「VV型」語彙的複合他動詞を中心に上げ、他動性調和の原則に基づく前後項動詞の構造、語彙概念構造(LCS)に基づく語彙的複合他動詞の前後項動詞の意味関係と前後項動詞の連用形自体の名詞化状況の三つの視点より、連用形が名詞化できる語彙的複合他動詞(208語)にある特徴を考察した。最後に辞書とコーパスのいずれでも名詞化できないことを確認した語彙的複合他動詞(ランダムに抽出した同じ語数の208語)と対照した結果、以下のことがわかった。

① 他動性調和の原則による前後項動詞の構造の視点から見ると、「明け渡す、預け入れる、あぶり出す」などのような「他動詞+他動詞」類は該当する語彙的複合他動詞が最も多く(164語)、7割以上を占めるが、「他動詞+他動詞」類に該当する名詞化できない語彙的複合他動詞の方は前者より9.7%多いため、他動性調和の原則による前後項動詞の構造は語彙的複合他動詞の連用形が名詞化しやすい前提条件や決定要因ではない。一方、名詞化できる複合他動詞のうち、他動性調和の原則に従う語は9割近くあるが、個々の違反する語も幾つかある。そのうち、後項動詞「込む」を取る「他動詞+分類不能」類に該当する名詞化できる語彙的複合他動詞(28語で13.5%)は名詞化できない語彙的複合他動詞(6

語で2.9%)より1割以上高く、その差が大きいため、「他動詞+分類不能」類、すなわち後項「込む」を持つ語彙的複合他動詞の方は名詞化しやすい傾向が見られる。その点については、語彙的複合自動詞においても同じ傾向がある。

② 語彙的複合他動詞の前後項動詞の意味関係の視点から見ると、名詞化できる複合動詞では「手段・原因」(172語)の分類に該当する語が8割以上を占め、最も多い。次に多いのはそれぞれ「並列関係」類(17語)、「付帯状況」類(13語)であり、「補文構造」類(5語)もわずかだが存在する。名詞化できる語彙的複合他動詞と名詞化できない語彙的複合他動詞のいずれでも、「手段・原因」類が一番数多く、それぞれ8割以上と6割半を占め、前者は後者より約17%多くある。一方、「並列関係」類に該当する名詞化できない複合他動詞の語数は名詞化できる語数の3倍多いため、「並列関係」類に該当する語彙的複合他動詞の連用形はより名詞化しにくい傾向が見られる。一方、名詞化できるものと名詞化できないものにおいて、「付帯状況」類と「補文構造」類に該当する割合は類似しているが(それぞれ約7%と約2%)、ともに数が少ないので、この2種類の概念構造は「VV型」語彙的複合他動詞を構成する主な要因ではない。

③ 前後項動詞の連用形自体の名詞化状況の視点から見ると、語彙的複合動詞の名詞化の可否に関わらず、前後項動詞がともに単独で名詞化できる「可+可」のタイプも最も高い割合を占め(それぞれ63%と44.7%)、前者は後者より18.3%多い。それは、連用形が単独で名詞化できる前後項動詞からなる語彙的複合他動詞はより名詞化しやすい傾向があることを示している。そして、前項か後項動詞が名詞化できない(「不可」)語彙的複合他動詞はいずれも名詞化しにくい傾向があり、前項か後項動詞が単独で名詞化できる(「可」)語彙的複合他動詞は名詞化しやすい傾向が見られる。特に、複合動詞の主要部である後項動詞の連用形名詞の自立性が高いほど、語彙的複合他動詞は名詞化しやすい傾向が見られる。

#### 4.5 本章のまとめ

本章では、データベース『複合動詞レキシコン』から抽出した辞書とコーパスのいずれでも単独で名詞化できる「VV型」語彙的複合動詞の252語を自動詞(44語)と他動詞(208語)に分けて、それらの語彙的複合動詞の特徴を他動性調和の原則による前後項動詞の構造、語彙概念構造(LCS)による前後項動詞の意味関係と前後項動詞の名詞化状況の三つの視点から体系的に調査して分析し、ランダムに抽出した同じ語数の辞書とコーパスのい

ずれでも名詞化できない「VV型」語彙的複合自他動詞と対照した。考察した結果から、以下のことがわかった。

① 他動性調和の原則に基づく前後項動詞の構造の視点から見ると、全体として、語彙的複合動詞において、名詞化の可否を問わず、最も多いタイプは高い順に「他動詞+他動詞」(↓)<sup>7</sup>「非対格自動詞+非対格自動詞」(↓)と「非能格自動詞+非能格自動詞」(↓)であり、いずれも複合他動詞、複合非意志的自動詞と複合意志的自動詞のうち最高位のタイプであり、いずれも他動性調和の原則に従っている。そして、三つのタイプのうち、いずれでも名詞化できるものの方がより割合が低い。一方、他動性調和原則に違反する後項「分類不能」(込む)を取るタイプに該当する名詞化できる語彙的複合動詞は36語(14.3%)あるのに対し、名詞化できない語彙的複合動詞は8語(3.2%)しか存在せず、前者は後者の4倍以上の割合である。後項「込む」からなる「VV型」語彙的複合動詞はほかの前後項動詞構造のタイプより、かなり名詞化しやすい傾向が見られる。しかし、該当する名詞化できる語彙的複合動詞と名詞化できない語彙的複合動詞はいずれも1割半未満の少ない割合に過ぎず、そして原則に反するタイプ類であるため、他動性調和の原則による前後項の構造は語彙的複合動詞の連用形が名詞化しやすい前提条件や決定要因ではない。

② 語彙概念構造に基づく前後項動詞の意味関係の視点から見ると、全体として、自他性を問わず、名詞化できる語彙的複合動詞には類似した分布が見られ、割合が高い順にそれぞれ「手段・原因」(↑)<sup>8</sup>「並列関係」(↓)「付帯状況」(↓)と「補文構造」(↑)(複合他動詞のみにあるタイプ)である。そして、前後項動詞の意味関係に基づく分布は、ランダムに抽出された名詞化できない「VV型」語彙的複合動詞と比べると、自他動詞のいずれでも大きな偏りが見られ、名詞化できない複合動詞の分布と明らかな差があることがわかる。名詞化できる語彙的複合自動詞と語彙的複合他動詞はいずれも「手段・原因」の分類に該当する語が最も多く、それぞれ7割近くと8割以上を占める。それは、ほかのタイプ(「並列関係」と「付帯状況」)より、「手段・原因」のタイプに該当する語彙的複合動詞は、名詞に転成するプロセスの経済性が高いためだと考えられる。このことから、名詞化できる語彙的複合動詞において、前後項動詞に「手段・原因」の意味関係を持つ場

<sup>7</sup> 括弧内の矢印は、それぞれ名詞化できない語彙的複合動詞と対照した名詞化できる語彙的複合動詞の割合の傾向を示す。「↓」は名詞化できる語彙的複合動詞の割合の方がより低いことを表す。

<sup>8</sup> 括弧内の矢印は、それぞれ名詞化できない語彙的複合動詞と対照した名詞化できる語彙的複合動詞の割合の傾向を示す。「↑」は名詞化できる語彙的複合動詞の割合の方が高いことを表し、「↓」は名詞化できる語彙的複合動詞の割合の方がより低いことを表す。

合が多いことは大きな特徴の一つと言え、語彙概念構造に基づく前後項動詞の意味関係は「VV型」語彙的複合動詞の名詞化において要因の一つとすることができる。また、「並列関係」の意味関係のパターンにおいて、全体として、名詞化できない語彙的複合動詞は名詞化できる語彙的複合動詞より高い割合を占め（自動詞の場合は前者の割合が後者よりほぼ倍高く、他動詞の場合は前者の割合が後者より2倍近く高い）、その差が最も大きいため、この意味関係にある語彙的複合動詞は名詞に転成しにくい傾向が強いと考えられる。したがって、名詞化できる語彙的複合動詞において、前後項動詞に「手段・原因」の意味関係を持つ合が多いことは大きな特徴の一つと言え、語彙概念構造に基づく前後項動詞の意味関係は「VV型」語彙的複合動詞の名詞化が起こることにあるインパクトファクターの一つとすることができる。

③ 前後項動詞の連用形自体の名詞化状況の視点から見ると、全体としては、前後項動詞の連用形とも単独で名詞化できる「可+可」のタイプは、名詞化できるものと名詞化できないもののいずれでも一番多い割合を占めるが、前者と後者はそれぞれ163語（64.7%）と116語（46.0%）あり、該当する名詞化できない複合動詞は全体の半数以下である。そして、語彙的複合動詞の前項か後項動詞の名詞化状況の可否（「可」／「不可」）から見ると、前項か後項動詞が名詞化できない（「不可」）語彙的複合動詞はいずれも名詞化しにくい傾向があり、前項か後項動詞が単独で名詞化できる（「可」）語彙的複合動詞は名詞化しやすい傾向が見られる。そのうち、語彙的複合他動詞の208語において、特に複合動詞の主要部である後項動詞の連用形名詞の自立性が高いほど、語彙的複合他動詞は名詞化しやすい傾向が見られる。

## 第5章 生産性が高い後項動詞を持つ名詞化可能な「VV型」 語彙的複合動詞の特徴傾向

### 5.1 はじめに

前章では、他動性調和の原則、語彙概念構造に基づく前後項の意味関係また前後項動詞の名詞化状況の三つの視点から、複合自他動詞を分けて、名詞化できる「VV型」語彙的複合動詞の特徴を考察した。本章では、語彙的複合動詞の主要部である代表的な異なる意味類の後項動詞から、名詞化可能な「VV型」語彙的複合動詞が持つ特徴分布について考察する。

### 5.2 先行研究に基づく本章後項動詞の分類

本章で後項動詞の分類を説明する前に、まずそれに関わる先行研究を簡潔に紹介する。

動詞の分類については様々な先行研究がある。その中に、Zeno Vendler (1967) の分類はよく知られている。Vendler (1967) は語彙的アスペクトによって、動詞を「状態 (states)」、「到達 (achievements)」、「活動 (activities)」、「達成 (accomplishment)」の四種類に分けた。その後、Vendler の研究は、Dowty (1979)、Foley & Van Valin (1984)、Van Valin (1990) によって更に発展した。

影山 (1996, 1997) は、これらの先行研究の成果を踏まえた上で、下の表 5-1 に示したように整理した。

表 5-1 影山 (1996, 1997) による動詞の分類とその概念構造

動詞の分類	各分類の動詞の概念構造	解釈	英語の語例
状態動詞 (stative verbs)	[y BE AT-z]	物理的な位置	stay: stay at home
		抽象的な状態	be: be healthy
到達動詞 (achievement verbs)	[y BECOME [y BE AT-z]]	状態 + BECOME	arrive: arrive in Japan
			fall: fall down the ground become: become active
活動動詞 (activity verbs)	[x ACT (ON y)]	活動	work, dance, shine
			kick, hit, kiss
達成動詞 (accomplishment verbs)	[x ACT (ON y)] CAUSE [(y) BECOME [y BE AT-z]]	活動 + 到達	break, kill, build
			put, set, hang

一方、上で触れたように、他動性調和の原則の基礎となる項構造によって、動詞を、外項を取らない非対格自動詞、外項を取る非能格自動詞と他動詞に分類した。その分類を表5-1の動詞の分類と結合した上、改めて整理して、本章が扱う後項動詞の分類を表5-2に示す。

表 5-2 先行研究に基づく後項動詞の意味分類

	後項動詞の意味分類		後項動詞の語例	名詞化可能な語彙的複合動詞の語例
非対格自動詞	状態動詞	物理的位置動詞	「～止まる」	行き止まる
		抽象的状态動詞		
	変化動詞 (到達動詞)	物理的位置変化動詞	「～上がる」	跳ね上がる
		抽象的状态変化動詞	「～変わる」	移り変わる
非能格自動詞	活動動詞		「～泣く」	忍び泣く
他動詞	活動動詞		「～壊す」	打ち壊す
	使役変化動詞 (達成動詞)	使役物理的位置変化動詞	「～倒す」	押し倒す
		使役抽象的状态変化動詞	「～古す」	使い古す
その他	変化動詞 (到達動詞)	物理的位置変化動詞	「～込む」	滑り込む
		抽象的状态変化動詞		聞き込む

上の表5-2からわかるように、後項動詞が非対格自動詞の場合、その語彙的複合動詞の概念構造によって、「状態動詞」（「物理的位置動詞」と「抽象的状态動詞」）と「変化動詞」（「物理的位置変化動詞」と「抽象的位置変化動詞」）に分類される。非能格自動詞は「活動動詞」に分類される。後項動詞が他動詞の場合、その語彙的複合動詞の概念構造によって、「活動動詞」と「使役変化動詞」（「使役物理的位置変化動詞」と「使役抽象的状态変化動詞」）に分類される。また後項動詞「込む」は前章で述べたように、特殊な類で、前に他動詞、非対格自動詞、非能格自動詞のどれが先行しても後項「込む」の意味は変わらず、「ある場所の内部に移動する」意味を持つため、変化動詞に分類する。次

節では、表 5-2 の分類を参照して、生産性が高い後項動詞を分類して論じる。

### 5.3 生産性が高い後項動詞を持つ名詞化可能な語彙的複合動詞の特徴傾向

まず、名詞化できる 252 語の語彙的複合動詞の中から、生産性が高い後項動詞を抽出する。ここでは、同じ後項を取る名詞化可能な語彙的複合動詞が 5 語以上あることを基準にして、それらの後項動詞を生産性が高い後項動詞と判定する。抽出した後項動詞を表 5-3a に示す。後項動詞後の括弧内の数字は各後項動詞を取る名詞化できる語彙的複合動詞の語数である。

表 5-3a 名詞化可能な語彙的複合動詞の中から抽出した生産性が高い後項動詞

	該当する生産性が高い（5 語以上）後項動詞
他動詞類	<u>～出す</u> (23)、 <u>～取る</u> (13)、 <u>～入れる</u> (12)、 <u>～付ける</u> (11)、 <u>～抜く</u> (8)、 <u>～上げる</u> (7)、 <u>～替える</u> (7)、 <u>～落とす</u> (6)、 <u>～合わせる</u> (6)
自動詞類	<u>～上がる</u> (6)
分類不能類	<u>～込む</u> (36)

表 5-3b 名詞化可能な語彙的複合動詞の中から抽出した生産性が高い後項動詞

分類	該当する生産性が高い（5 語以上）後項動詞
使役変化動詞類	<u>～出す</u> 、 <u>～取る</u> 、 <u>～入れる</u> 、 <u>～付ける</u> 、 <u>～抜く</u> 、 <u>～上げる</u> 、 <u>～替える</u> 、 <u>～落とす</u> 、 <u>～合わせる</u>
活動動詞類	<u>～上がる</u>
変化動詞類	<u>～込む</u> 、 <u>～上がる</u>

抽出した生産性が高い後項動詞を、その後項動詞を持つ名詞化できる語彙的複合動詞の概念構造と表 5-2 の分類を参照して分類した。表 5-3ab に示したように、抽出した生産性が高い 12 類の後項動詞のうち、自動詞類である「～上がる」以外の 11 類は他動詞である。そして、12 類は主に「使役変化動詞」類か「変化動詞」類に該当し、「活動動詞」類に該当する「～上がる」は、「飛び上がる」の場合しかない。また、生産性が高い後項動詞に「状態動詞」類は見られない。

これらの後項動詞を持つ名詞化できる語彙的複合動詞のうち、語数が特に多い、表 5-3ab

で下線で示した「～込む」(36語)、「～出す」(23語)、「～取る」(13語)、「～入れる」(12語)、「～付ける」(11語)について、また唯一の自動詞類である「～上がる」について、代表的な生産性が高い後項動詞として順次検討する。

### 5.3.1 「使役変化動詞」類の後項動詞から見る

本節では、「使役変化動詞」類に該当する後項動詞「～出す」、「～取る」、「～入れる」、「～付ける」を分析して検討する。

まず、「使役変化動詞」類に該当する後項動詞「～出す」を取る名詞化できる語彙的複合動詞の語例を見てみる。括弧内には各語例の語彙概念構造の分類を提示する。

#### ①「～出す」:

- (1) a. ララはにっこり笑って、フィリップを部屋のドアから押し出した。(手段・原因)
- b. 妹夫婦は、まさかわたしを村から追い出すようなことはしないだろう。(手段・原因)
- c. 一昨夜、ラドゥがああ場で弾丸を摘出して、銀に汚染された血を吸い出していなければ、イオンは命を落としていたかもしれない。(手段・原因)
- d. ひと言でいえば、社員と顧客との徹底的な対話から、自社の問題点を洗い出し、改善に結びつけていくのが、原田のやり方である。(手段・原因)
- e. 鯛一匹が豪快にのったつけめで、鯛を3時間煮出した汁をダシに使っており、つゆにも鯛の香りと風味が封じ込められた自信の一品だ。(手段・原因)
- f. 君が使い方さえ知っていれば、周りの立派な人々が君を見事な型に彫り上げ、真の輝きを磨き出してくれるはずだ。(手段・原因)

(1)では、同じ後項動詞「～出す」を持つ名詞化できる語彙的複合動詞の語例を提示した。その中で、(1)aの「ドアから押し出す」、(1)bの「村から追い出す」、(1)cの「血を吸い出す」の「～出す」はいずれも「使役変化動詞」類の「使役物理的位置変化動詞」であり、複合動詞全体として、それぞれ前項の意図的な使役動作によって同定された項すなわちそれらの目的語の物理的な位置の変化を起こすという意味がある。

一方、(1)dの「問題点を洗い出す」、(1)eの「鯛を煮出す」と(1)fの「輝きを磨き出す」の「～出す」は「使役物理的位置変化」を表す後項動詞ではなく、「使役変化動詞」類の「使役抽象的状态変化動詞」に該当する。「洗い出す」は「調べてから、隠されていたことを明らかにする」の意味を持ち、「煮出す」と「磨き出す」は「ある動作や動作様態によって、何かを外部や表面に出現させること」という意味を持つ。三つの語例から見ると、いずれも元々目に見えないものが前項の動詞が表す事象によって表に現れるという抽象的な状態変化を起こすため、これらの後項動詞「～出す」はいずれも使役物理的位置変化ではなく、「使役抽象的状态変化動詞」である。また、この点について、姫野(1999: 93-95)は、「～出す」を「顕在化」類のうち、さらに「顕現」、「創出」と「発見」の三つの下位分類に分けた。ここでは、語例中の「洗い出す」の「～出す」は「発見」類に属するが、「煮出す」と「磨き出す」の「～出す」は「顕現」類に属する。

例(1)の語例を含め、同じ後項動詞「～出す」を取る名詞化できる語彙的複合動詞はいずれも「手段・原因」という語彙概念構造に分類される。それは、前項動詞が表す事象が後項動詞「出す」の事象に先行するから、ということに加えて、後項動詞「出す」が「使役物理的变化動詞」と「使役抽象的状态変化動詞」すなわち「使役変化動詞」類の動詞であるからだとも考えられる。

## ② 「～取る」

(2)a. まずフタの裏側にある三角形のプラスチックの部分を切り取ってください。(手段・原因)

b. したがって、外資企業は土地の使用権を買取る。(手段・原因)

c. その言葉のなかに、なにか深い意味を読み取るべきか、どうなのかと。(手段・原因)

d. ある日、長い手紙を受け取った。(並列関係)

(2)では、同じ後項動詞「～取る」を持つ名詞化できる語彙的複合動詞の語例を示した。(2)aの「プラスチックの部分を切り取る」、(2)bの「使用権を買い取る」、(2)cの「意味を読み取る」また(2)dの「手紙を受け取る」の「～取る」はその目的語が実物(「プラスチックの部分」「手紙」)か抽象的なもの(「土の使用権」「言葉の意味」)かを問わず、

いずれも「使役変化動詞」類の「使役抽象的状态変化動詞」である。「～取る」には本来「何かをして今まで自分のところのないものを自分の所有物にする」意味(2b, 2c, 2d)があり、それが拡張されると、「それまであった場所から別のところに移す→いらぬものなどを除いて取り外すことにする」という意味になる。したがって、(2)aの「実物の部分を切ってからいらぬものにする」と、(2)bの「抽象的な権力を買うことによって自分の所有物にする」と、(2)cの「抽象的な言葉の中の意味を理解して自分のものにする」と(2)dの「手紙を自分のものにする」との後項動詞「取る」はいずれも使役物理的な位置変化を表さず、使役抽象的な状態の変化を表すため、「使役抽象的状态変化動詞」に該当する。

一方、同じ後項動詞「～取る」を持つ名詞化できる語彙的複合動詞は、語例(2)dの「受け取る」を除き、(1)後項「～出す」を取る語と同じように、「手段・原因」類の語彙概念構造を有する。それに対して(2)dは、前章で述べた「並列関係」類に該当する。それは、語彙的複合動詞の前項と後項動詞が、時間の同時性、変項の同定に加えて、それぞれが表す事象が同等な重さを持つという基準を満たすためである。「並列関係」類の複合動詞を「手段・原因」類の複合動詞と比べると、前後項動詞の間により緊密な連結が存在する。「受け取る」の前項動詞「受ける」と後項動詞「取る」は「具象的か抽象的なものを動作主が受納する或いは納得すること」というような意味を持つ同義語で「並列関係」に該当する。

### ③ 「～入れる」

(3) a. 舌を噛まないようにとハンカチを老人の乾いた唇の中に押し入れようとあわてながら。(手段・原因)

b. それは印章が国家的な政治の要素の中に組入れられて行ったということである。(手段・原因)

c. また、もしもすぐに人を雇い入れるのであれば、労災や雇用保険の適用手続きが発生しますが、これは専門分野ですから、困ることはないでしょう。(手段・原因)

d. 負けるということを受け入れられるか？(並列関係)

(3)では、同じ後項動詞「～入れる」を持つ名詞化できる語彙的複合動詞の語例を挙げた。そのうち、(3)aの「唇の中に押し入れる」の「～入れる」は「前項の使役動作である押すことによって、同定された項であるハンカチを唇の外から唇の中への物理的な位置変化を引き起こす」という意味なので、「使役物理的位置変化動詞」に分類する。一方、(3)bの「要素の中に組み入れる」と(3)cの「人を雇い入れる」の場合、「組み入れる」「雇い入れる」はそれぞれ「あるものを既にある組や体系の一部として入れる」と「ある人を雇用して会社などの集団に入れる」という意味を表し、この二つの語例にある後項動詞「～入れる」は「物や人をある集団や施設に移す」の意味を表す。移動的な意味を含有するが、移動した着点はいずれも抽象的な集団や体系などを指すため、使役の前項動詞による物理的な位置変化ではなく、抽象的な状態変化を表すと考えられる。したがって、このような語例の中の後項動詞「～入れる」は「使役抽象的な状態変化動詞」に該当する。また、最後の(3)dの「負けることを受け入れる」について、ここの「～入れる」は前項の「受ける」と同様「容認する、受諾する」という意味を表し、前文脈と結合すると「負けるという抽象的な事態を心理上で受諾する」の意味を示すため、ここでの「～入れる」も心理的な動詞、すなわち「使役抽象的な状態変化動詞」に該当する。

一方、同じ後項動詞「～入れる」を取る名詞化できる語彙的複合動詞のうち、「預け入れる」「受け入れる」の2語は前後項が同義語のため、「並列関係」の語彙概念構造であるが、(3)のabcの語例を含め、残りの12語は全て「手段・原因」の語彙概念構造である。

#### ④「～付ける」

(4) a. 数年後に時計は完成して、塔上にすえつけられた。(手段・原因)

b. 大正十二(一九二三)年ごろに登場したホーロータンクは、鉄製のタンクに、陶器に使われるものと同じ性質の釉薬を焼き付けたものです。(手段・原因)

c. まるで、あたたかい日の光をそのままそめ付けたような、見事な色でした。(手段・原因)

(4)では、同じ後項動詞「～付ける」を取る名詞化できる語彙的複合動詞の語例を挙げた。(4)aの「塔上に据え付ける」、(4)bの「釉薬を焼き付けた」と(4)c「光を染め付ける」は、

目的語の形態が変わらないか変わるか、実物か抽象的なものかを問わず、いずれも「目的語に複合動詞の前項使役動詞の作用をもたらし、元々の離れている状態からくっついている状態にする」という意味を表す。なので、いずれの後項動詞「～付ける」も「何かを何かに着させる」の意味があるといえ、後項動詞「～付ける」は「使役抽象的状态変化動詞」である。

一方、上の①「～出す」②「～取る」③「～入れる」を後項動詞として取る名詞化できる語彙的複合動詞と同じように、「～付ける」を後項動詞として持つ語彙的複合動詞も主に「手段・原因」の語彙概念構造を持つ。表 5-3b の「使役変化動詞」類の 9 種の生産性が高い後項動詞のうち、8 種の後項（～出す、～取る、～入れる、～付ける、～抜く、～上げる、～落とす、～合わせる）を持つ名詞化できる語彙的複合動詞は、ほとんど「手段・原因」類の概念構造しか持たない。このことは、これらの後項動詞が全て「使役変化動詞」類に該当して、語彙的複合動詞が表す複雑な事象の同定された項は、使役的な複雑な動作事象を通し、抽象的な状態変化か物理的な位置の変化を被るということの意味している。

### 5.3.2 「活動動詞」類の後項動詞から見る

次に、「活動動詞」類に該当する生産性が高い後項動詞を取る名詞化できる語彙的複合動詞の語例を見てみる。括弧内には各語例の語彙概念構造の分類を提示する。

#### ⑤ 「～上がる」（非能格自動詞）

(5) 私は漫画みたいにひやっと椅子から飛び上がったので、彼女はやあね、と言って少し笑った。（手段・原因）

(5)では、同じ後項動詞「～上がる」（非能格自動詞）を取る名詞化できる語彙的複合動詞「飛び上がる」の語例を提示した。(5)の「私は椅子から飛び上がる」の「飛び上がる」は「人が勢いよく飛んで高いところへ上がる」という人の意志性がある複雑な行為であるため、非能格自動詞である後項動詞「～上がる」は意志的に行動する意味を表す。そして、先行研究に基づく分類（表 5-2）によれば、非能格自動詞の後項動詞は「活動動詞」のみなので、「非能格自動詞+非能格自動詞」の組み合わせの「飛び上がる」は意志性ある「活

動動詞」類に該当する。また、前項動詞「飛ぶ」が表す事象と後項動詞「上がる」が表す事象の時間関係は前後の関係のため、「手段・原因」の概念構造である。

### 5.3.3 「変化動詞」類の後項動詞から見る

最後に、「変化動詞」類に該当する生産性が高い後項動詞「～上がる」と「～込む」を取る名詞化できる語彙的複合動詞の語例を見てみる。括弧内には各語例の語彙概念構造の分類を提示する。

#### ⑥ 「～上がる」（非対格自動詞）

(6) a. フロートの前に白い水しぶきが扇状に跳ね上がり、三人は前につんのめった。

(手段・原因)

b. 作品ができ上がったら、実際に使ってみましょう。(並列関係)

(6)では、同じ後項動詞「～上がる」を取る名詞化できる語彙的複合動詞の語例を挙げた。その中で、(6)aの「水しぶきが跳ね上がる」の場合、「跳ね上がる」は「跳ねて勢いよく高い方へ移動する」という意味を表すため、この語例にある後項動詞「～上がる」は意志性を持たない非対格自動詞であり、上で述べた先行研究に基づく分類では、「変化動詞」類の「物理的位置変化動詞」に該当する。(6)bの「作品ができ上がる」の場合、「でき上がる」は前項と後項動詞が類似している意味を持ち、全体として「すっかりできる、完成する」という意味を表す。この語例にある後項動詞「～上がる」は「そのものが極点にまで達する、完了する」という物事の状態、程度などの変化の意味を表す非意志的動詞であるため、物理的な位置変化ではなく、抽象的な状態変化を表すと考えられる。したがって、この語例の中の後項動詞「～上がる」も非対格自動詞であるが、「変化動詞」類の「抽象的な状態変化動詞」に該当する。

一方、同じ後項動詞「～上がる」（非対格自動詞）を取る名詞化できる語彙的複合動詞（5語）の語彙概念構造は、「手段・原因」の概念構造に属するのは2語であるが、「並列関係」に属するのは3語であり、他の後項動詞類の概念構造と異なる分布を示した。こ

のような分布になった理由は単に、「並列関係」類に該当する3語は前項動詞と後項動詞が類似している意味を持ち、並列関係の概念構造の条件を満たすためである。

⑦ 「～込む」

(7) a. 私たちも車に乗りこむ。(手段・原因)

b. あれこれ思案している内に、列車はもう熊本駅構内へすべりこんでいた。(手段・原因)

c. リンは白布を手早くバッグの中に押しこんだ。(手段・原因)

d. 8年間付き合っている彼が結婚を申し込んできました。(手段・原因)

(7)では、同じ後項動詞「～込む」を取る名詞化できる語彙的複合動詞の語例を挙げた。その中で、(7)aの「車に乗り込む」、(7)bの「列車は駅内へ滑り込む」と(7)cの「白布をバッグの中に押し込む」は前項動詞が非能格自動詞か非対格自動詞か他動詞かを問わず、後項動詞「込む」を取ると、それらの複合動詞の全体は「～して～の内側に入る」という意味を表すようになる。したがって、これらの三つの例における後項動詞「～込む」は「変化動詞」類の「物理的位置変化動詞」に属する。抽出した生産性が高い後項動詞のうち、「～込む」は最も多い(36語)が、それは先行する前項動詞がどのタイプの動詞でも連結することができ、そして後項動詞「～込む」自体が[x BECOME [y be in z]]という語彙概念構造を取るためであろう。また、後項動詞「～込む」は、項構造に基づく他動性調和の原則に反するが、語彙部門レベルの語彙概念構造によって説明ができる。一方、(7)dの「結婚を申し込む」の語彙的複合動詞「申し込む」は、「意志・希望などを先方に知らせる」意味を持ち、位置変化の意味を表す「～込む」はここでより抽象的な状態の変化を表すため、(7)dの「～込む」は「抽象的状态変化動詞」に該当する。

一方、(7)の語例を含め、同じ後項動詞「～込む」を取る名詞化できる語彙的複合動詞の語彙概念構造は全部「手段・原因」に分類される。その理由は、「～込む」自体は具象的な位置変化や抽象的な状態変化の意味を取り、意志性を持つ非能格自動詞、他動詞と結合すると、複合動詞の全体は手段を表す概念構造を作り、非意志性の非対格自動詞と結合すると、原因を示す概念構造になるからである。

### 5.3.4 本節のまとめ

本節では、生産性が高い後項動詞を抽出し、それらを先行研究に基づいて使役変化動詞、活動動詞と変化動詞に分けて見ると、それらの後項動詞を持つ名詞化できる語彙的複合動詞はほとんど「手段・原因」の語彙概念構造を持つことがわかった。その理由は、生産性が高い後項動詞はほぼ「使役変化動詞」と「変化動詞」類に該当し、前項動詞が表す状態、自発的な動作や使役動作などによって、具象的或いは抽象的な結果の変化が起こるため、前項と後項の間に因果関係が生じ、語彙的複合動詞全体は「手段・原因」類の概念構造を持つからである。

### 5.4 抽出した生産性が高い後項動詞を持つ名詞化不可の「VV型」語彙的複合動詞との対照

前節で抽出した名詞化できる語彙的複合動詞にある生産性が高い後項動詞について、前章で抽出した名詞化できない252語の「VV型」語彙的複合動詞のうち、これらの後項動詞を持つ語の数を調べると、下の表5-4のようになる。

表5-4 同じ後項を取る異なる名詞化状況の語彙的複合動詞の語数の対照分布

後項動詞 (全11類)	込 む	出 す	取 る	入 れ る	付 け る	抜 く	替 え る	<u>上 げ る</u>	<u>落 と す</u>	合 わ せ る	上 が る
可の語数 (計135語)	36	23	13	12	11	8	7	7	6	6	6
不可の語数 (計54語)	8	14	8	2	4	1	1	7	7	2	0

表5-4を見てわかるように、下線を引いた後項動詞「～上げる」「～落とす」以外、生産性が高い全11類の後項動詞のうち、9類（「～込む」「～出す」「～取る」「～入れる」「～付ける」「～抜く」「～替える」「～合わせる」「～上がる」）の後項を取る名詞化可能な「VV型」語彙的複合動詞の語数は、同じ後項動詞を取る名詞化不可の「VV型」語彙的複合動詞の語数より明らかに多い。

その中でも、左から7番目までの後項動詞は強い名詞化できる傾向を持っている。例え

ば、後項「～込む」を取る名詞化できる語は「～込む」を取る名詞化できない語の4倍以上の語数がある。また、後項動詞「～入れる」「～替える」「～抜く」を取る名詞化できる語の語数は、それぞれ、名詞化できない語の語数の6倍、7倍と8倍である。

そして、一番右列にある後項動詞「～上がる」は抽出した名詞化できる語で生産性が高い後項動詞類のうち唯一の自動詞であり、表5-4の統計結果から見ると、後項動詞「～上がる」を持つ名詞化できない語彙的複合動詞の語例は見られない。

また、「～上げる」と「～落とす」2種類の後項を取る名詞化可能と不可の語数の分布対照は他と異なり、同数だったり僅差だったりするが、この点について、さらに考察する必要がある。

以上の分布対照の結果から見ると、後項「～上げる」「～落とす」の2類を除き、抽出した生産性が高い後項動詞の9類は名詞化しやすい傾向が強くあることが分かる。

一方、抽出した生産性が高い後項動詞の11類からなる名詞化できる「VV型」語彙的複合動詞の語数は135語であり、全体(252語)の半数以上(53.6%)を占めるため、このことも、これらの後項動詞からなる語は名詞化しやすい傾向を持っていることを示している。

## 5.5 本章のまとめ

本章では、まず名詞化できる「VV型」語彙的複合動詞のうち、に生産性が高い後項動詞の観点から名詞化できる「VV型」語彙的複合動詞の特徴傾向を考察した結果、これらの後項動詞を取る名詞化できる語は全体として主に「手段・原因」の概念構造を持つことが明らかになった。それは、これらの後項動詞はほとんど「使役変化動詞」と「変化動詞」すなわち結果的に変化が生じることを表す動詞であり、そして前項動詞は手段や原因などの意味を表し、前項と後項動詞が因果関係を示すためである。

また、抽出した名詞化できる語で生産性が高い後項動詞の11種類について、名詞化できない「VV型」語彙的複合動詞でそれらの後項動詞を持つ語と対照した結果、後項動詞「～上げる」「～落とす」を除き、9種類（「～込む」「～出す」「～取る」「～入れる」「～付ける」「～抜く」「～替える」「～合わせる」「～上がる」）の後項動詞を持つ「VV型」語彙的複合動詞には名詞化しやすい顕著な傾向があることがわかった。一方、名詞化できない「VV型」語彙的複合動詞のうち、11種の後項動詞の中で唯一の自動詞である「～上がる」を持つ語は見られなかった。

## 第6章 「VV型」語彙的複合動詞の連用形名詞の意味や分布についての考察

### 6.1 はじめに

この章では、第三章の最後で抽出した辞書『Dual 大辞林』とコーパス（「BCCWJ」）によって連用形が単独で名詞化できる「VV型」語彙的複合動詞（自動詞44語と他動詞208語）が転成することで生じた連用形名詞全252語を取り上げ、その意味や分布について考察する。

### 6.2 本章に関わる先行研究の略述

本章で「VV型」語彙的複合動詞の連用形名詞の意味や分布について考察する前に、まずそれに関する先行研究を簡潔に述べる。

第二章の先行研究の概観の通り、今まで多くの研究者が様々な視点から動詞+動詞型の複合動詞に関する研究を行ってきた。しかし、本研究が扱う「VV型」語彙的複合動詞の名詞への転成、すなわち複合動詞の名詞化現象を含めて動詞の名詞化現象について体系的な分析をしたものは、管見の限り少ない。その中で、動詞の連用形名詞についての代表的な研究としては西尾（1961）などが挙げられる。

西尾（1961）は、動詞の連用形から形成された名詞を「連用形名詞」と呼び、この連用形名詞を「現代日本の共通語で用いられる名詞のうち動詞連用形から成り立ち、あるいは動詞連用形を含むもので、しかも、普通の言語意識において、特別の知識なしに、多少の反省意識が働けばその語構造を把握しうるもの」と定義した。そして、2.4節で言及したように、連用形名詞を形式的に、「遊び、救い」などの単純動詞の連用形名詞と「吸い飲み、出し入れ」などの複合動詞の連用形名詞のような動詞連用形だけからなる名詞と、「雪解け、届け先」などの動詞連用形を含む複合名詞の二分類に大別した。西尾（1961）によれば、形態的な面において、単純動詞の連用形という単一の形より、単純動詞連用形が他の動詞連用形か動詞以外の語と結合した形の方が動詞連用形名詞になりやすいという著しい傾向がある。換言すれば、動詞+動詞型の複合動詞や、他語+動詞型/動詞+他語型の複合動詞は単純動詞より連用形が名詞化しやすい傾向が強い。

また、西尾（1961: 70-71）は連用形名詞の意味を8類に細かく分けた。詳細は下の表6-1に示す。

表 6-1 西尾 (1961) による連用形名詞の意味分類

意味分類	具体的な内容	連用形名詞の語例
動作・作用など	動作・作用そのもの (何々スルコト)	泳ぎ、調べ、貸し出し、繰り上げ
	動作・作用の内容 (何々スルコトノコトガラ)	考え、教え、願い、悩み、祈り
	動作・作用のありさま・方法・程度・具合・感じなど	滑り (がいい)、売れ行き (がすごい)、当たり (が柔らかい)
動作・作用の所産・効果 (何々シタモノ)	他動性の動詞から (何カヲ何々シタ結果デキタモノ)	包み、貯え、揚げ、書きつけ
	自動性の動詞から (何カガ何々シタ結果デキタモノ)	余り、固まり、氷、くぼみ
動作・作用の主体 (何々スル・人。ソレ (ソノ) 人が何々スル)	主体が人である場合 (何々スル (コトヲ業トスル) 人)	どもり、掏り、見習い、酔っ払い
	主体が人以外である場合 (何々スルモノ)	流れ (=流れるもの)、妨げ (=妨害物)、支え (=支えるもの)
動作・作用の客体	(何々スルモノ・人・ソレ (ソノ) 人) ヲ何々スル)	つまみ、差し入れ、手提げ、雇い
動作・作用の手段	(何々スルタメノモノ。ソレデ何々スル)	はかり、はたき、カン切り、ネジ回し
動作・作用の向けられる目標	(何々する (タメノ) モノ。ソレニ何々スル)	こぼし、糸巻き、ようじ入れ
動作・作用の行われる場所	(何々するトコロ)	通り、受付
動作・作用の行われる時間	(何々スルトキ)	暮れ、日暮れ、夜明け、終わり

次節では、西尾 (1961) による連用形名詞の意味分類を参照した上で、抽出した「VV型」語彙的複合動詞の連用形名詞が表す意味内容について再分類を行いながら、その意味分類や分布を考察する。

### 6.3 「VV型」語彙的複合動詞の連用形名詞の分類についての考察

本節では、上で抽出した名詞化できる「VV型」語彙的複合動詞が転成した連用形名詞について、意味の面からその分類や分布を考察していく。まず、本節が扱う語彙的複合動詞が転成した連用形名詞の意味分類の方法と基準などについて説明する。

#### 6.3.1 「VV型」語彙的複合動詞の連用形名詞の意味分類

前節で述べた西尾（1961）の研究による連用形名詞の意味分類を参照した上で、抽出した「VV型」語彙的複合動詞 252 語の連用形名詞が表す意味内容を大まかに再分類する。再分類するためには、まず連用形名詞が表す意味内容を判断しなければならない。この点について、本章では辞書とコーパスを結合しながら判断する。具体的に説明すると、辞書『Dual 大辞林』に記載される語彙項目の語義と、コーパス（「BCCWJ」）や動詞や名詞など内容語の共起関係などを網羅的に表示できる検索システム「NINJAL-LWP for BCCWJ」を結合して利用し、「NINJAL-LWP for BCCWJ」とコーパス（「BCCWJ」）からわかる共起パターンのうち、使用頻度が高い順に例文（即ち現代日本語の一般言語生活で多く使用されている意味傾向を示す使用状況）を見ながら判断する。それから、それぞれの連用形名詞の意味を判断した上で再分類し、抽出した「VV型」語彙的複合動詞の連用形名詞 252 語をそれぞれの意味内容によって大まかに「動作そのもの」「動作の結果・産物」「動作の様態・状態」と「動作の場所」の4種類に分けた（表 6-2 を参照）。

表 6-2 抽出した「VV型」語彙的複合動詞の連用形名詞の再分類

連用形名詞の意味分類	該当する連用形名詞が表す意味特徴	語例
動作そのもの	ある動作や作用そのもの、方法や技法、内容など	明け渡し、預け入れ、打ち入り、押し倒し
動作の結果・所産	ある動作や作用によってできた結果やものなど	歩み寄り、言い伝え、打ち込み、出来上がり
動作の様態・状態	ある動作や作用のありさま、程度、具合など	飛び上がり、向かい合い、落ち込み
動作の場所	ある動作や作用が行われる所	行き止まり、押し入れ、突き当たり

## 6.3.2 「VV型」語彙的複合動詞の連用形名詞の意味分類についての調査結果と考察

前節の分類方法によって「VV型」語彙的複合動詞が転成した連用形名詞の意味分類についての調査結果を下の表6-3に示す。

表6-3 抽出した「VV型」語彙的複合動詞の連用形名詞の意味分類の調査結果

連用形名詞の意味分類	各分類に該当する語彙的複合動詞の連用形名詞	
動作そのものの	129語 (51.2%)	洗い出し、言い逃れ、鑄込み、打ち抜き、埋め立て、売り渡し、追い落とし、追い抜き、送り込み、送り出し、押し込め、押し倒し、押し出し、買入れ、買受け、買取り、買戻し、書き入れ、書き込み、書き取り、掛け合わせ、囲い込み、貸し出し、刈り入れ、借り入れ、刈り取り、聞き込み、聞き取り、切りさげ、切り出し、切り取り、組み合わせ、組み入れ、汲み取り、吸い出し、据え付け、染め付け、染め抜き、染め分け、叩き込み、突き落とし、突き倒し、作り付け、綴り込み、届け出、取り上げ、取り返し、取り替え、投げ込み、抜き取り、願い出、飲み込み、掃き出し、払い込み、払い戻し、引き当て、引き入れ、引き受け、引き写し、引き落とし、引き込み、引き下げ、引き抜き、封じ込め、踏み抜き、振り込み、振り分け、見送り、見立て、見取り、見習い、申し入れ、申し込み、申し出、申し渡し、持ち込み、持ち運び、揉み消し、盛り込み、雇い入れ、譲り渡し、寄せ集め、呼び出し、呼び戻し、読み聞かせ、読み取り、割り当て、割り出し、割り付け、割り振り、割り戻し、貼り付け、預け入れ、植え付け、受け入れ、受け取り、掛け持ち、締めくくり、すげ替え、継ぎ足し、付け足し、問い掛け、取り払い、働き掛け、貼り替え（張り替え）、呼び掛け、明け渡し、着替え、住み替え、備え付け、履き替え、持ち越し、持ち寄り、書き起こし、見通し、見逃し、凍え死に、死に別れ、跳ね上がり、引っ込み、行き当たり、言い争い、討ち入り、食い付き、付き添い、殴り込み、乗り越し、見回り、寄り集まり
動作の結果・所産	66語 (26.2%)	あぶり出し、言い伝え、生け捕り、受け持ち、打ち上げ、打ち込み、埋め合わせ、選り抜き、追い込み、折り込み、書き置き、書き付け、担ぎ出し、着古し、切り崩し、切り裂き、切り捨て、切り抜き、繰り出し、締め出し、刷り込み、磨り出し、裁ち落とし、使い古し、突き抜け、積み出し、詰め替え、吊り上げ、連れ込み、取り入れ、取り壊し、取り外し、煮切り、煮出し、縫い取り、寝違え、乗っ取り、払い下げ、引き上げ、引き倒し、振り掛

		け、振り出し、掘り抜き、見落とし、見切り、持ち出し、焼き付け、生き別れ、生い立ち、返り咲き、切れ込み、焦げ付き、滑り込み、出来上がり、通り抜け、成り上がり、結び付き、持ち上がり、歩み寄り、生き残り、駆け込み、立ち退き、飛び上がり、飛び下り、飛び込み、乗り込み
動作の様態・状態	51語 (20.2%)	打ち壊し、打ち出し、売り込み、売り出し、追い越し、追い出し、押し込み、押し付け、折り畳み、聞き分け、組み立て、繰り上げ、差し立て、吸い込み、せせら笑い、立て掛け、掴み取り、突き合わせ、突き出し、包み隠し、詰め込み、吊るし上げ、出迎え、取り合わせ、取り込み、泣き落とし、盗み見、はめ込み、引き合わせ、引きずり、引き付け、引き延ばし、引き剥ぎ、引き回し、引っ張り、巻き上げ、巻き込み、見開き、見分け、持ち帰り、持ち回り、居残り、移り変わり、落ち込み、跳ね返り、触れ合い、盛り上がり、立ち回り、向かい合い、忍び会い、忍び泣き
動作の場所	6語 (2.4%)	植え込み、押し入れ、突き当たり、引き出し、行き止まり、取り付き

表 6-3 は、「VV型」語彙的複合動詞が転成した連用形名詞 252 語が該当する「動作そのもの、動作の結果・所産、動作の様態・状態と動作の場所」という四つの意味分類やそれぞれの分布を示している。

その中で、意味特徴が「動作そのもの」に該当する連用形名詞は 129 語あり、全体の 51.2% を占め、最も多い。これは、語彙的複合動詞が転成してできた連用形名詞の半数以上は、元の複合動詞が表す意味特徴を受け継いで、「～すること」というような動作や作用そのものを意味するというを示している。次の例(1)を見てみよう（括弧内に各語例の意味特徴の分類を提示する）。

- (1) a. この写真は播磨横田駅周辺ですが、播磨横田周辺の田んぼはほとんど黄色く色づいていますので、もう刈り取りが始まりそうな感じです。（動作そのもの）
- b. 磁土の鑄込みによる食器の数々。（動作そのもの-方法）
- c. 栃東（押し倒し）旭鷲山 栃東は旭鷲山が足取りにきてもまったくあわてず、強烈な左おっつけから左ハズで圧倒した。（動作そのもの-技法）

例(1)には、「動作そのもの」の意味特徴を持つ連用形名詞の語例を挙げた。その中で、(1)a の「刈り取り」、(1)b の「鑄込み」と(1)c の「押し倒し」はいずれも「～すること」即

ち「動作や作用そのもの」を意味し、より細かく説明すると、三つの語例ともある動作の事象を表すが、(1)bの「鑄込み」は「溶かした金属を鑄型に流し入れて鑄物を製作する方法」の意味を表し、(1)cの「押し倒し」は「相撲で片手または両手を相手の脇の下・胸などに当てて押しあげ倒す技法」を意味するため、それぞれ方法や技法を表すという意味特徴を示す。

そして、意味特徴が「動作の結果・所産」に該当する連用形名詞は66語あり、26.2%である。すなわち、元語彙的複合動詞が転成してできた連用形名詞の約四分の一が持っている意味特徴は、転成する前の複合動詞の意味をもとに、明らかな具象的あるいは抽象的な変化によって生じた結果や結果物（所産）を示している。この場合、元複合動詞にある動態的な特性や一連の動作や作用の過程のような意味特徴は、連用形名詞を通して、結果および結果物の意味特徴に転成する。例(2)を見てみよう。

- (2) a. 車軸が折れて車が前傾したことで、車体の重心が弘毅の身体より下になったため、身体の飛び上がりはさらにひどいものになった。（動作の結果）
- b. 楽しみにしていた出来上がりを見てガックリ。（動作の結果）
- c. 居間のテーブルの上に書き置きがあった。（動作の結果-所産）
- d. インターネットは世界の民衆がお互いの結びつきを強める便利な手段を提供してくれた。（動作の結果-所産）

例(2)では、「動作の結果・所産」の意味特徴を持つ連用形名詞の語例を挙げた。そのうち、(2)aの「飛び上がり」と(2)bの「出来上がり」はそれぞれ具象的な位置の変化の結果と抽象的な状態の変化の結果の意味特徴を表すため、動作の結果の意味特徴に該当する。そして、(2)cの「書き置き」と(2)dの「結びつき」はそれぞれ具象的な結果物と抽象的な結果物を表すため、即ち「動作の結果-所産」の意味特徴を持っている。

それから、意味特徴が「動作の様態・状態」に該当する連用形名詞は51語あり、全体の20.2%である。すなわち、元語彙的複合動詞が転成してできた連用形名詞のおよそ五分の一にある意味特徴は、ある動作や作用が進行しているありさま、程度、具合などのような物理的あるいは抽象的な様態や状態を示している。よって、元語彙的複合動詞が示す動作や作用の「動態的な過程」は「動態的あるいは静態的な様態や状態」に転換し、動作や作用が発生しているありさまなどの様子や光景を表す意味を保持したまま、転成した連用形名

詞の意味合いをなしている。例(3)を見てみよう。

- (3) a. 各地に蜂起し、武器のない農民は農具で打ちこわしをした。(動作の様態)  
 b. 歯の隙間からせせら笑いを漏らした四老爺は、口を歪めて、陰険に四老媽を窺った。(動作の様態-模様)  
 c. 曾根氏は「いいから、ここにいなさい」と追い払って、僕と二人だけ、向かい合いに座り、鷹揚なポーズを作ると、見下ろすように僕を見て、言った。(動作の状態-静態)  
 d. 全国的に見ても、これだけの盛り上がりを見せている地域はない。(動作の様態-具合)

例(3)では、「動作の様態・状態」の意味特徴を持つ連用形名詞の語例を挙げた。そのうち、(3)aの「打ち壊し」と(3)b「せせら笑い」はそれぞれ動的な様態と模様の意味特徴を表すが、(3)cの「向かい合い」は静的な状態の意味特徴を表し、(3)dの「盛り上がり」は抽象的な具合という意味特徴を示すので、例(3)は「動作の様態・状態」に該当する。

また、意味特徴が「動作の場所」に該当する連用形名詞は6語しかなく、全体のわずか2.4%に過ぎない。しかし、これらの語は品詞の転成によって、動作や作用という意味特徴に加えて、立体的な動作や作用に関わる具象的な場所という意味特徴を呈している。連用形名詞の表現によって、動作や作用の意味を得るのみならず、その動作や作用に関わる空間、実物や次元などとの結びつきができるため、「言語の経済性」の原則にかなっていると考えられる。

- (4) a. 隣の敷地との境界は、植え込みになっていた。(動作の場所)  
 b. これだけでも押し入れの奥まで空気の通り道ができます。(動作の場所-着点)  
 c. 通路の突き当たりに扉がある。(動作の場所-着点)

例(4)では、「動作の場所」の意味特徴を持つ連用形名詞の語例を挙げた。そのうち、(4)aの「植え込み」は「庭などで草木を高密度に植え込んだ所」の意味があるため、動作の場所の意味特徴を持ち、(4)bの「押し入れ」と(4)cの「突き当たり」もいずれも動作が行われる場所、着点の意味特徴を持つため、「動作の場所」の意味特徴に該当する。

以上、「VV型」語彙的複合動詞が転成した連用形名詞の各意味特徴類について、例文を見ながら考察した。複合動詞が名詞に転成するプロセスを通して、複合動詞とその連用形名詞には統語的、意味的な転換が起こっている。この点について、徐（2001）は、名詞と動詞の転成は、「機能の代謝」の特性を持つ文法的なプロセスと意味を内在化される特性を持つ意味的なプロセスを経て行われると指摘している。このことは、本研究が扱う日本語における「VV型」語彙的複合動詞が名詞に転成する現象に対しても同様に当てはまる。

### 6.3.3 「VV型」語彙的複合動詞の概念構造の視点から連用形名詞の意味分布を見る

第四章では、影山・由本（1997）の語彙概念構造（LCS）に基づき、抽出した名詞化できる「VV型」語彙的複合動詞の前後項の意味関係を、前後項の時間関係のもとに「並列関係」「付帯状況」「手段・原因」と「補文構造」の四つに分けた。本節では、語彙的複合動詞における概念構造即ち前後項の意味関係類のそれぞれについて、該当する複合動詞の連用形名詞の意味分布を見ていく。

### 6.3.4 「VV型」語彙的複合動詞の概念構造の視点から見る連用形名詞の意味分布の考察

まず、「並列関係」類の語彙的複合動詞において、各連用形名詞の意味分類に該当する連用形名詞の分布を表6-4で見えていく。

表 6-4 「並列関係」類の語彙的複合動詞における連用形名詞の意味分布

連用形名詞の意味分類	各分類に該当する語彙的複合動詞の連用形名詞	
動作そのもの	17語 (58.6%)	預け入れ、植え付け、受け入れ、受け取り、掛け持ち、締めくり、すげ替え、継ぎ足し、付け足し、問い掛け、取り払い、働き掛け、貼り替え（張り替え）、呼び掛け、死に別れ、言い争い、付き添い
動作の結果・所産	7語 (24.1%)	生き残り、受け持ち、立ち退き、出来上がり、通り抜け、成り上がり、結び付き
動作の様態・状態	5語 (17.2%)	折り畳み、立て掛け、居残り、触れ合い、盛り上がり

表 6-4 を見ると、元複合動詞が「並列関係」類である「受け取り、出来上がり、折り畳み」などの連用形名詞は計 29 語あるが、そのうち連用形名詞の意味特徴が「動作そのもの」

の」に属するものは19語あり、元複合動詞が「並列関係」に該当する全体の58.6%を占め、「動作の結果・所産」と「動作の様態・状態」に属するものはそれぞれ7語(24.1%)と5語(17.2%)ずつあることがわかる。元複合動詞の前後項が類似した意味を持つ場合、或いは同等な重さを持つ異なる動作や作用などを表している場合、転成した連用形名詞は「動作の場所」という意味特徴を持ちにくい。

表6-5 「付帯状況」類の語彙的複合動詞における連用形名詞の意味分布

連用形名詞の意味分類	各分類に該当する語彙的複合動詞の連用形名詞	
動作そのものの	7語 (41.2%)	明け渡し、着替え、住み替え、備え付け、履き替え、持ち越し、持ち寄り
動作の結果・所産	4語 (23.5%)	生け捕り、繰り出し、詰め替え、生き別れ
動作の様態・状態	6語 (35.3%)	繰り上げ、盗み見、見開き、持ち回り、忍び会い、忍び泣き

表6-5では、前後項の意味関係が「付帯状況」を持つ元語彙的複合動詞の17語について、転成した「忍び会い、盗み見、詰め替え」のような連用形名詞の意味分布を示した。その中で、連用形名詞の意味特徴が「動作そのもの」に属する語は7語あり、元複合動詞が「付帯状況」に該当する17語全体の41.2%であるが、「動作の結果・所産」と「動作の様態・状態」の意味特徴を持つ連用形名詞も、それぞれ4語(23.5%)と6語(35.3%)ある。一方、「動作の場所」の意味特徴を取る語は見当たらない。また、他の概念構造類内の分布と異なり、最高位を占める意味特徴類は「動作そのもの」だが、二番目の意味特徴類は「動作の結果・所産」ではなく「動作の様態・状態」であり、最も多い「動作そのもの」と1語しか違わない。「付帯状況」類の概念構造を取る語彙的複合動詞が転成した各連用形名詞の意味分類は全体として緩い分布が見られる。

表 6-6 「手段・原因」類の語彙的複合動詞における連用形名詞の意味分布

連用形名詞の意味分類	各分類に該当する語彙的複合動詞の連用形名詞	
動作そのもの	102 語 (50.7%)	洗い出し、言い逃れ、鑄込み、打ち抜き、埋め立て、売り渡し、追い落とし、追い抜き、送り込み、送り出し、押し込め、押し倒し、押し出し、買い入れ、買い受け、買い取り、買い戻し、書き入れ、書き込み、書き取り、掛け合わせ、囲い込み、貸し出し、刈り入れ、借り入れ、刈り取り、聞き込み、聞き取り、切りさげ、切り出し、切り取り、組み合わせ、組み入れ、汲み取り、吸い出し、据え付け、染め付け、染め抜き、染め分け、叩き込み、突き落とし、突き倒し、作り付け、綴じ込み、届け出、取り上げ、取り返し、取り替え、投げ込み、抜き取り、願い出、飲み込み、掃き出し、払い込み、払い戻し、引き当て、引き入れ、引き受け、引き写し、引き落とし、引き込み、引き下げ、引き抜き、封じ込め、踏み抜き、振り込み、振り分け、見送り、見立て、見取り、見習い、申し入れ、申し込み、申し出、申し渡し、持ち込み、持ち運び、揉み消し、盛り込み、雇い入れ、譲り渡し、寄せ集め、呼び出し、呼び戻し、読み聞かせ、読み取り、割り当て、割り出し、割り付け、割り振り、割り戻し、貼り付け、凍え死に、跳ね上がり、引っ込み、行き当たり、討ち入り、食い付き、殴り込み、乗り越し、見回り、寄り集まり
動作の結果・所産	53 語 (26.4%)	あぶり出し、言い伝え、打ち上げ、打ち込み、埋め合わせ、選り抜き、追い込み、折り込み、書き置き、書き付け、担ぎ出し、着古し、切り崩し、切り裂き、切り捨て、切り抜き、締め出し、刷り込み、磨り出し、裁ち落とし、使い古し、突き抜け、積み出し、吊り上げ、連れ込み、取り入れ、取り壊し、取り外し、煮切り、煮出し、縫い取り、寝違え、乗っ取り、払い下げ、引き上げ、引き倒し、振り掛け、振り出し、掘り抜き、持ち出し、焼き付け、生い立ち、返り咲き、切れ込み、焦げ付き、滑り込み、持ち上がり、歩み寄り、駆け込み、飛び上がり、飛び下り、飛び込み、乗り込み
動作の様態・状態	40 語 (19.9%)	打ち壊し、打ち出し、売り込み、売り出し、追い越し、追い出し、押し込み、押し付け、組み立て、差し立て、吸い込み、せせら笑い、掴み取り、突き合わせ、突き出し、包み隠し、詰め込み、吊るし上げ、出迎え、取り合わせ、取り込み、泣き落とし、はめ込み、引き合わせ、引きずり、引き付け、引き延ばし、引き剥ぎ、引き回し、引っ張り、巻き上げ、巻き込み、見分け、持ち帰り、移り変わり、落ち込み、跳ね返り、立ち回り、向かい合い
動作の場所	6 語 (3.0%)	植え込み、押し入れ、突き当たり、引き出し、行き止まり、取り付き

表 6-6 では、前後項の意味関係が「手段・原因」である元語彙的複合動詞の 201 語について、転成してできた「押し倒し、煮出し、移り変わり、行き止まり」などのような連用形名詞の意味分布を示した。語彙概念構造による割合が最も大きい「手段・原因」類の語彙的複合動詞において、転成した連用形名詞が「動作そのもの」の意味特徴を表す語は 102 語であり、「手段・原因」に該当する元複合動詞全体の半数以上 (50.7%) を占める。そして、「動作の結果・所産」と「動作の様態・状態」の意味特徴を表す連用形名詞はそれぞれ 53 語 (26.4%) と 40 語 (19.9%) あり、そのうち「動作の結果・所産」は、元複合動詞前後項が他の意味関係を持つ場合の同じ意味特徴の割合より高い。一方、抽出した「VV型」語彙的複合動詞が転成した連用形名詞の 252 語のうち、「動作の場所」の具象的な意味特徴に分類される語はわずか 6 語に過ぎない。

表 6-7 「補文構造」類の語彙的複合動詞における連用形名詞の意味分布

連用形名詞の意味分類	各分類に該当する語彙的複合動詞の連用形名詞	
動作そのもの	3 語 (60.0%)	書き起こし、見通し、見逃し
動作の結果・所産	2 語 (40.0%)	見落とし、見切り

表 6-7 では、前後項の意味関係が「補文構造」を持つ元語彙的複合動詞から転成した「書き起こし、見落とし」などのような連用形名詞の意味分布を示した。該当する動詞はそもそも 5 語しかないが、表 6-5 を見てわかるように、連用形名詞の意味特徴も 2 種類しかなく、それぞれ「動作そのもの」が 3 語、「動作の結果・所産」が 2 語という分布になっている。一方、「動作の様態・状態」と「動作の場所」の意味特徴を取る語は見当たらない。

表 6-8 各語彙概念構造 (LCS) 分類の語彙的複合動詞における連用形名詞の意味分布

連用形名詞の 意味分類 \ 複合動詞の LCS 分類	並列関係	付帯状況	手段・原因	補文構造
動作そのもの	17 語 (58.6%)	7 語 (41.2%)	102 語 (50.7%)	3 語 (60.0%)
動作の結果・所産	7 語 (24.1%)	4 語 (23.5%)	53 語 (26.4%)	2 語 (40.0%)
動作の様態・状態	5 語 (17.2%)	6 語 (35.3%)	40 語 (19.9%)	該当なし
動作の場所	該当なし	該当なし	6 語 (3.0%)	該当なし

本節では、「VV型」語彙的複合動詞の概念構造の視点から、四つの概念構造ごとに、語彙的複合動詞が転成した連用形名詞の意味特徴の分類や分布を考察した。

考察した結果をまとめた表 6-8 から見ると、「並列関係」「付帯状況」「手段・原因」「補文構造」という各概念構造を持つ語彙的複合動詞が転成した連用形名詞は、割合が高い順に「動作そのもの」、「動作の結果・所産」、「動作の様態・状態」（「補文構造」以外の概念構造を持つ複合動詞にある）と「動作の場所」（「手段・原因」の概念構造を持つ複合動詞のみにある）という意味特徴を表し、全体として表 6-3 に示した各意味特徴の分布と類似している傾向が見られるが、「付帯状況」類内の連用形名詞の意味特徴の分布は他のタイプより大分緩い。

そして、いずれの概念構造を持つ複合動詞も「動作そのもの」と「動作の結果・所産」の意味特徴の連用形名詞に転成することができる。そのうち、「動作そのもの」の意味分類は各概念構造の複合動詞が最も転成しやすい連用形名詞のタイプであり、いずれも各概念構造類のおよそ 5 割を占めるが、抽出した語彙的複合動詞の全体から見ると、「並列関係」の概念構造を持つ複合動詞は「動作そのもの」の意味特徴の連用形名詞（17 語）に転成しやすい傾向があることがわかる。一方、各語彙概念構造の複合動詞のうち、「手段・原因」類と「付帯状況」類に該当する複合動詞はそれぞれ「動作の結果・所産」と「動作の様態・状態」の意味特徴の連用形名詞に比較的転成しやすい傾向が見られる。

また、動詞が名詞に転成するプロセスにおいても、「言語が意味を伝達する場合には、

言語を使用する人間の労力をできるだけ少なくしよう」という言語の「経済性」(The Economy Principle: *Be quick and easy*) のメタ原理が働いている (Leech, Geoffrey N. 1983: 67・風間喜代三他 2004: 70-71・石井隆之 2009)。複合動詞の語彙概念構造から見ると、「並列関係」は主に同時に行っている二つの動作の事象を表し、「付帯状況」は主にある状態や様態を付随しながら行っている動作の事象を表し、「手段・原因」(x cause y become z) はある原因、道具や手段によってある結果をもたらす事象を表している。これらの語彙概念構造はすべて1語でありながら、同じ1語の単位で、「手段・原因」の場合は、語彙概念構造のより広い範囲を捉えてより多くの要素を表現することができる。このため、「手段・原因」の概念構造を持つ複合動詞の方が、ほかの概念構造(「並列関係」と「付帯状況」)より、名詞に転成するプロセスにより高い効率が期待できると考えられる。

#### 6.4 本章のまとめ

本章では、抽出した名詞化できる「VV型」語彙的複合動詞(自動詞44語と他動詞208語)が転成してできた連用形名詞全252語を中心に、その意味特徴の分類や分布について考察した。考察の結果、転成した連用形名詞は割合が高い順に、「動作そのもの」、「動作の結果・所産」、「動作の様態・状態」と「動作の場所」の4種類に分けられるが、「動作そのもの」は4つの概念構造のいずれでも最も転成しやすい連用形名詞の意味特徴類であることが明らかになった。一方、各概念構造の複合動詞が転成した状況の結果に差異も存在し、「手段・原因」の概念構造を持つ語彙的複合動詞のみが「動作の場所」の意味特徴の連用形名詞に転成できる一方、「補文構造」の概念構造を持つ語彙的複合動詞が転成した連用形名詞は「動詞そのもの」「動詞の結果・所産」の意味特徴しか持たず、「動作の様態・状態」と「動作の場所」の意味特徴を持つ語は見当たらない。

## 第7章 結論

### 7.1 研究成果

本研究は、主にデータベース『複合動詞レキシコン』における「VV型」語彙的複合動詞を中心に取り上げ、それらの連用形が名詞に転成する状況を辞書とコーパスで調査し、名詞化できる「VV型」語彙的複合動詞について、さらに他動性調和の原則、語彙概念構造(LCS)などの視点に基づき、前後項動詞の構造、意味関係や前後項の名詞化の状況を考察した。以下に、本研究の成果をまとめる。

第1章は序章であり、研究の目的、考察の対象と論文の構成を紹介した。

第2章では、主に日本語の動詞+動詞型の複合動詞における多様な複合動詞の種類や結合条件に関する体系的な研究と複合動詞の前後項の意味関係や構成要素の意味用法に関する意味論的研究と動詞連用形の名詞化についての代表的な先行研究を概観した。

第3章では、辞書『Dual大辞林』とコーパス「BCCWJ」を利用して、国立国語研究所が開発したデータベース『複合動詞レキシコン』から得られた全1594語の「VV型」語彙的複合動詞を中心に、その連用形の名詞化の状況を統計的に考察した。考察の結果として、「VV型」語彙的複合動詞のうち、辞書とコーパスのいずれでも名詞化できるものは269語あり、全体として名詞に転成できる比率は低く、その中で、語彙的複合他動詞は語彙的複合自動詞より名詞化しやすいことが明らかになった。また、名詞化可能な語彙的複合動詞のうち、連用形名詞の自立性が高い傾向が見られた(辞書とコーパスの両方でも「名詞化可」に属する自動詞は44語で、他動詞は208語)。本研究では基準を統一するために、辞書とコーパスの両方で自立的な名詞化が確認できる語彙的複合動詞252語(自動詞44語+他動詞208語)を中心に内在的な特徴を考察して分析した。

第4章では、抽出した「VV型」語彙的複合動詞252語(自動詞44語+他動詞208語)の特徴を他動性調和の原則による前後項動詞の構造、語彙概念構造(LCS)による前後項動詞の意味関係と前後項動詞の名詞化状況の三つの視点から体系的に調査して分析し、ランダムに抽出した同じ語数の名詞化できない「VV型」語彙的複合動詞と対照した。考察の結果、以下のことがわかった。

① 他動性調和の原則に基づく前後項動詞の構造の視点から見ると、全体として、語彙

的複合動詞の中において、名詞化の可否を問わず、最も多いタイプは多い順に「他動詞＋他動詞」(↓)<sup>9</sup>、「非対格自動詞＋非対格自動詞」(↓)、「非能格自動詞＋非能格自動詞」(↓)であり、複合他動詞、複合非意志的自動詞、複合意志的自動詞でも同様のことが言える。そして、これらはいずれも他動性調和の原則に従っている。一方、他動性調和原則に違反する語も多少ある。そのうち、後項「分類不能(込む)」からなる「VV型」語彙的複合動詞はほかの前後項動詞構造のタイプより、かなり名詞化しやすい傾向が見られる。全体として、他動性調和の原則による前後項の構造は語彙的複合動詞の連用形が名詞化しやすいかどうかを決める前提条件や決定要因にはなっていない。

② 語彙概念構造に基づく前後項動詞の意味関係の視点から見ると、全体として、自他性を問わず、名詞化できる語彙的複合動詞には類似している分布が見られ、割合が高い順にそれぞれ「手段・原因」(↑)<sup>10</sup>、「並列関係」(↓)、「付帯状況」(↓)、「補文構造」(↑)（複合他動詞のみにあるタイプ）となっている。そのうち、語彙的複合自動詞と語彙的複合他動詞はいずれも「手段・原因」の分類に該当する語が最も多く、それぞれ7割近くと8割以上を占める。これは、ほかのタイプより、「手段・原因」のタイプに該当する語彙的複合動詞が名詞に転成するプロセスの方が、より言語の経済性に適合しているためだと考えられる。したがって、名詞化できる語彙的複合動詞において、前後項動詞に「手段・原因」の意味関係を持つ場合が多いことは大きな特徴の一つと言え、語彙概念構造に基づく前後項動詞の意味関係は「VV型」語彙的複合動詞の名詞化が起こりやすい要因の一つとすることができる。他方、「並列関係」の意味関係のパターンは、名詞化できない語彙的複合動詞では名詞化できる語彙的複合動詞におけるよりも高い割合を占め（前者が後者より2倍近く高い）、その差が最も大きいため、この意味関係にある語彙的複合動詞は名詞に転成しにくい傾向が強いと考えられる。

③ 前後項動詞の連用形自体の名詞化状況の視点から見ると、全体としては、前後項動詞の連用形が両方とも単独で名詞化できる「可＋可」のタイプは、名詞化できるものと名詞化できないもののいずれでも一番多い割合を占める。語彙的複合動詞の前項か後項動詞の名詞化状況の可否（「可」／「不可」）によって分けると、前項か後項動詞が名詞化できない（「不可」）語彙的複合動詞はいずれも名詞化しにくい傾向があり、前項か後項動

<sup>9</sup> 括弧内の矢印は、それぞれ名詞化できない語彙的複合動詞と対照した名詞化できる語彙的複合動詞の割合の傾向を示す。「↓」は名詞化できる語彙的複合動詞の割合の方がより低いことを表す。

<sup>10</sup> 注釈10と同じ。

詞が単独で名詞化できる（「可」）語彙的複合動詞は名詞化しやすい傾向が見られる。そのうち、語彙的複合他動詞の208語においては、特に複合動詞の主要部である後項動詞の連用形名詞の自立性が高いほど、語彙的複合動詞が名詞化しやすい傾向が見られる。

第5章では、まず名詞化できる「VV型」語彙的複合動詞を構成する動詞の中で、生産性が高い後項動詞の視点から、語彙的複合動詞の特徴傾向を考察した。これらの後項動詞を持つ名詞化できる複合動詞は全体として主に「手段・原因」の概念構造を持っている。それは、これらの後項動詞はほとんどが「使役変化動詞」か「変化動詞」、すなわち結果的に変化が生じることを表す動詞であり、手段や原因などの意味を表す前項動詞と結合して、前項と後項動詞が因果関係を示すためである。また、名詞化できない「VV型」語彙的複合動詞の中で、これら生産性が高い後項動詞を持つ語と対照した結果、後項動詞「～上げる」「～落とす」を除き、9種類（「～込む」「～出す」「～取る」「～入れる」「～付ける」「～抜く」「～替える」「～合わせる」「～上がる」）の後項動詞を持つ「VV型」語彙的複合動詞には名詞化しやすい顕著な傾向があることがわかった。

第6章では、名詞化できる「VV型」語彙的複合動詞が転成してできた連用形名詞全252語を中心に、その意味特徴の分類や分布について考察した。考察の結果、転成した連用形名詞の意味を「動作そのもの」、「動作の結果・所産」、「動作の様態・状態」、「動作の場所」の4種類に分けると、どの概念構造の複合動詞であっても、「動作そのもの」が最も転成しやすい連用形名詞の意味特徴類であり、特に、「手段・原因」類では他のタイプより名詞への転成率が高いことがわかった。一方、「動作の場所」の意味特徴を持つ連用形名詞に転成できるのは「手段・原因」類の語彙的複合動詞のみであり、他方、「補文構造」類の語彙的複合動詞が転成した連用形名詞は「動作そのもの」「動作の結果・所産」の意味特徴しか持たず、「動作の様態・状態」と「動作の場所」の意味特徴分類は見当たらない。

## 7.2 今後の課題

本研究での考察が不十分であったり、取り上げることができなかつたりした問題について以下に述べる。

まず、データの抽出については、本研究では基準を統一するために、辞書とコーパスのいずれでも自立的に名詞化できる「VV型」語彙的複合動詞を抽出した。しかし、辞書は適時性に欠けるため、現代日本語の状況を全て把握することがむずかしい。そのため、今後

の研究では、データの抽出について、さらに拡大する必要がある。前述のコーパスの調査で本研究の対象とならなかった語も含めて考察することが求められる。

次に、名詞化できる「VV 型」語彙的複合動詞の分類については、より確実にするために、母語話者によって確認し、さらに細かく分類するべきである。そして、それらの分類に該当する語彙的複合動詞について、形態論、統語論や語形成論などの視点から、深く研究する必要がある。

最後に、「VV 型」語彙的複合動詞とその連用形名詞の意味変化についても、さらに考察する必要がある。

以上述べた点に関しては、今後の課題とする。

## 参考文献

- 浅尾仁彦 (2007) 「複合語の生産性と文法的性質」 『日本言語学会第 134 回大会予稿集』  
pp. 416-421
- 池上嘉彦 (1978) 『意味の世界—現代言語学から見る』 日本放送出版協会
- 李暲洙 (イキョンス) (1997) 「中間的複合動詞「きる」の意味用法の記述—本動詞「切る」と前項動詞「切る」、後項動詞「一切る」と関連づけて」 『世界の日本語教育 日本語教育論集』 7 pp. 219-232
- 石井隆之 (2009) 「言語と経済性のメタ原理に関する一考察」 『生駒経済論叢』 7 pp. 825-847
- 石井正彦 (1983) 「現代語複合動詞の語構造分析における一観点」 『日本語学』 2-8 明治書院 pp. 79-90
- 石井正彦 (1983) 「現代語複合動詞の語構造分析—<動作>・<変化>の観点から—」 『国語学研究』 23[3] 東北大学文学部国語学研究刊行会 pp. 32-43
- 石井正彦 (1984) 「複合動詞の成立—V+V タイプの複合名詞との比較—」 『日本語学』 3-11 明治書院 pp. 81-94
- 石井正彦 (1988) 「辞書に載る複合動詞・載らない複合動詞」 『日本語学』 7-5 明治書院 pp. 33-43
- 石井正彦 (1992) 「動詞の結果性と複合動詞」 『国語学研究』 31 pp. 76-88
- 石井正彦 (2007) 『現代日本語の複合語形成論』 ひつじ書房
- 伊藤たかね・杉岡洋子 (2002) 『語の仕組みと語形成』 研究社
- 今井忍 (1993) 「複合動詞後項の多義性に対する認知意味論によるアプローチ—「～出す」の起動の意味を中心にして—」 『言語学研究』 12 京都大学言語学研究会 pp. 1-24
- 岡部玲子他 (編) (2021) 『言語研究の楽しさと楽しみ: 伊藤たかね先生退職記念論文集』 開拓社
- 岡村正章 (1995) 「「典型的な動詞連用形名詞」に関する一考察」 『上智大学国文学論集』 (28) 上智大学 pp.73-89
- 奥津敬一郎 (1974) 『生成日本文法論 名詞句の構造』 大修館書店
- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』 ひつじ書房
- 影山太郎 (1996) 「活動動詞の意味構造」 『人文論究』 45(4) 関西学院大学 pp. 99-115
- 影山太郎 (1996) 『動詞意味論—言語と認知の接点—』 くろしお出版
- 影山太郎 (1999) 『形態論と意味』 くろしお出版
- 影山太郎 (編) (2001) 『日英対照 動詞の意味と構文』 大修館書店

- 影山太郎 (2008) 「語彙概念構造 (LCS) 入門」『レキシコンフォーラム』(4) ひつじ書房 pp. 239-264
- 影山太郎 (編) (2011) 『日英対照 名詞の意味と構文』大修館書店
- 影山太郎 (編) (2013) 『複合動詞研究の最先端—謎の解明に向けて—』ひつじ書房
- 影山太郎 (2013) 「語彙的複合動詞の新体系—その理論的・応用的意味合い—」影山太郎 (編) 『複合動詞研究の最先端 謎の解明に向けて』ひつじ書房 pp. 3-46
- 影山太郎・沈力 (編) (2012) 『日中 理論言語学の展望 3 語彙と品詞』くろしお出版
- 影山太郎・由本陽子 (1997) 『語形成と概念構造』研究社
- 風間喜代三他 (2004) 『言語学 第2版』東京大学出版会
- 金美淑 (2003) 「連用形名詞」『日本語論究 7』和泉書院 pp. 299-320
- 金美淑 (2007) 『日本語の連用形名詞』(田島毓堂編『語彙研究会叢書 7』) 語彙研究会 pp. 1-304
- 金田一春彦 (1950) 「国語動詞の一分類」『言語研究』15 日本言語学会 pp.48-63
- 金田一春彦 (1976) 『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
- 工藤真由美 (2014) 『現代日本語ムード・テンス・アスペクト論』ひつじ書房
- 国広哲弥 (2002) 「意味とは何か」『國文學：解釈と教材の研究』47-11 學燈社 pp. 6-12
- 斎藤倫明 (1985) 「複合動詞後項の接辞化—「返す」の場合を対象として—」『国語学』(140) 日本語学会 pp. 120-132
- 斎藤倫明 (1992) 『現代日本語の語構成論的研究—語における形と意味』ひつじ書房
- 斎藤倫明・石井正彦 (1997) 『日本語研究資料集語構成』ひつじ書房
- 志賀里美・竹内直也 (2013) 「複合動詞の名詞化の意味特徴に関する一考察」対照言語行動学研究会発表論文概要
- 瀧豊丹 (2023) 近刊「連用形が名詞化できる語彙的複合自動詞の特徴に関する一考察」『名古屋言語研究』第17号 名古屋言語研究会
- 杉村泰 (2005) 「コーパスを利用した複合動詞「-忘れる」、「-落とす」、「-漏らす」の意味分析」『日本語教育』34 韓国日本語教育学会 pp. 63-80
- 杉村泰 (2006) 「コーパスを利用した複合動詞「-直す」の意味分析」『言語文化論集』28 (1) 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 pp. 51-66
- 杉村泰 (2006) 「コーパスを利用した複合動詞「-直す」の意味分析」『言語文化論集』28 (2) 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 pp. 87-101
- 杉村泰 (2007) 「複合動詞との共起から見た日本語の心理動詞の再分類」『二〇〇七年日本語教學國際會議論文集』東呉大学日本語文学系 pp. 427-438
- 杉村泰 (2007) 「複合動詞「-返す」の多義分析」『日本語教育』38 韓国日本語教育学会

- pp. 139-160
- 杉村泰 (2010) 「コーパスを利用した複合動詞「一尽きる」の意味分析」『言語文化論集』  
32(2) 名古屋大学言語文化研究会 pp. 49-60
- 杉村泰 (2010) 「コーパスを利用した複合動詞「一回す」の意味分析」『言語文化論集』  
32(1) 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 pp. 33-49
- 杉村泰 (2011) 「コーパスを利用した複合動詞「一回る」の意味分析」『言語文化論集』  
32(2) 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 pp. 17-32
- 杉村泰 (2012) 「コーパスを利用した複合動詞「V1-通す」の意味分析」『言語文化論集』  
34(1) 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 pp. 47-59
- 杉村泰 (2013) 「コーパスを利用した複合動詞「V1-抜く」の意味分析」『言語文化論集』  
35(1) 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 pp. 49-63
- 杉村泰 (2016) 「複合動詞の意味記述に関する一考察」『ことばの科学』(30) 名古屋大学  
言語文化研究会 pp. 127-145
- 鈴木重幸 (1963) 「文法教育の今日の段階」『教育』13-12 教育科学研究会 pp. 39-44
- 鈴木智美 (2014) 「現代日本語における対応する動詞形のない V1+V2 型複合名詞—辞書  
に基づくリスト化—」『日本語・日本学研究』第4号 東京外国語大学国際日本研究セ  
ンター pp. 95-109
- 谷口秀治 (2006) 「動詞連用形の用法について」『大分大学国際教育研究センター紀要』  
第3号 pp. 57-66
- 陳奕廷・松本曜 (2018) 『日本語語彙的複合動詞の意味と体系：コンストラクション形態  
論とフレーム意味論』ひつじ書房
- 陳劫憐 (2013) 「語彙的複合動詞と統語的複合動詞の連続性について—「～出す」を対  
象として—」影山太郎 (編) 『複合動詞研究の最先端—謎の解明に向けて』ひつじ書  
房 pp. 47-73
- 陳世娟 (2004) 「単純和語動詞の名詞化について—『日葡辞書』を中心に—」『東洋大学  
大学院紀要』41 pp. 313-328
- 寺村秀夫 (1969) 「活用語尾・助動詞・補助動詞とアスペクト—その一—」『日本語・日  
本文化』(1) 大阪外国語大学 pp. 32-48
- 寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版
- 寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 寺村秀夫 (1991) 『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版
- 中村その子 (1998) 「日本語複合動詞の意味形成と特性：言語認知の立場から」『経営・  
情報研究：多摩大学研究紀要』(2) pp. 66-155
- 長嶋善郎 (1976) 「複合動詞の構造」『日本語講座4 日本語の語彙と表現』大修館書店 pp.

63-104

- 長嶋善郎 (1997) 「複合動詞の構造」 斎藤倫明・石井正彦編『語形成』ひつじ書房 pp. 213-231
- 新美和昭・山浦洋一・宇津野登久子 (1987) 『外国人のための日本語例文・問題シリーズ 4 複合動詞』荒竹出版 pp. 1-4
- 西尾寅弥 (1961) 「動詞連用形の名詞化に関する一考察」『国語学』(43) pp. 60-81
- 姫野昌子 (1975) 「複合動詞・「～つく」と「～つける」」『日本語学校論集』2 東京外国語大学 pp. 52-71
- 姫野昌子 (1976) 「複合動詞の「～あがる」, 「あげる」および下降を表す複合動詞類」『日本語学校論集』3 東京外国語大学 pp. 91-122
- 姫野昌子 (1977) 「複合動詞「～でる」と「～だす」」『日本語学校論集』4 東京外国語大学 pp. 71-95
- 姫野昌子 (1978) 「複合動詞「～こむ」および内部移動を表す複合動詞類」『日本語学校論集』5 東京外国語大学 pp. 47-70
- 姫野昌子 (1980) 「複合動詞「～きる」と「～ぬく」, 「～とおす」」『日本語学校論集』7 東京外国語大学 pp. 23-46
- 姫野昌子 (1982) 「対称関係を表す複合動詞: 「～あう」と「～あわせる」をめぐって」『日本語学校論集』9 東京外国語大学 pp. 17-52
- 姫野昌子 (1999) 『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房 pp. 18-19
- 姫野昌子 (2001) 「複合動詞の性質」『日本語学』20-9 明治書院 pp. 6-15
- 姫野昌子 (2018) 『新版 複合動詞の構造と意味用法』研究社
- 松田文子 (2000) 「日本語学習者による語彙習得: 差異化・一般化・典型化の観点から」『世界の日本語教育 日本語教育論集』10 pp. 73-89
- 松田文子 (2001) 「コア図式を用いた複合動詞後項「～こむ」の認知意味論的説明」『日本語教育』111 日本語教育学会 pp. 16-25
- 松田文子 (2002) 「複合動詞研究の概観とその展望: 日本語教育の視点からの考察」『言語文化と日本語教育』2002 年増刊特集号 pp. 170-184
- 松田文子 (2002) 「日本語学習者による複合動詞「～こむ」の習得」『世界の日本語教育 日本語教育論集』12 pp. 43-62
- 松田文子 (2004) 『日本語複合動詞の習得研究: 認知意味論による意味分析を通して』ひつじ書房
- 松田文子 (2006) 「コア図式を用いた複合動詞習得支援のための基礎研究—「とり～」を事例として—」『世界の日本語教育 日本語教育論集』16 pp. 35-51
- 松本曜 (1998) 「日本語の語彙的複合動詞における動詞の組み合わせ」『言語研究』114 pp.

37-83

- 森田良行 (1994) 『動詞の意味論的文法研究』 明治書院
- 山本清隆 (1984) 「複合動詞の格支配」 『都大論究』 21 東京都立大学国語国文学会 pp. 32-49
- 山田孝雄 (1936) 『日本文法学概論』 宝文館
- 由本陽子 (1996) 「語形成と語彙概念構造—日本語の『動詞+動詞』の複合語形成について—」 奥田博之教授退官記念論文集刊行会 (編) 『言語と文化の諸相—奥田博之教授退官記念論文集—』 英宝社 pp. 105-118
- 由本陽子 (1997) 「複合動詞を作る『～直す』の意味と構造—英語の接頭辞 re-との相違を参考に—」 『言語と文化の対話』 英宝社 pp. 177-191
- 由本陽子 (2005) 『複合動詞・派生動詞の意味と統語』 ひつじ書房
- 由本陽子 (2015) 「日本語複合名詞の意味解釈メカニズム」 『言語文化共同研究プロジェクト』 大阪大学大学院言語文化研究科 pp. 79-88
- 由本陽子 (2017) 「日本語の複合動詞研究の回顧と再考」 『言語文化共同研究プロジェクト』 大阪大学大学院言語文化研究科 pp. 99-108
- 由本陽子 (2020) 「語形成における語彙意味素性の役割」 『言語文化共同研究プロジェクト』 大阪大学大学院言語文化研究科 pp. 59-68
- 李钟善 (2009) 「日语复合动词的构词特征」 『长春师范学院学报 (人文社会科学版)』 2 pp. 115-120
- 刘艳萍 (1995) 「複合動詞の構成制限に関する考察」 『天津外国语学院学报』 3 pp. 71-79
- 沈晨 (2013) 「日本語連用形名詞の自立性の段階について」 『第4回コーパス日本語学予稿集』 国立国語研究所 pp. 151-158
- 沈丰丹・孙杨 (2022) 「日语学习者复合动词构成及认知情况调查研究」 『现代语言学 (Modern Linguistics)』 10-11 汉斯出版社(Hans Publishers) pp. 2757-2765
- 徐盛桓 (2001) 「名动转用与功能代谢」 『外语与外语教学』 8 pp. 2-5
- 张高远 (2008) 「认知语法视角下的动名化结构式」 『四川外国语学院学报』 1 pp. 50-55
- 张楠 (2020) 「“单一路径限制”规则与日语复合动词构词分析」 『日语学习与研究』 5 pp. 33-39
- 张颖 (2014) 「现代汉语中动词做名词的兼类与活用」 『哈尔滨师范大学社会科学学报』 4 pp. 86-89
- Dowty, David R. (1979) *Word Meaning and Montague Grammar*, Springer Dordrecht
- Foley, William A. & Van Valin, Jr., Robert D. (1984) *Functional Syntax and Universal Grammar* (Cambridge studies in linguistics, 38), Cambridge University Press
- Givón, T. (2001) *Syntax Vol. II*, Oxford University Press
- Jackendoff, Ray S. (1992) *Semantic Structures*, The MIT Press

- Langacker, Ronald W. (1991) *Foundations of Cognitive Grammar Vol. II*, Stanford University Press
- Leech, Geoffrey N. (1983) *Principles of Pragmatics*, Routledge
- Sugioka, Youko (2000) Incorporation vs. Modification in Japanese Deverbal Compounds, *Japanese / Korean Linguistic (CSLI)* 10, pp. 496-509
- Van Valin, Jr., Robert D. (1990) Semantic Parameters of Split Intransitivity, *Language* 66(2), pp. 221-260
- Vendler, Zeno (1967) *Linguistics in Philosophy*, Cornell University Press

### 辞書類・辞典

- 『Dual 大辞林 Web 版』 松村明 編 (<http://djr1.dual-d.net>) 三省堂 データバージョン 2015.07
- 『広辞苑第七版 デジタル版』 新村出 編 (<https://sp.kojien.mobi>) 岩波書店 データバージョン 2018

### データベース

- 国立国語研究所『複合動詞レキシコンデータベース』 (<https://vvlexicon.ninjal.ac.jp>) データバージョン 1.11

### コーパスと例文の出典

- 国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 データバージョン 2021.03 (中納言 2.4.5)
- 国立国語研究所と Lago 言語研究所「NINJAL-LWP for BCCWJ」 データバージョン 1.40

## 謝辞

本論文を完成させるにあたり、多くの方に感謝の意を表します。

まず、本論文をまとめるにあたり、終始暖かい励ましとご指導をいただいた、指導教員及び主査を務めてくださった名古屋大学人文学研究科の佐久間淳一先生に深謝します。ご多忙中でもいつもお時間を作っていただき、全体の構成から細部の論述まで労を惜しまずご指導頂きました。長期にわたり、相談に乗って頂く度に丁寧なコメントをくださり、さらに何度も修正したものを確認して頂き、感謝の言葉しかありません。先生のご指導がなければ博士論文の完成は期待できなかったと思います。名古屋大学大学院文学研究科元教授町田健先生には、ご助言をいただいたことに心より感謝申し上げます。

そして、副査を務めてくださった、同じく名古屋大学人文学研究科言語文化コース所属の齋藤文俊先生、宮地朝子先生にも、貴重なコメントをたくさん頂戴し、感謝の意を表します。

また、(旧)文学研究科言語学専門に在学していた、いつも優しく暖かく対応していただいた久保田一充氏、久保田樹氏、Utari Novella 氏、馬勝超氏、人文学研究科に在学していた桑忠林氏、譚詩蕾氏、李玉潔氏、在学中の劉卓婷氏、賈伊明氏、そして家族のように見守っていただいた揚州大学外国語学院の孫楊先生には、熱心な支援と数多くの貴重なご助言をいただいたことを心より感謝申し上げます。

最後に、常に笑顔で支え、論文を完成させる力の源になってくれたパパママの二村賢次・秀子氏、父、母と友達に心を込めて深い謝意を表させて頂きたいと思います。

## 付録I 『複合動詞レキシコン』から抽出した非意志的複合自動詞のまとめ

遊び疲れ る	あふれ落 ちる	あふれ出 る	現れ出る	慌てふた めく	行き当た る	行き通う	行き着く
行き止ま る	生き別れ る	居残る	射り付け る	入り混じ る	浮かび上 がる	浮かび出 る	浮か上がる
浮き出る	打ち上が る	打ち負け る	移り変わ る	写り込む	移り行く	埋まり込 む	生まれ落 ちる
生まれ育 つ	生まれつ く	生まれ出 る	えぐり込 む	生い茂る	生い立つ	覆いかぶ さる	おごり高 ぶる
押し掛か る	恐れおの のく	落ち掛か る	落ち重な る	落ちこぼ れる	落ち込む	驚き呆れ る	思い当た る
思い至る	思い浮か ぶ	思い及ぶ	思い乱れ る	思い煩う	折り重な る	折れ上が る	折れ込む
折れ下が る	折れ曲が る	返り咲く	輝き出る	勝ち誇る	絡まり付 く	絡み付く	消え失せ る
消え去る	切れ上が る	切れ落ち る	切れ込む	切れ下が る	食い込む	崩れ落ち る	崩れ掛か る
朽ち衰え る	くびれ込 む	繰り上が る	繰り合わ す	繰り下が る	消し飛ぶ	蹴つまず く	焦げ付く
凍え死ぬ	こびり付 く	こぼれ落 ちる	こぼれ出 る	凝り固ま る	転がり落 ちる	転がり込 む	転がり出 る
転がり回 る	転げ落ち る	転げ込む	転げ出る	転げ回る	探し当て る	咲き出る	咲き残る
探り回る	裂け広が る	差し入る	さまよい 込む	去り行く	沈み込む	したたり 落ちる	死に絶え る
死に別れ る	染み入る	染み込む	染み付く	染み出る	吸い付く	過ぎ去る	進み入る

すすり泣く	滑り入る	滑り落ちる	滑り降りる	滑り込む	滑り出る	ずり上がる	ずり落ちる
ずり下がる	擦り切れる	ずり下がる	ずり出る	擦り減る	ずれ込む	迫り来る	迫り上がる
そそけ立つ	そそり立つ	そびえ立つ	反り返る	倒れ掛かる	たぎり落ちる	漂い出る	立ちすくむ
垂れ掛かる	垂れ下がる	ちぎれ落ちる	散り急ぐ	散り落ちる	散り掛かる	散り込む	突き刺さる
突き立つ	突き出る	突き通る	付け加わる	伝い落ちる	伝わり落ちる	突っ立つ	積み上がる
積み重なる	釣り上がる	吊り下がる	吊るし上がる	出来上がる	出揃う	照り輝く	通り過ぎる
通り抜ける	説き及ぶ	溶け合う	溶け入る	溶け込む	溶け出る	飛び入る	飛び散る
飛び付く	飛び出る	流れ入る	流れ落ちる	流れ下る	流れ来る	流れ去る	流れ着く
流れ出る	泣き明かす	泣き崩れる	泣き暮らす	泣き濡れる	泣き伏す	なだれ落ちる	悩み苦しむ
並び立つ	成り上がる	鳴り響く	煮えたぎる	煮崩れる	煮こぼれる	滲み込む	滲み出る
にじり込む	抜け上がる	抜け落ちる	脱げ落ちる	抜け替わる	濡れそぼつ	寝返る	寝転がる
寝転ぶ	寝静まる	ねじ曲がる	粘り付く	寝ぼける	のし上がる	のっ掛かる	伸び上がる
上り着く	飲み騒ぐ	生え茂る	生え揃う	禿げ上がる	剥げ落ちる	外れ落ちる	話し疲れる
離れ落ちる	離れ去る	跳ね上がる	跳ね返る	跳ね込む	はまり込む	張り裂ける	張り付く

光り輝く	引きこも る	引き下が る	引きつる	引っ込む	吹き上が る	吹き入る	吹き下ろ す
吹きこぼ れる	吹き募る	吹き出る	吹き飛ぶ	膨れ上が る	ふざけ掛 かる	踏みこた える	踏み迷う
降り落ち る	降り掛か る	降り込む	降り籠め る	降り積も る	触れ合う	へたり込 む	へばり付 く
ほとぼし り出る	舞い上が る	舞い落ち る	舞い降り る	舞い込む	舞い立つ	舞い出る	舞い昇る
曲がりく ねる	まかり出 る	まかり通 る	巻き上が る	巻き起こ る	巻き付く	紛れ入る	紛れ込む
まくれ上 がる	混じり込 む	まつわり 付く	まとわり 付く	迷い入る	迷い込む	迷い出る	回り込む
乱れ飛ぶ	満ちあふ れる	満ち足り る	むくれ上 がる	結び付く	咽び泣く	群れ立つ	群れ飛ぶ
めくれ上 がる	めくれ込 む	めり込む	燃え移る	燃え落ち る	萌え出る	燃え広が る	もがき苦 しむ
潜り込む	持ち上が る	持ちこた える	もつれ込 む	盛り上が る	漏れ落ち る	漏れ聞こ える	漏れ伝わ る
焼き付く	焼け落ち る	焼け焦げ る	焼け出さ れる	焼け付く	やせ衰え る	やせこけ る	やせ細る
茹でこぼ れる	酔い狂う	酔い潰れ る	喜び勇む	寄せ来る	呼び習わ す	よろけ込 む	よろけ出 る
沸き上が る	沸き起こ る	湧き出る	笑い興じ る				

## 付録II 『複合動詞レキシコン』から抽出した意志的複合自動詞のまとめ

遊び暮らす	遊び戯れる	甘え掛かる	歩み出る	歩み寄る	言い争う	言い及ぶ	言い寄る
生き残る	挑み掛かる	浮かれ歩く	浮かれ出る	動き回る	歌い回る	討ち入る	打ち掛かる
打ち勝つ	移り住む	売り歩く	追いすが る	追い付く	起き上がる	起き直る	襲い掛かる
追っ付く	躍り上がる	躍り掛かる	躍り込む	躍り出る	泳ぎ着く	泳ぎ出る	泳ぎ渡る
降り立つ	帰り着く	駆け入る	駆け下り る	駆け下る	駆け比べ る	駆け込む	駆け去る
駆け抜ける	駆け登る	駆け戻る	駆け寄る	かじり付 く	語り明か す	勝ち上がる	切り掛かる
食い付く	くぐり込 む	くぐり抜 ける	組み付く	食らい付 く	蹴り掛か る	漕ぎ着け る	漕ぎ出る
漕ぎ上る	こごみ掛 かる	媚びへつ らう	さまよい 出る	騒ぎ回る	しけ込む	慕い寄る	しなだれ 掛かる
忍び会う	忍び入る	忍び込む	忍び出る	忍び泣く	忍び寄る	しゃぶり 付く	じゃれ掛 かる
進み出る	擦り寄る	攻め入る	攻め掛か る	攻め込む	攻めのぼ る	攻め寄る	抱き付く
尋ね歩く	立ち去る	立ち止ま る	立ち退く	立ちはだ かる	立ち働く	立ちふさ がる	立ち回る
立てこも る	辿り着く	談じ込む	掴み掛か る	突き入る	突き掛か る	付き添う	突っ掛か る
詰め寄る	連れ歩く	出歩く	閉じ籠も る	怒鳴り込 む	飛び上が る	飛び移る	飛び起き る

飛び下り る	飛び掛か る	飛び越え る	飛び込む	飛び下が る	飛び去る	飛び退く	飛び乗る
飛び離れ る	飛び跳ね る	飛び回る	取りすが る	取り付く	流れ歩く	泣き込む	泣き叫ぶ
鳴き騒ぐ	泣きすが る	泣き付く	泣き寝入 る	泣き喚く	殴り掛か る	殴り込む	嘆き明か す
嘆き暮ら す	名乗り出 る	逃げ失せ る	逃げ落ち る	逃げ下る	逃げ込む	逃げ去る	逃げ散る
逃げ出る	逃げ延び る	逃げ惑う	逃げ回る	にじり出 る	にじり寄 る	抜け出る	練り歩く
逃れ去る	逃れ出る	のさばり 出る	のし掛か る	飲み潰れ る	のめり込 む	乗り入る	乗り移る
乗り掛か る	乗り越え る	乗り越す	乗り込む	乗り回る	這い上が る	這い入る	這い降り る
這い込む	はいずり 回る	這い出る	這い上る	這い回る	這い寄る	入り込む	走り込む
走り去る	走り着く	走り出る	走り抜け る	走り回る	走り寄る	馳せ下る	馳せ参じ る
馳せ上る	馳せ戻る	話し明か す	話しかけ る	跳ね起き る	跳ねのく	跳ね回る	踏み入る
踏み越え る	振り向く	吠え掛か る	吠え付く	見回る	向かい合 う	むしゃぶ り付く	もたれ掛 かる
寄っ掛か る	寄り集ま る	寄り掛か る	寄り添う	分け入る	喚き叫ぶ		

## 付録Ⅲ 『複合動詞レキシコン』から抽出した複合他動詞のまとめ

仰ぎ見る	明け払う	明け渡す	嘲り笑う	与り知る	預け入れ る	暴き出す	あぶり出 す
編み合わ せる	編み入れ る	編み込む	編み付け る	洗い落と す	洗い清め る	洗い出す	洗い流す
併せ持つ	言い当て る	言い表す	言い交わ す	言い聞か せる	言いくる める	言い消す	言い込め る
言い捨て る	言い足す	言い繕う	言い伝え る	言い逃れ る	言い退け る	言い残す	言い含め る
言い伏せ る	言い触ら す	言い古す	言い負か す	射落とす	生け替え る	生け捕る	射込む
鑄込む	射抜く	いぶし出 す	いぶり出 す	忌み嫌う	入れ込め る	入れ混ぜ る	植え替え る
植え込む	植え付け る	うかがい 知る	受け入れ る	請け負う	受け継ぐ る	受け付け る	受け伝え る
受け止め る	受け取る	受け流す	受け持つ	受け渡す	うずめ込 む	歌い古す	打ち上げ る
打ち落と す	打ち返す	打ち砕く	打ち込む	打ち殺す	打ち壊す	打ち出す	打ち付け る
打ち取る	打ち鳴ら す	打ち抜く	打ちのめ す	討ち果た す	討ち滅ぼ す	打ち負か す	打ち割る
移し入れ る	移し植え る	移し替え る	写し込む	映し出す	移し取る	写し取る	訴え出る
奪い去る	奪い取る	生まれ持 つ	生み落と す	生み出す	生み付け る	埋め合わ せる	埋め込む
埋め立て る	売り込む	売りさば く	売り出す	売り回る	売り渡す	描き込む	描き出す

えぐり出す	えぐり取る	選び出す	選び取る	選び抜く	選り分ける	追い上げる	追い入れる
追い落とす	追い返す	追い越す	追い込む	追い出す	追い散らす	追い抜く	追い求める
追い遣る	覆い隠す	覆いかぶせる	置き忘れる	送り返す	送り込む	送り出す	送り届ける
押し開ける	押し上げる	押し当てる	押し入れる	教え諭す	教え育てる	教え導く	押し込む
押し込める	押し下げる	押し沈める	押し進める	推し進める	押し倒す	押し出す	押し立てる
押し付ける	押し潰す	押し通す	押しとどめる	押し止める	押し流す	押しのける	押し量る
押し開く	押し曲げる	押し戻す	押し破る	押しやる	押し分ける	押し付ける	追っ払う
おっぼり出す	落とし入れる	落とし込む	脅し取る	おびき入れる	おびき出す	思い合わせる	思い描く
思い起こす	思い焦がれる	思い定める	思い知る	思い悩む	思い残す	思い迷う	織り込む
折り込む	織り出す	折り畳む	織りなす	折り曲げる	織り交ぜる	買い集める	買い入れる
買い受ける	掻い込む	買い込む	買い揃える	買い足す	掻き出す	買い整える	買い取る
飼い慣らす	買い戻す	買い求める	抱え上げる	抱え入れる	抱え下りる	抱え下ろす	抱え込む
抱え出す	掻き上げる	掻き集める	嗅ぎ当てる	書き著す	書き表す	書き入れる	掻き入れる
書き写す	書き置く	書き起こす	掻き落とす	掻き下ろす	書き加える	書き込む	掻き込む

書き記す	書き捨てる	書き添える	書き足す	書きためる	書き付ける	書き潰す	書き連ねる
書き留める	書き取る	嗅ぎ取る	掻き鳴らす	書き抜く	書き残す	掻き混ぜる	嗅ぎ回る
掻き乱す	掻きむしる	掻き分ける	嗅ぎ分ける	隠し込む	隠し持つ	駆け上がる	掛け合わせる
駆け巡る	掛け持つ	囲い入れる	囲い込む	重ね上げる	貸し与える	貸し出す	かじり散らす
かすめ取る	稼ぎ出す	数え入れる	語り聞かせる	語り継ぐ	語り伝える	勝ち得る	勝ち進む
勝ち取る	担ぎ上げる	担ぎ入れる	担ぎ下ろす	担ぎ込む	担ぎ出す	担ぎ回る	かなぐり捨てる
兼ね備える	かぶせ込む	噛み切る	噛み砕く	噛み潰す	噛み分ける	醸し出す	絡み付ける
絡め取る	駆り集める	刈り入れる	借り入れる	借り受ける	刈り落とす	借り込む	借り倒す
駆り出す	借り出す	刈り取る	考え出す	感じ取る	着替える	着飾る	聞き入れる
聞き込む	聞き知る	聞き出す	聞きただす	聞きとがめる	聞き取る	聞き古す	聞き分ける
着崩す	刻み入れる	刻み込む	刻み出す	刻み付ける	着せ替える	着せ掛ける	着せ付ける
着古す	切り起こす	切り落とす	切り刻む	切り崩す	切り殺す	切り裂く	切りさげる
切り捨てる	切り倒す	切り出す	切り詰める	切り取る	切り抜く	切り離す	切り払う
切り開く	切り伏せる	切り回す	切り結ぶ	切り分ける	切り揃える	食い荒らす	食い切る

食い倒す	食い散らす	食いつなぐ	食い潰す	くぐり入る	括り付ける	くけ込む	口説き落とす
汲み上げる	組み合わせる	組み合わせる	汲み入れる	組み入れる	汲み下ろす	酌み交わす	汲み込む
組み込む	組み敷く	組み立てる	汲み取る	組み伏せる	汲み干す	組み分ける	繰り上げる
繰り合わせる	繰り入れる	繰り下げる	繰り出す	くり抜く	繰り広げる	くるみ込む	加え入れる
くわえ込む	蹴落とす	消し止める	削り落とす	削り出す	削り取る	蹴散らす	蹴飛ばす
蹴破る	蹴り上げる	蹴り入れる	蹴り込む	蹴り転がす	蹴り倒す	蹴り出す	蹴り飛ばす
恋い焦がれる	恋い慕う	乞い願う	漕ぎ上がる	漕ぎ入れる	こき落とす	漕ぎ下ろす	漕ぎ出す
扱き使う	扱き混ぜる	漕ぎ戻す	扱き開ける	漕ぎ出す	こしらえ出す	こすり入れる	こすり落とす
こすり込む	こすり付ける	こそげ落とす	探し出す	探し回る	探し求める	探し当てる	探し出す
下げ渡す	差し立てる	差し付ける	刺し貫く	刺し通す	差し招く	誘い入れる	誘い込む
誘い出す	さらい上げる	さらい込む	さらい出す	さらえ出す	さらけ出す	さらし出す	しごき出す
沈め込む	縛り付ける	絞り入れる	絞り出す	絞り取る	仕舞い込む	染み付ける	締めくくる
絞め殺す	示し与える	締め出す	しゃべり回る	背負い込む	招じ入れる	吸い上げる	吸い込む
吸い出す	吸い付ける	吸い取る	吸い寄せる	据え付ける	透かし出す	漉き込む	掬いあげる

救い上げ る	掬い入れ る	掬い出す	救い出す	掬い取る	すげ替え る	すげ替わ る	すすり込 む
滑り落と す	住み荒ら す	住み替え る	ずり上げ る	摺り入れ る	ずり落と す	すり下ろ す	ずり下ろ す
擦り消す	刷り込む	擦り込む (摺り込 む)	刷り出す	磨り出す	擦り付け る	擦り潰す	擦り抜け る
擦り減ら す	擦りむく	せせら笑 う	攻め落と す	責め落と す	責め苛む	攻め取る	攻め減ぼ す
競り上げ る	迫り上げ る	競り落と す	煎じ出す	そぎ落と す	そぎ取る	注ぎ入れ る	注ぎ掛け る
注ぎ込む	備え付け る	染め出す	染め付け る	染め抜く	染め分け る	剃り落と す	抱き上げ る
抱き起こ す	抱き下ろ す	抱き抱え る	炊き込む	薫き込め る	抱き止め る	抱き寄せ る	たくし上 げる
たくし入 れる	たくし込 む	たくり上 げる	たぐり入 れる	たぐり込 む	たぐり出 す	助け上げ る	助け起こ す
助け下ろ す	助け出す	尋ね出す	叩き入れ る	叩き起こ す	叩き落と す	叩き込む	叩き壊す
叩き出す	叩き付け る	叩き飛ば す	畳み込む	裁ち落と す	断ち切る	断ち割る	立て掛け る
立て切る	食べ荒ら す	食べ散ら かす	だまし取 る	ちぎり取 る	使い捨て る	使い慣ら す	使い古す
使い減ら す	掴み上げ る	掴み入れ る	掴み下ろ す	掴み出す	掴み取る	突き開け る	突き当た る
突き当て る	突き合わ す	突き合わ せる	継ぎ合わ せる	突き入れ る	突き動か す	突き落と す	突き固め る
突き切る	突き崩す	突き砕く	突き込む	つぎ込む	突き殺す	突き刺す	突き倒す

突き出す	継ぎ足す	注ぎ足す	突き立て る	突き付け る	突き通す	突き飛ば す	突き抜く
突き抜く る	突き放す	搦き交ぜ る	突き戻す	突き破る	作り付け る	付け加え る	漬け込む
付け足す	付けねら う	伝え聞く	つつき出 す	突っ切る	突っ立て る	突っ放す	突っぱね る
包み隠す	包み込む	繋ぎ合わ す	繋ぎ合わ せる	繋ぎ止め る	つまみ上 げる	つまみ入 れる	つまみ出 す
積み上げ る	積み入れ る	積み重ね る	積み込む	積み出す	摘み取る	詰め替え る	詰め込む
吊り上げ る	釣り上げ る	釣り落と す	吊り下ろ す	釣り込む	吊り下げ る	つり出す	吊るし上 げる
連れ帰る	連れ込む	連れ去る	連れ出す	連れ回る	連れ戻す	出迎える	照らし合 わす
照らし合 わせる	照らし出 す	問い合わ す	問い掛け る	問いただ す	溶かし入 れる	溶かし込 む	溶かし出 す
解き明か す	説き明か す	溶き入れ る	説き落と す	説き聞か す	説き聞か せる	溶き込む	研ぎ澄ま す
説き付け る	解き放す	解き放つ	説き伏せ る	研ぎ減ら す	解きほぐ す	綴じ合わ せる	綴じ込む
閉じ込め る	綴じ付け る	届け出る	飛び越す	留め付け る	取り上げ る	取り集め る	取り合わ せる
取り入れ る	取り押さ える	取り下ろ す	取り返す	取り替え る	取り込む	取り籠め る	取り殺す
取り壊す	取り捨て る	取り出す	取り逃が す	取り逃す	取りのけ る	取り除く	取り外す
取り離す	取り払う	取り戻す	取り寄せ る	取り分け る	流し入れ る	流し打つ	流し込む

流し出す	眺め暮らす	泣き落とす	薙ぎ倒す	薙ぎ払う	泣き腫らす	殴り殺す	殴り倒す
投げ上げる	投げ与える	投げ入れる	投げ落とす	投げ返す	投げ掛ける	投げ込む	投げ捨てる
投げ倒す	投げ出す	投げ飛ばす	成し遂げる	なすり込む	なだめかす	撫で上げる	撫で下ろす
撫でつける	悩み明かす	習い覚える	握り込む	握り潰す	煮切る	煮出す	煮含める
にらみ合わせる	縫い合わせる	縫い合わせる	縫い込む	縫い繕う	縫い付ける	縫い取る	脱ぎ捨てる
抜き出す	脱ぎ散らかす	脱ぎ散らす	抜き取る	拭い取る	盗み聞く	盗み去る	盗み出す
盗み取る	盗み見る	塗り隠す	塗り固める	塗り消す	塗り込む	塗り込める	塗り付ける
塗り潰す	願い出る	ねじ開ける	ねじ上げる	ねじ伏せる	ねじ曲げる	ねじ向ける	ねじり上げる
寝違える	狙い打つ	練り合わせる	練り合わせる	練り固める	練り込む	覗き見る	乗っ取る
飲み下す	飲み比べる	飲み込む	飲み倒す	飲みつぶす	飲み干す	乗り過ごす	乗り捨てる
乗り継ぐ	乗り潰す	乗り慣らす	乗り古す	計り知る	掃き集める	掃き入れる	履き下ろす
履き替える	掃き清める	掃き込む	掃き捨てる	吐き捨てる	履き捨てる	掃き出す	吐き出す
掃きためる	吐き散らす	剥ぎ取る	履き古す	吐き戻す	掃き寄せる	運び上げる	運び入れる
運び下ろす	運び込む	運び去る	運び出す	運び回る	挟み上げる	挟み入れる	挟み切る

挟み込む	挟み出す	弾き出す	弾き飛ばす	はたき落とす	働き掛ける	跳ね上げる	跳ね返す
撥ね飛ばす	撥ねのける	はめ入れる	はめ込む	払い落とす	払い込む	払い下げる	払い出す
払いのける	払い戻す	払い渡す	張り上げる	貼り合わせる	貼り替える	貼り込む	張り倒す
貼り出す	貼り付ける	引き上げる	引き当てる	引き合わせる	引き入れる	引き受ける	引き写す
引き落とす	引き下ろす	引き比べる	引き込む	轆き殺す	引き裂く	引き下げる	引きずり上げる
引きずり入れる	引きずり落とす	引きずり下ろす	引きずり込む	引きずり出す	引きずり回す	引きずる	引き倒す
引き出す	引きちぎる	引き付ける	引き詰め	引き連れる	引きとどめる	引き止める	弾き鳴らす
引き抜く	引き延ばす	引き剥がす	引き剥ぐ	引き外す	引き離す	引き回す	引きむしめる
引き戻す	引き破る	引き寄せる	浸し入れる	引っ込める	引っ張り上げる	引っ張り入れる	引っ張り下ろす
引っ張り込む	引っ張り出す	引っ張る	ひねくり出す	ひねり上げる	ひねり入れる	ひねり殺す	ひねり出す
拾い上げる	拾い集める	拾い出す	封じ込む	封じ込める	吹き入れる	拭き落とす	吹き掛ける
吹き消す	吹き散らす	吹き飛ばす	拭き取る	吹き鳴らす	吹き払う	含み込む	伏し拝む
踏み荒らす	踏み入れる	踏み下ろす	踏み固める	踏み砕く	踏み消す	踏み殺す	踏み壊す
踏み倒す	踏み出す	踏み散らす	踏み潰す	踏み均す	踏み鳴らす	踏みにじる	踏み抜く

踏み外す	踏み破る	踏み分け る	振り仰ぐ	振り上げ る	振り入れ る	振り動か す	振り落と す
振り下ろ す	振り掛け る	振り込む	振り出す	振り飛ば す	振り放す	振り払う	振りほど く
振り撒く	振り回す	振り乱す	振り向け る	振り分け る	奮い起こ す	ふるい落 とす	ふれ回る
踏ん付け る	へし折る	放り上げ る	放り落と す	放り込む	放り出す	放り投げ る	干し固め る
ほじくり 出す	ほっぼり 出す	褒めそや す	誉め称え る	掘り当て る	彫り入れ る	掘り入れ る	掘り起こ す
掘り崩す	掘り込む	掘り出す	掘り抜く	舞い上げ る	舞い納め る	巻き上げ る	巻き入れ る
巻き起こ す	巻き込む	撒き散ら す	巻き付け る	巻き取る	巻き戻す	まくし上 げる	まくり入 れる
曲げ込む	混ぜ合わ せる	混ぜ入れ る	混ぜ返す	混ぜ込む	待ち明か す	待ちくた びれる	待ち暮ら す
待ち焦が れる	祭り上げ る	まつり付 ける	招き入れ る	招き込む	招き寄せ る	まぶし込 む	まぶし付 ける
丸め込む	見出だす	見送る	見落とす	見下ろす	見切る	見比べる	見知る
見捨てる	見立てる	導き入れ る	導き出す	見て取る	見通す	見とがめ る	見取る
見習う	見慣れる	見逃す	見計らう	見放す	見開く	見遣る	見分ける
迎え入れ る	迎え撃つ	迎え取る	むしり取 る	結び合わ す	結び合わ せる	結び付け る	めくり上 げる
召し入れ る	召し抱え る	召し出す	申し入れ る	申し聞か す	申し聞か せる	申し込む	申し出る
申し述べ る	申し渡す	もぎ取る	もたせ掛 ける	持ち倦む	持ち上げ る	持ち歩く	持ち帰る

持ち替える	持ち崩す	持ち越す	持ち込む	持ち去る	持ち出す	持ち運ぶ	持ち回る
持ち寄る	揉み入れる	揉み消す	揉み込む	揉み出す	揉みほぐす	もらい受ける	盛り上げる
盛り入れる	盛り込む	守り立てる	漏れ承る	漏れ聞く	焼き捨てる	焼き付ける	養い育てる
雇い入れる	やり過ごす	やり遂げる	結い付ける	譲り与える	譲り受ける	揺すり落とす	譲り渡す
茹でこぼす	揺り上げる	揺り動かす	揺り起こす	揺り落とす	結わえ上げる	結わえ付ける	酔い潰す
寄せ集める	寄せ入れる	寄せ掛ける	呼び集める	呼び入れる	呼び起こす	呼び返す	呼び掛ける
呼び交わす	呼び込む	呼び出す	呼び止める	呼び回る	呼び迎える	呼び戻す	呼び寄せる
呼び捨てる	読み聞かせる	詠み込む	読み進む	読み進める	読み取る	読み流す	読み古す
選り出す	選り抜く	分かち与える	分かち持つ	分け与える	渡り歩く	笑い飛ばす	割り当てる
割り入れる	割り出す	割り付ける	割り引く	割り振る	割り戻す		